

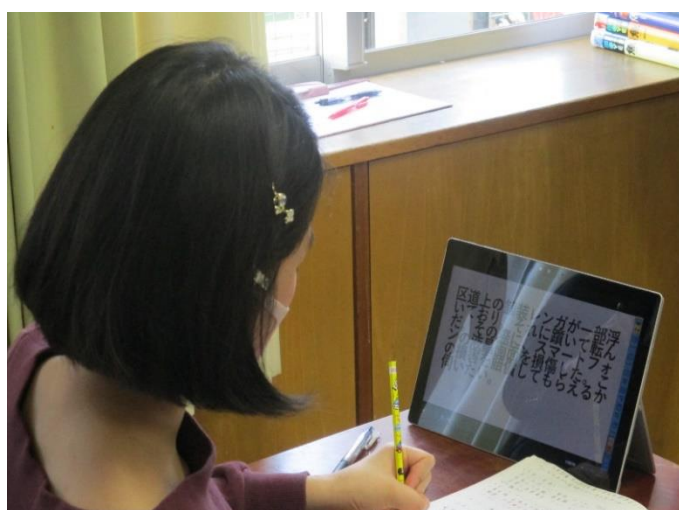
令和元年度

研究紀要

国立教育政策研究所教育課程研究指定校（小学校社会）1年次

研究主題

社会的事象の見方・考え方を働かせて、学習問題を協働的に追究する社会科学習
～主体的に学習に取り組む態度の育成を踏まえた指導と評価の工夫を通して～



新宿区立四谷小学校

目 次

はじめに	校 長 石井 正広・・・・・・・・・・1
I 研究の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
II 各学年の実践	
◆生活科（低学年分科会の取組）	・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
○第1学年	
单元名 「つくろうあそぼう」	・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
○第2学年	
单元名 「もっと なかよし まちたんけん」	・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
◆社会科	
○第3学年	
单元名 「わたしたちの暮らしと販売の仕事」	・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
单元名 「新宿区の移り変わり」	・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
○第4学年	
单元名 「水害から暮らしを守る」	・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
单元名 「世界とつながる大田区」	・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
○第5学年	
单元名 「情報を活用して発展する販売業」	・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
○第6学年	
单元名 「長く続いた戦争と新しい日本の国づくり」	・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
单元名 「わたしたちの暮らしと日本国憲法」	・・・・・・・・・・・・・・・・・・77
III 研究部会のまとめ	
○自己学習部会	・・・・・・・・・・・・・・・・・・85
○協働的学習部会	・・・・・・・・・・・・・・・・・・87
○学習技能部会	・・・・・・・・・・・・・・・・・・89
○学習評価部会	・・・・・・・・・・・・・・・・・・91
IV 研究のまとめ	
○児童のアンケート分析	・・・・・・・・・・・・・・・・・・94
○成果と課題	・・・・・・・・・・・・・・・・・・95
おわりに	副校長 岩澤 肇
研究に携わった教職員	

はじめに

校長 石井 正広

平成 29 年 3 月に学習指導要領が告示、平成 30 年 2 月に小学校学習指導要領解説が出版されました。今回の改訂は、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む」という理念の基に、新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実、新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善という方向性が示されました。

小学校社会科においても、教科目標そのものが改善されるたいへん大きな改訂でした。小学校学習指導要領解説（社会科編）のページ数は 1.5 倍ほどになり、何について、どのようなことに着目して、どのように考え、最終的にどのような理解ができればよいかという、「学びのプロセス」と「授業づくりのポイント」がこれまで以上に丁寧に示されました。若手の教員を中心に「社会科の授業をどのように進めたらよいか分からない」という声を聞くことがありますが、今回の学習指導要領解説を読み込むことを通して、社会科の苦手な教員でも授業の質が飛躍的に向上する可能性があると期待しています。

このような中、今年度から、本校は、国立教育政策研究所の教育課程研究指定校小学校社会の指定を受け、学習指導要領の趣旨を実現するための学習や指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究を目的とし、研究主題に「社会的事象の見方・考え方を働かせて、学習問題を協働的に追究する社会科学習」、副主題に「主体的に学習に取り組む態度の育成を踏まえた指導と評価の工夫を通して」を掲げ、1 年間社会科の研究活動に取り組んできました。

本校の研究内容は以下の 4 つです。

- ①社会的事象の見方・考え方を働かせることができる教材開発
- ②学習問題を協働的に追究して学びを深める学習活動の工夫
- ③児童の学びが深める問題解決的な学習過程と「問い」の構成の工夫
- ④児童の主体的に学習に取り組む態度の育成方法と学習状況の評価方法を工夫

どれも社会科の授業づくりにおいては、今日的で重要な課題です。しかも、新たな評価規準の観点にもなっている「主体的に学習に取り組む態度」、3 観点の評価規準による学習評価の方法については参考とするモデルがなく、研究指定 1 年目の取組では試行錯誤しながらでしたが、全教職員が協働して、年間 9 本の検証授業を通して 4 つの研究内容の具現化を目指してきました。

研究は道に半ばではありますが、1 年間の研究成果を研究紀要としてまとめました。すでに、新しい教科書が採択され、次年度から新学習指導要領の全面実施を迎えます。本紀要がこれから小学校で新しい社会科の授業をされる先生方にとって、少しでも参考にいただけるものになれば幸いです。そして、本紀要で紹介している実践を一步でも超える実践が増え、社会科の実践研究が新宿区はじめ全国の小学校に力強く広まっていくことを願っています。

結びに、本校の研究に懇切丁寧にご指導いただきました文部科学省教科調査官 小倉勝登 先生、聖徳大学大学院教授 廣嶋憲一郎 先生、国士舘大学教授 澤井陽介 先生、新宿区教育委員会統括指導主事 波多江誠 先生、同指導主事 北中啓勝 先生、物心両面からご支援いただきました新宿区教育委員会の皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

I 研究の概要

1 研究主題設定の理由

(1) 研究主題

社会的事象の見方・考え方を働かせて、学習問題を協働的に追究する社会科学学習
～主体的に学習に取り組む態度の育成を踏まえた指導と評価の工夫を通して～

(2) 本校の研究経過及び社会的な要請から

本校は、平成25年に第51回全国小学校社会科研究協議会研究大会（東京大会）の会場校として、「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う社会科教育～子供が自らICTを活用し、社会認識を深める授業の創造」を研修主題に研究発表を行っている。その後も、新宿区の研究指定校としてICTを活用した協働的な学習や深い学びを目指した研究実践を積み重ねてきた。

今回の学習指導要領改訂を踏まえて「主体的・対話的で深い学び」を実現していくためには、深い学びの鍵となる「見方・考え方」を働かせる学習をどのように構成していくか、ICTをはじめ様々なツールを活用してどのように協働的な学習を創造するのが授業改善のポイントであり、その授業設計の方策を明らかにすることは極めて重要である。

そのためには、指導の方策とともに児童の学習状況に関する評価方法の開発を進めていくことが社会科学学習では欠かせないと考え、上記の研究主題を設定した。

(3) 本校の児童の実態から

※「平成25年度学習指導要領実施状況調査」の児童質問用紙を参考に作成

	項目	4年	全国	差	5年	全国	差	6年	全国	差
1	社会科の学習が好きだ。	75%	58.8	◎16.2	68.1	55.2	◎12.9	75	63.2	◎11.8
2	社会科の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役に立つ。	73.9	80.3	▲6.4	79.2	80.1	▲0.9	91.7	78.8	◎12.9
3	問題を決めてその解決のために調べたり、考えたりすることが好きだ。	73.9	66.6	◎7.3	75	63.3	◎11.7	90.3	66.8	◎23.5
4	自分で資料を集めて調べることができる。	73.9	75.2	▲1.3	73.6	79.4	▲5.8	88.9	85	3.9
5	自分の考えを資料などを使って説明することができる。	65.9	61	4.9	52.8	58.6	▲5.8	76.4	62.6	◎13.8
6	友達の意見に対して、自分の意見をもつことができる。	72.7	72.8	▲0.1	66.7	75.3	▲8.6	97.2	76.7	◎20.5
7	調べたことをもとに自分の考えを文章で書くことができる。	81.8	74.6	7.2	77.8	72.9	4.9	93.1	77	◎16.1
8	問題やテーマを決めて討論（話し合い）することが好きだ。	77.3	63.3	◎14	72.2	55.3	◎16.9	70.8	51.8	◎19
9	学んだことをもとにして、自分たちがすべきことを考えることがある。	76.1	75	1.1	69.4	76.6	▲7.9	69.4	76.5	▲7.1
10	問題の解決に向けて、学習の計画を立てたり解決の見通しをもったりして学習を進めている。	69.3	—	—	70.8	—	—	86.1	—	—
11	問題の解決に向けて、学習がうまく進んでいるか自分でチェックしながら調べたりしている。	60.2	—	—	58.3	—	—	83.3	—	—
12	調べたり考えたりすることがうまくいかないときにも、ちがう方法を工夫したり友達や先生に自分から相談したりしてねばり強く取り組んでいる。	71.6	—	—	63.9	—	—	79.2	—	—

※「当てはまる」＋「どちらかといえば当てはまる」の割合を比較 単位：％

アンケートの結果からは、以下のようなことが見えてきた。

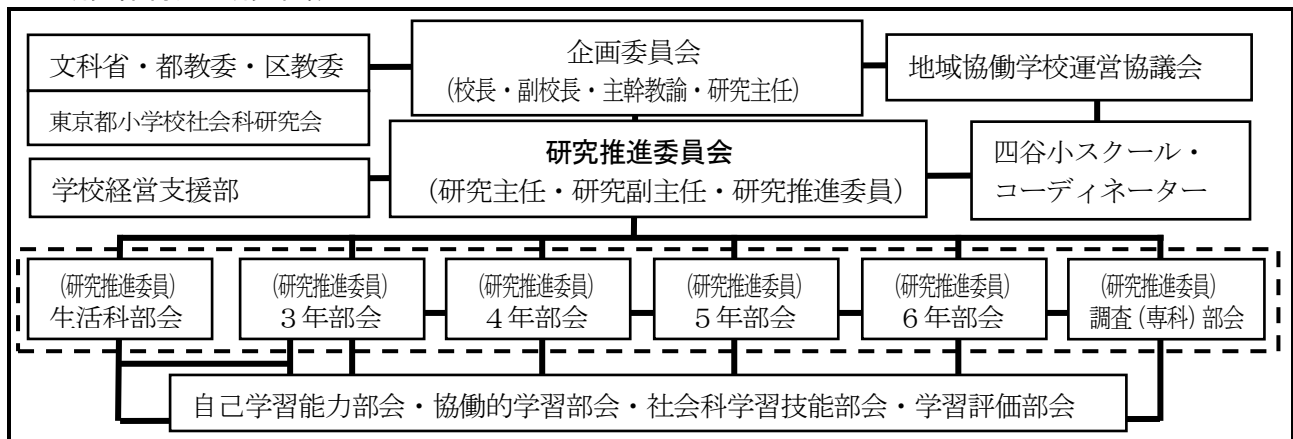
○社会科学学習に関しては概ね好きで、特に、調べたり考えたりすることや問題を決めて話し合うことで全国平均を大きく上回っている。これは、学校をあげてICTなどを積極的に活用して発表したり意見交換をしたり互いの考えを確かめ合ったりする学習経験に基づいているものと考えられる。

▼一方、第4学年と第5学年では、全国平均と比べると普段の生活に役に立つという意識が低く、自分で資料を集めて調べることへの自信が低いとともに、友達の意見に対して自分の意見をもつことにも積極的ではないことが読み取れる。

▼学校で作成した質問項目（10～12）を見ると、第4学年と第5学年は、ほぼ70%以下であり、見通しをもったり自己調整をして学習を進めたりすることが十分にできていないことが読み取れる。

以上の教員の社会科への苦手意識や本校の児童の実態も踏まえて、本研究主題を設定した。

2 研究体制及び研究組織



部	学年部会の目的	部員	部会	研究部会の目的	部員	研 推
低 学 年	・生活科と社会科の接 続に関する研究 ・地域に関わる単元の 授業実践	○塚田 ○城堂、舟山 ○菅田 ○大木、高瀬	自己 学習	低中高学年で目指す自己学 習能力を獲得した姿を明ら かにし、自己学習能力の向 上させる手だてとして振り 返しカードを開発する。	◎菊地 ○塚田 ○大島 高瀬 首藤	校長 副校長 研究主任 研究推進委員 塚田 菅田 大島 本木 菊地 木月 山下 松本 城堂
3 年	・3年の年間指導計画 と評価規準作成 ・検証授業の実践	○柳沼 白澤	協働 的 学習	低中高学年で目指す協働的 に学習に取り組む姿を明ら かにし、協働的学習を促す 手だてを開発する。	◎菅田 ○山下 ○城堂 串崎 大橋	
4 年	・4年の年間指導計画 と評価規準作成 ・検証授業の実践	○大島 ○本木 串崎				
5 年	・5年の年間指導計画 と評価規準作成 ・検証授業の実践	○菊地 大橋	学習 技能	社会科の一人学びが成立す るための技能として、社会 科のノート指導のあり方を 開発する。	◎本木 ○大木 瀧上 飯野 松本	
6 年	・6年の年間指導計画 と評価規準作成 ・検証授業の実践	○木月 瀧上	学習 評価	単元のまとめの段階におけ る表現活動の工夫と理解や 思考・判断の評価方法につ いて開発・整理する。	◎木月 ○松本 舟山 白澤	
専 科	・アンケート調査の集 計と分析 ・社会科に関する学習 環境の整備	○山下 ○松本 松本、飯野 首藤				

3 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

研究主題に迫るために、今年度は、4つの研究内容の柱を通して実践研究に取り組んでいく。

①社会的事象の見方・考え方を働かせることができる教材開発

今回の改訂で大きく改善が図られた内容について、教材分析の観点（知識・資料・視点や方法・問い）とフレームワークを活用して学習指導要領及び解説に即した教材開発の方策を明らかにする。

②児童の学びが深める問題解決的な学習過程と「問い」の構成の工夫

課題把握（つかむ）→課題追究（調べ・考える）→課題解決（まとめる・いかす）の中で、学習問題を中心に視点や方法、資料などと関連付けて児童の思考を深める「問い」の構成の仕方についての方策を明らかにする。

③学習問題を協働的に追究して学びを深める学習活動の工夫

学習問題や追究の問いについて自己の考えをもち、ICTや思考ツールなどを活用した学び合いを通して自己の考えを広げ、他者と対話したり資料と対話したりして多角的に考察するなど、互いの視点や方法の働かせ方を学び合い、自己の学びを深める学習活動の工夫の方策を明らかにする。

④児童の主体的に学習に取り組む態度の育成方法と学習状況の評価方法を工夫

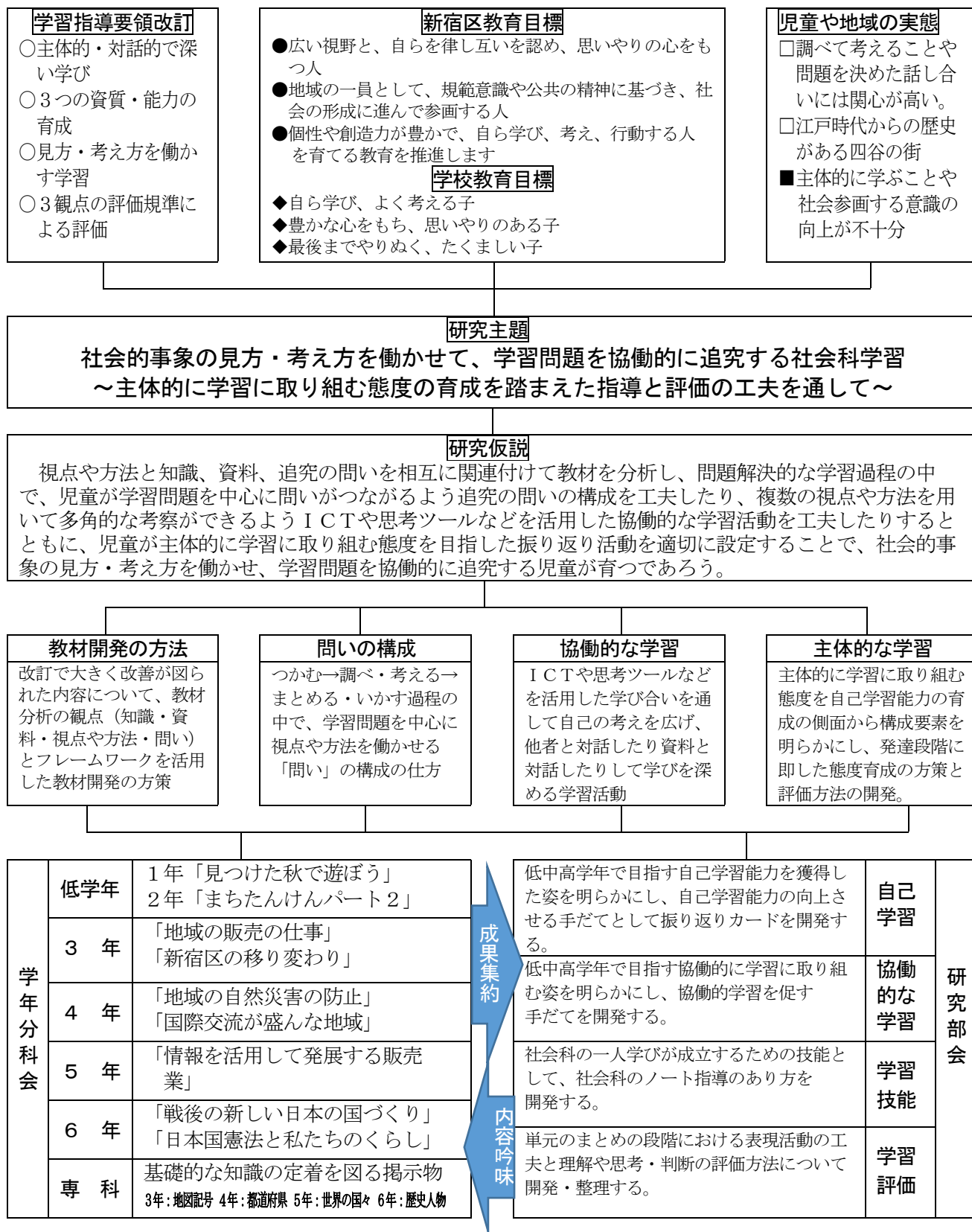
児童が主体的に学習取り組む態度を自己学習能力の育成の側面から、その構成要素を明らかにし、発達段階に即して明らかにするとともに、その育成の方策を明らかにする。

また、主体的に取り組む態度を含め、3つの資質・能力に即した単元の目標と学習活動に即した評価規準を設定して学習状況を適切に評価する具体的な評価方法を開発し、有効性を分析する。

(3) 研究仮説

視点や方法と知識、資料、追究の問いを相互に関連付けて教材を分析し、問題解決的な学習過程の中で、児童が学習問題を中心に問いがつながるよう追究の問いの構成を工夫したり、複数の視点や方法を用いて多角的な考察ができるようICTや思考ツールなどを活用した協働的な学習活動を工夫したりするとともに、児童が主体的に学習に取り組む態度を目指した振り返り活動を適切に設定することで、社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習問題を協働的に追究する児童が育つであろう。

(4) 研究の構想図



①社会的事象の見方・考え方を働かせることができる教材開発

教材について、着目する視点や考える方法を基軸に「指導内容の構造化」と「必要な資料の選定」の2点から教材の開発・分析に取り組む。

資料

具体的知識

基本事項

中心概念

問題解決的な学習過程に即して、単元の学習問題と学習問題を解決するために必要な「追究の問い」について、着目する視点を踏まえて想定する。実際の授業では児童の思考に合わせて修正する。

単元の子供の思考の流れに即した問いの構成	
	単元の目標

The diagram illustrates the structure of questions for elementary school children's thinking flow. It is organized into a central flowchart with a vertical axis on the left and a vertical axis on the right.

Central Flowchart:

- Top Box (Green):** 単元の子供の思考の流れに即した問いの構成 (Structure of questions corresponding to the flow of children's thinking in the unit)
- Second Box (Pink):** 学級で追究する学習問題 (Learning problem to be pursued in the class)
- Third Box (Purple):** 追究の問い1 (Question 1 for pursuit)
- Fourth Box (Purple):** 追究の問い2 (Question 2 for pursuit)
- Fifth Box (Purple):** 追究の問い3 (Question 3 for pursuit)
- Sixth Box (Green):** 学習問題の追究結果 (中心概念) (Pursuit result of the learning problem (Central concept))
- Seventh Box (Purple):** 未来を考える問い (Question for thinking about the future)
- Eighth Box (Green):** 社会に関わろうとする態度 (Attitude to get involved in society)

Vertical Axes:

- Left Axis (Yellow):** 問題解決的な学習過程 (Problem-solving learning process). This axis is associated with the boxes: 問題意識(問い), 課題把握, 課題追究, and 課題解決.
- Right Axis (Blue):** 評価 (Evaluation). This axis is associated with the boxes: 具体的知識1, 具体的知識2, and 具体的知識3.

Flow and Connections:

- A large blue arrow points upwards from the bottom to the top, indicating the progression of the learning process.
- Arrows point from the "追究の問い" boxes to the "具体的知識" boxes.
- Arrows point from the "追究の問い" boxes to the "追究の問い" boxes below them, indicating a sequential flow.
- An arrow points from the "追究の問い3" box to the "学習問題の追究結果" box.
- An arrow points from the "学習問題の追究結果" box to the "未来を考える問い" box.
- An arrow points from the "未来を考える問い" box to the "社会に関わろうとする態度" box.

- また、3種類「**追究の問い**」を学習場面で使い分ける。
- ・事実を問うもの→**具体的知識の獲得**へ
 - ・理由や根拠を問うもの→**特色や意味の理解**へ
 - ・選択や判断を問うもの→**社会との関わり方の構想**へ

指導内容の構造化に向けた手順は次の通りである。

ウ 追究に必要な資料を精選したり、視点や方法を用いて追究する学習活動を吟味したりする。

才社会的事象との出会いや学習
の出口としての社会との関わりについて吟味する。

カそれぞれの指導内容の関連を
検討して指導内容の構造を図
式化する。

(2) 指導内容の構造

現行学習指導要領 第3学年内容 (2)

アの(イ): 販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう工夫して行われていることを理解すること。

アの(ロ): 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして自国などにまとめること。

イの(イ): 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を伝え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現すること。

※【 】は、視点と方法を示す。

問: 私たちは、どこでどのような物を買っているのだろうか? 【消費者の願い】

知: 四谷の地域には、いろいろな種類の店がたくさんあって、目的に応じて買い物をする店を決めている。

料: 食料品の買い物が多く、特に丸正本店で食料品を買う人が多い。

資: 四谷地域の地図、買い物ルート、買い物調査の集計グラフ

問: 私たちは、なぜたくさんのお客が集まるのだろうか? 【他地域や外国との関わり】

知: 丸正本店では、東武以外の県や外国からも様々な商品を仕入れて販売している。

資: 駅ボールなどの表示の写真、仕入れ先の日本・世界地図

問: 私たちは、どのように買い物をしていくとよいのだろうか? 【総合】

活: それぞれのお店のお客にとってのよさをポスターにして説明しよう。

問: 私たちはどのように買い物をしていくとよいのだろうか? 【社会との関わり】

四谷にはたくさんのお客があり、それぞれのお店の人たちが買い物客の願いに応える販売の工夫をしているから、店の特長や広告などの情報をよく知って買い物をしていくと、欲しいものを安く買うことができそうだ。

問: 私たちは、どこでどのような物を買っているのだろうか? 【販売の仕方】

知: 買いやすいようにきれいに並べている。

料: タイムセールなどで安く売っている。

資: お客が引かれる新鮮なものを売っている。

資: 店の見学カード、商品陳列の写真、お店の人のインタビュー

問: 丸正本店ではたくさんの人に来てもらうためにどのようなことをしているのだろうか? 【接客の仕方】

知: 買い物に来てもらうために、チラシを配布したり、のびや広告を掲示したりしている。

料: お客を待たせまいようすばやく会計ができるレジを使用している。

資: 食料品以外の雑貨屋や本屋も同じ建物の中にある。

資: 折り込みチラシ、店の見学カード、店の人のインタビュー

問: 丸正本店には、なぜたくさんのお客が集まるのだろうか? 【他地域や外国との関わり】

活: 見学や調査で分かったことを分類して分譲・整理する。【分譲】

問: お店の人の工夫は買い物客の願いとどうつながっているのだろうか? 【接客の仕方】

活: 買い物客の願いと分譲・整理した工夫を確かめよう。【接客の仕方】

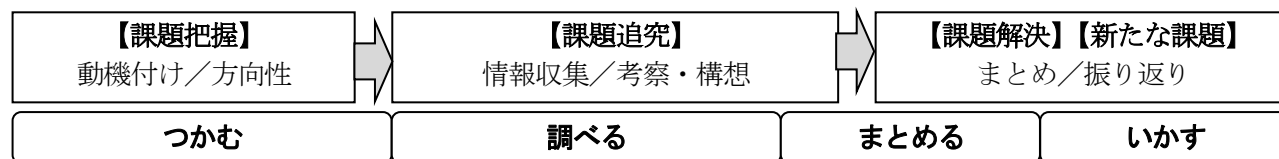
知: 丸正本店では、売り上げを高めるために、買い物に来る人の多様な願いに応える工夫をしている。

問: 丸正本店以外のスーパーではどのような工夫をしているのだろうか? 【比較】

知: 丸正本店を工夫したり、チラシや広告を出してお客を呼び込むようしたりするのは同じだけど、どの店もそのお店に来るお客の願いに合わせた特色ある売り方の工夫をして売り上げを高めようとしている。

資: 見学カード、お店の写真、個々の工夫を整理した比較表

次に明らかにした指導内容から、「問い」だけ抜き出し、並べ替える。その際の学習過程は、ワーキンググループの資料で例示されているものを参考にした。本校では、この過程を踏まえつつも、児童や教員にも親しみやすい、「つかむ・調べる・まとめる・いかす」という学習過程で指導計画を構成している。



この学習過程に即して児童の思考の流れを想定して、「問い」を吟味にして以下のように構成する。

「問い」は、学習問題を中心に、「学習問題を把握する問い」、学習問題や学習計画に即して「事実を追究し捉える問い」、社会的事象の「特色や意味を考える問い」、学んだことを基に「社会との関わり方を考える問い」に分類することができる。

これらの「問い」の種類を意識しながら、【見方・考え方＝視点や方法】を児童が働かすことができるような「問い」を以下のように構成していく。

学習問題を把握する問い	私たちは、どこでどのような物を買っているのだろう。 【消費者の願い】【商店の分布】
単元の学習問題	A 店にたくさんの人が買い物に来るひみつは何だろう？
↓ 事実を追究し捉える問い	A 店ではどのような売り方の工夫をしているのだろう。 【販売の仕方】 A 店ではたくさんの人に来てもらうためにどのようなことをしているのだろう。 【販売の仕方】 A 店の商品はどこから来ているのだろう。 【他地域や外国との関わり】
特色や意味を考える問い	A 店の人気のひみつは何だろう。種類ごとに分けて考えよう！ 【分類する】 お店の人の工夫は買い物客の願いとどうつながっているのだろう。 【関連付ける】 A 店以外のスーパーでも同じような工夫をしているのだろう。 【比較する】
社会との関わりを考える問い	お店のよさを買い物をする人にどう伝えたとよいのだろう。 【総合する】 私たちはどのように買い物をしていくとよいのだろう。 【生活との関連】

そして、指導計画の作成に当たって、本校では、見方・考え方を働かせることを意識して、次のような項目で単元の展開案を構想し指導計画を作成している。

	ねらい	問い ○学習活動 ・児童の反応	■資料□教師の指導 【】 評価
つかむ	…………… ……。	○学習問題を設定する学習活動 学習問題……………？ ●評価につながる学習活動	■資料 □指導上の留意点 【思・判・表①】【態度①】
調べる	…………… …………… …………… ……。	問い……………？ ○問いを追究する学習活動 ●評価につながる学習活動 問い……………？ ○問いを追究する学習活動 ●評価につながる学習活動	■資料 □指導上の留意点 【知・技①】 ■資料 □指導上の留意点 【知・技①】
まとめる	…………… ……。	問い……………？ ○調べたことをまとめ学習問題の結論を出す ●評価につながる学習活動	□指導上の留意点 【思・判・表②】 【知・技②】
いかす	…………… ……。	問い……………？ ○発展や関わり方を考える学習活動 ●評価につながる学習活動	■資料 □指導上の留意点 【思・判・表②】【態度②】

③学習問題を協働的に追究して学びを深める学習活動の工夫

ア 単元の協働的な学びを支える話し合いの工夫

社会的事象の見方・考え方を働かせるためには、一人の見方・考え方で結論を導くのではなく、様々な視点や方法で考え合うことが大切である。社会科の学習では集団思考を通して理解を深めていきたい。

調べたことを学級で共有したり思考の流れが共有したりできるよう、ICTや思考ツール、ホワイトボードなどを有効に活用することや児童の思考の流れが共有できる構造的な板書や考えの深まりを自覚できるノート指導を行うことの大切さを確認してきた。

グループワークのルールを定着させて効果的に話し合い活動を進める。

<協働的な学習において育てたい話し合い>

学習過程における協働的な学習場面		協働的な学習活動の例
つかむ	○思いや疑問、調べたいことを表出し合い共有する場面	◆ <u>ペア（二人）で話し合う。</u> ・短時間で、疑問に思ったことや気付いたこと、考えたことや感想をお互いに言葉やノートなどで紹介し合う。
調べる	○気付いたことや調べたことを共有する場面 ○比較や関連付けして特色や意味を考え合う場面	◆ <u>グループ（4人程度）で話し合う。</u> ・問いについて、分かったことや考えたことなどを紹介し合い、思考ツールやホワイトボード、付箋などを活用して、比較・分類・関連付けなどして情報を整理して考えを深めたり広げたりする。
まとめる	○まとめた作品等を使って考えたことを説明し合う場面 ○新たな問いについて話し合い、考えを深める場面	・ホワイトボードや短冊などを活用して話し合ったことを関連付けたり総合したりして文章などにまとめていく。 ◆ <u>学級全体で話し合う。</u>
いかす	○学んだことを活用して社会の発展や自分の関わり方について話し合う場面	・立場を明確にしたり友だちの発言とつなげたり、資料やICTを活用して視覚的に伝え合ったりして話し合う。 ◆ <u>社会生活を営む人と対話的に学ぶ</u> ・直接聞き取りしたり、手紙やメールで質問したりする。

④ 児童の主体的に学習に取り組む態度の育成方法と学習状況の評価方法を工夫

ア 主体的に学習に取り組む態度を育成する指導の工夫

「主体的に学習に取り組む態度」の要素として

“見通し（目標設定・計画立案）”

“学習調整（個人の学習調整＝自己モニタリング）
（集団の学習調整＝相互モニタリング）”

“振り返り（自己評価＝結果と過程の評価）”

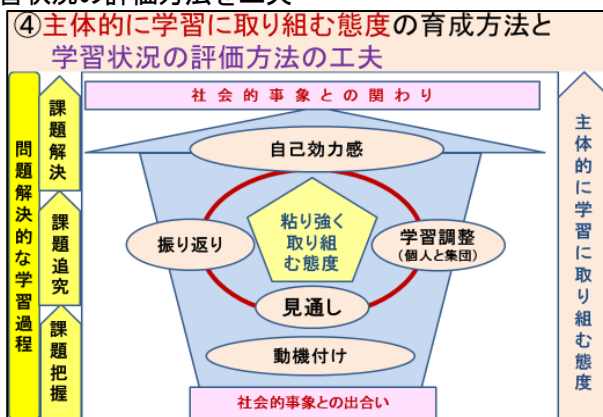
“自己効力感（熟達・自信・意欲・関わり）”の

6つ下線の要素を育成することとした。

問題解決的な学習を通して、この6つの要素が育つよう指導をしていくことで、児童が主体的に学習に取り組む態度が高まると考えた。

イ 評価場面の焦点化と評価方法の工夫

学習指導計画の作成にあたっては、評価場面の焦点化を下のように行うことにした。その際、評価場面においては、評価につながる学習活動を設定するようにした。



観点	評価方法例	評価場面
知識 技能	教材構造図で抽出した知識の獲得状況をノートの記述や単元末のペーパーテストなどで把握する。 技能の習得状況を調査活動やノートの記述から把握し、資料活用の再現テストで技能の定着状況を把握する。	主に 知・技①は調べる段階 知・技②はまとめる段階
思考 判断 表現	思考場面でのノートや作品の記述、特色や意味の考察や説明から思考・判断の発揮状況やその表現の様子を把握する。	主に 思・判・表①はつかむ段階 思・判・表②はまとめる段階
主体的な 態度	予想や学習計画などの見通しの状況を把握する。 単元で作成する「学習振り返りカード」を用いて自己学習の状況を把握する。 振り返りの記述を継続的に分析する。	主に 態度①はつかむ段階 態度②はいかす段階

記録に残す評価として「思考・判断・表現②」と「知識・技能②」の評価について、学習過程のまとめる段階において、文章のみならず図表や新聞、パンフレットなどの表現活動も設定し、調べたことを整理し、学習問題などについて考えたことを説明し合い、最後に分かったことを文章などでまとめる記録に残したもので評価することとした。また、いかす場面が設定されている単元では「態度②」も評価することとした。

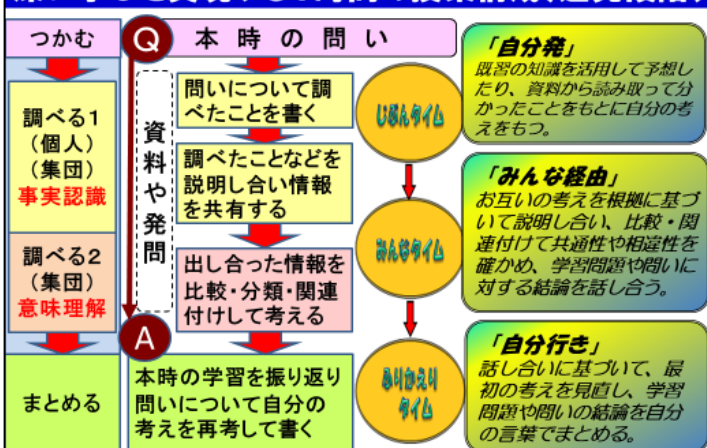
⑤ 1時間の授業の構造化と4つのポイント

右図のような授業構成を基本とした学習展開を構想した。

課題把握(つかむ) 本時の問いやめあてを把握
 じぶんタイム(調べる1) 自分で調べる
 みんなタイム(調べる1) みんなで調べたことを共有
 (調べる2) 比較・分類・関連付けて考える
 ふりかえりタイム(まとめる) 自分の考えのまとめ

展開の中で協働的な学習場面を設定していくこととした。特に、みんなタイムでは、調べた事実を確かめる時間から特色や意味を考える時間へと学習内容の深まりを保障し、振り返りでは、本時の問いのまとめと学び方を振り返るようにした。その際の授業づくりの手立てを下に整理した。

深い学びを実現する1時間の授業構成(追究段階)



四谷小スタイルの授業づくり

	つかむ → 調べる → まとめる・いかす	
つかむ	問題意識や追究意欲をもつとともに、その時間のめあてや問いを明確にし、追究の見通しをもつ。	1の矢 見通しをもつ問いやめあてを明確に意識できる授業
じぶんタイム	社会的事象について疑問をもつ。ノートや短冊などに記述する。 学習問題に対して予想を立てる。ノートや短冊などに記述する。 問いについて調べて分かる。ノートやワークシートなどに記述する。 問いに対して自分の考えをもつ。ノートやワークシートなどに記述する。	2の矢 自分で学ぶ 必要な学習技能を身に付け、一人学びができる授業
みんなタイム1	一人一人の疑問を出し合って共有し、ノートなどに追記する。 学習問題の予想を話し合って共有する。 調べて分かったことを確かめ合って共有し、ノートなどに追記する。 考えを出し合って考えを広めて、ノートなどに追記する。	3の矢 友達と学ぶ 調べたことや考えたことを共有し、協働的に考えを広め深め合う授業
みんなタイム2	疑問を分類関連付けて集約して学習問題の設定に向けて話し合う。 学習問題に対する予想を分類して学習計画について話し合う。 調べて分かったことを比較・分類関連付けて特色や意味を考えて話し合う。 学習問題の結論について考えを出し合い、大切なことを話し合う。	4の矢 学びを振り返る 学んだことを振り返り、学びを価値づけ、次の学びにつなげる授業
ふりかえりタイム	- めあてや問いについて学習したことを振り返って自分の言葉でまとめる。 - 自分の学習の進め方を振り返って、次の時間に向けて改善していく。 - 自分の成長を振り返り、自信をもって、新たな学びに向かっていこうとする。	

学びの基本(授業を支える土台)

○話し方 ○聞き方 ○ノートの書き方 ○一人学習の仕方 ○グループ学習の仕方
 ○発表の仕方 ○質問の仕方 ○話し合いの仕方 など

(5) 研究の経過

時 期	校内研究の取組計画	研究推進委員会
4月 2日 (火) 4 日 (火) 24日 (水)	研究全体会① ・研究内容、研究計画、組織の確認 研究全体会②→研究部会 ・研究資料作成へ向けて 研究全体会③ ・学習指導案や授業研究の進め方 ・アンケート分析結果の報告 講師：文部科学省教科調査官 小倉 勝登先生	アンケート調査Ⅰの 実施と分析 年間の指導単元の検討 検証授業単元の決定 学習指導案のプロット等の検討
5月 8日 (水) 9日 (木)	研究全体会④ ・実践単元のポイントと学習評価について 講師：国士舘大学教授 澤井 陽介先生 研究部会（研究資料作成）	学習指導要領解説（小学校社会）の分 析と評価方法 研究部会の研究内容の検討
6月 5日 (水)	研究全体会⑤ ・3年指導案の確認 ・研究部会の協議→学年部会	社会科授業作りの手立ての共通理解 3年：指導計画案検討17日（月） 本時案検討 25日（火）
7月 5日 (水)	検証授業① 第3学年「わたしたちのくらしと 販売の仕事」 講師：聖徳大学大学院教授 廣嶋 憲一郎先生	検証授業で共通理解したいこと、研究 協議会の流れの確認
夏季休業 7月23日 (火)	研究全体会⑥→学年部会→研究推進委員会 ・学年部会の2学期研究授業単元の検討①	2学期単元、検証授業単元の指導計 画・本時案検討
8月23日 (金)	研究全体会⑦ ・学年部会の2学期研究授業単元の検討② （学年ごとに指導・助言） 講師：文部科学省教科調査官 小倉 勝登先生	
9月11日 (金)	研究全体会⑧ ・研究部会の研究内容の確認	研究部会の研究内容の方向性の確認 部会の報告と今後の予定
10月24日 (木)	検証授業② 第2学年「もっと なかよし まちたんけん」 講師：新宿区教育委員会指導主事 北中 啓勝先生	2年：指導計画案検討 2日（水） 本時案検討 7日（月） 4年：指導計画案検討10日（木） 本時案検討 15日（火） 6年：指導計画案検討29日（火）
30日 (金)	検証授業③ 第4学年「水害からくらしを守る」 講師：聖徳大学大学院教授 廣嶋 憲一郎先生	6年：本時案検討 8日（金） 1年：指導計画案検討 8日（金） 本時案検討 14日（木） 4年：指導計画案検討20日（水） 本時案検討 27日（水）
11月20日 (金)	検証授業④第6学年「長く続いた戦争と 新しい日本の国づくり」 講師：文部科学省教科調査官 小倉 勝登先生	
12月 3日 (金)	検証授業⑤ 第1学年「つくろう あそぼう」 講師：新宿区教育委員会統括指導主事 波多江 誠先生	研究協議会用報告書作成 （研究のまとめ） 発表プレゼンの作成
11日 (水)	検証授業⑥ 第5学年「情報を活用して発展する 販売業」 講師：文部科学省教科調査官 小倉 勝登先生	
冬季休業		研究紀要のページ構成などの検討 発表プレゼン、報告書原稿の修正
1月 7日 (火) 10日 (金) 31日 (金)	研究全体会⑨（研究部会での提案内容の検討） 研究全体会⑩（研究への指導助言） 講師：文部科学省教科調査官 小倉 勝登先生 →研究部会での提案内容の検討 検証授業⑦ 第4学年「世界とつながる大田区」 講師：聖徳大学大学院教授 廣嶋 憲一郎先生	4年：指導計画案検討10日（金） 6年：指導計画案検討15日（水） 4年：本時案検討 16日（木） 6年：本時案検討 22日（水） 研究協議会配布資料の作成
2月 7日 (金) 12日 (水)	国研教育課程研究指定校研究協議会発表 （研究の中間まとめ） 検証授業⑧ 第6学年「わたしたちのくらしと 日本国憲法」 講師：聖徳大学大学院教授 廣嶋 憲一郎先生	研究紀要の作成（～3月中旬まで） 研究部会資料作成 3年：指導計画案検討13日（木） 本時案検討 20日（木）
3月 6日 (金) 11日 (水)	検証授業⑨ 第3学年「新宿区の移り変わり」 ※臨時休校により中止 研究全体会⑪（研究部会からの報告、 令和2年度研究計画）	アンケート調査Ⅱの実施と分析 研究紀要締切 24日（火） 印刷所入稿 26日（木）

Ⅱ 各学年の実践

生活科（低学年分科会）の取組

1 生活科の目標について

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （１）活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- （２）身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- （３）身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。 ※「小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説生活編」より

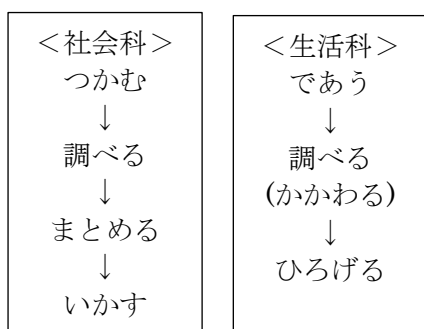
2 生活科の特質について

- ①子どもの身近な生活圏を活動や体験の場や対象にする。
- ②子どもの身近な人や社会、自然と関わる活動を重視する。
- ③子どもの思いや願いをはぐくみ、意欲や主体性を高める学習過程にする。
- ④対象についての気付きとともに、自分自身に気付くことができる。
- ⑤子どもの姿を丁寧に見取り、働きかけ、活動の充実につなげる。

上記のような特質上、生活科では体験を重視し、体験を通して気付きを高めていくことが重要であると考え。そのため、教師の役割はコーディネーター的な要素が強くなることを自覚し、各単元での指導に当たっていく。

3 低学年部会の目的

○生活科と社会科の接続に関する研究



低学年分科会では、第１学年及び第２学年の生活科の学習が第３学年からの社会科の学習にスムーズにつながっていくように、各単元の指導計画を社会科の４つの学習過程を踏まえた３つの学習過程にして計画している。

また、児童自身が学習過程を意識して取り組めるように、活動のゴールイメージをもたせ、見通しがもてるようにしたり、毎時間の振り返りをカードなどで行ったりすることで主体的に学習に取り組む態度の育成を踏まえた指導を目指している。

○地域に関わる単元の授業実践

四谷の地域は自然の少ない場所ではあるが、児童にとっては生活の場であり、公園や児童館などの遊ぶ施設や日常的な買い物を行う場所は徒歩圏内に複数存在している。また、スマイルクラブという地域の方々のサポーター制度があり支援を受けやすいことを生かし、計画的に授業を行っていくことで、充実した活動を安全に進めていくことが可能である。

第1学年 生活科学習指導案

指導者 1年3組 舟山 貴博

1 単元名 「つくろうあそぼう」(16時間)

2 単元の目標と観点別評価規準

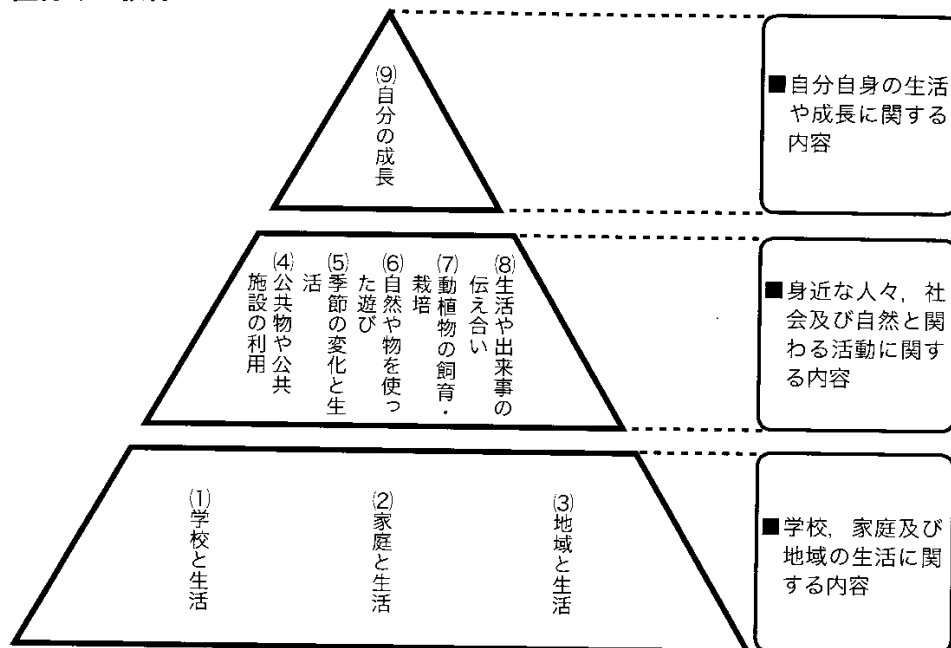
(1) 単元の目標

身近な自然物や、身の回りにあるものを使って、おもちゃを工夫してつくったり、遊び方を工夫したりして、遊びの面白さや自然の不思議さに気付き、安全に気を付けて、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

(2) 単元の観点別評価規準

生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
身近な自然物を使って、遊びに使うものをつくったり、遊んだりすることに関心を持ち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。	自然物や身の回りにあるものを利用して、遊びに使うものを工夫して作ったり、みんなが楽しく遊べるように、約束やルールを考えたりしながら、みんなで楽しく遊んでいる。	自然物を利用して遊んだり、遊びに使うものを作ったりすることの面白さや、自然の不思議さ、秋の自然物を使ってみんなで遊ぶことの楽しさに気付いている。

3 単元の位置付けと教材について



本単元は新学習指導要領の内容(6)「自然や物を使った遊び」を元にして、(5)「季節の変化と生活」と(8)「生活や出来事の交流」と合わせ、単元の内容を構成した。

本単元は、前単元である「たのしいあきいっぱい」の学習を受け、構成している。この単元は、秋の校庭や公園で身近な自然と関わり、それらを利用して遊ぶことを通して、秋の自然や、夏との違いや変化に気付いたり、自分たちの生活を楽しくしたりすることができるようにすることを目標としている。前単元で、身近な自然を利用して、遊びを作り出す面白さに気付き、伝え合いや交流することの楽しさを味わう活動を十分に行い、本単元でそれらの活動を深めていくことで、本単元の主たる内容である(6)「自然物や物を使った遊び」が充実した活動となると考える。

4 研究主題との関連

(1) 学習課題を協働的に追究して学びを深める学習活動の工夫

本単元での活動の中心は、秋の素材を生かしておもちゃ作りを行うことである。前単元で経験した簡単な遊びを発展させ、児童一人一人が自分の作りたいおもちゃのイメージをもち、製作活動に取り組んでいく。

①座席やグループの工夫

活動の中で、同じおもちゃを作る児童同士が関わり合ったり、おもちゃで遊ぶことを通して互いに認め合ったり高め合ったりできるように、場面に応じて通常の座席だけでなく、生活班や新たに作ったグループでの活動を計画した。

②繰り返し活動での思考の深まりと気付きの質の高まり

本単元では、「おもちゃを作る→遊ぶ→改良する」という活動を3回計画している。1回目は自分で遊んでみて改良する、2回目は友達と遊んでみて改良する、3回目は遊ぶ相手を意識して改良するというように、目的意識をもって取り組むようにする。2回目と3回目の活動では、友達におもちゃで遊んだ感想やアドバイスを付箋に書いて渡すことにした。一人一人の活動が活性化し、思考が深まり気付きの質が高まると考えた。

(2) 児童の主体的に取り組む態度の育成方法と学習状況の評価方法の工夫

○振り返りカードの活用

体験で終わらず、気付きを言葉にして残せるように、振り返りカードを活用した。授業の始まりに毎回のめあてを確認し、活動に取り組ませていく。そして、授業の終わりには「進んで活動できたか・工夫して活動できたか」の2項目を毎回チェックし、単元を通しての自己の変容が実感できるようにしている。また、「きづいたこと・つぎにむけて」の記述を教師が毎回確認して次時の活動の計画を立てることで、毎回の活動がより児童の実態に即した内容となるようにした。このように振り返りカードを活用して児童一人一人の活動状況を把握することにより、児童が主体的に学ぶことができるよう指導に生かすとともに、より適切な評価が可能になると考えた。

つくろうあそぼう(1)		なまえ()			
◎きょうの かつどうを ふりかえって かきましょう。					
日	(/)	(/)	(/)	(/)	(/)
めあて					
ふりかえり	すすんでかつどう	◎よくできた	○できた	△あまりできなかった	(きこうをかきましょう)
	くふうしてかつどう	◎よくできた	○できた	△あまりできなかった	(きこうをかきましょう)
きづいたこと・つぎにむけて					

5 単元の指導計画(全16時間)

であう	～前単元での子どもたちの願い～ ○公園で集めた葉や木の実、身の回りから集めた材料を使って遊び、おもちゃづくりへのイメージをもつ。 落ち葉やどんぐりで、冠を作って楽しかったな。  今度は、どんぐりで迷路を作りたい。どうやって作ろうかな。
-----	---

		○主な学習活動 児童の学び ●評価の活動	・指導上の留意点	■評価
か か わ る	1	○自分の作るおもちゃの計画書を作る。 どんぐりの他に、必要な材料は何かな。  迷路を作るのが、楽しみだな。 ●作ってみたいおもちゃをワークシートに記入する。	・前単元の「たのしいあき いっぱい」と関連させ、葉や木の実などの、自分たちで集めた自然物で作ったり、遊んだりする活動への意欲化を図る。 ・教科書P76～77の「おもちゃずかん」を参考にして、自分の作るおもちゃへのイメージをもたせる。 ・教師が作ったおもちゃを提示し、製作への関心を高める。	■自分たちで集めた葉や木の実に関心をもち、それらの特徴を生かしたおもちゃや楽器を作ろうとしている。 【関・意・態】 (ワークシート)
	2 ・ 3	○おもちゃや楽器を工夫して作る。 どんぐり迷路を作りたいな。  友達のおもちゃでも遊んでみたいな。 ●おもちゃを作って工夫したことを振り返りカードに記入する。	・道具の使い方について、教科書などを活用して指導し、安全面に十分配慮する。 ・計画書を基に材料を工夫しておもちゃや楽器の製作に取り組めるようにする。	■集めた自然物の中から、使ってみたいものを選び、試したり、見立てたりして、工夫しながらおもちゃや楽器を作っている。 【思考・表現】 (行動・観察・振り返りカード)
	4 ・ 5	○作ったおもちゃや楽器で友達と一緒に遊びながら、もっと楽しく遊べるように改良する。  もっと楽しませたいな。  もっと道を長くするといいと思うよ。  あっという間にゴールしたから、道を増やして、迷路を長くしたよ。 ●おもちゃで遊んでみて気付いたことを振り返りカードに記入する。	・作ったおもちゃを生活班の友達と遊ぶ場を設定する。 ・遊びながら、作り直したり、ルールを変更したりするなど、工夫を重ねる活動を促すような支援や言葉かけを行う。 ・遊びを通して、よいところや気付いたところを付箋に書いて伝えられるようにする。	■実際に遊ぶ中で、みんなが楽しく遊べるように考え、遊びのルールや約束を工夫している。 【気付き】 (振り返りカード)

6	○作ったおもちゃの遊び方説明書を書く。  工夫して作ったよ。 みんなに自慢したいな。  とがったどんぐりは、ぶるんぶるんとまわったよ。まるいどんぐりの方が、びゅんびゅんと長く回るよ。 ●作ったおもちゃの工夫した点やみんなで楽しめる遊び方をワークシートに記入する。	・事前に作ったおもちゃの写真を取り、ワークシートに貼れるようにしておく。 ・前時の付箋を活用し、友達の意見を生かして、遊び方説明書を書かせる。 ・友達と遊びながら、作り直したり、ルールを変更したり、友達と比べて気付いたことなども書かせることで、自分の工夫を振り返らせる時の手がかりとさせ、児童の思考を深めさせる。	■自分のおもちゃの工夫した点やみんなで楽しめる点を表現することができる。 【思考・表現】 (ワークシート)
7 ・ 8	○お店屋さんごっこをして友達の工夫を見つける。  競争すると、みんなで遊べて楽しいよ。  どんぐりの大きさや種類によって、回り方が違うね。  お店屋さんって楽しいな。もっと他の人にも遊んでもらいたいな。 ●お店屋さんごっこをして気付いたことや感想を振り返りカードに記入する。	・遊ぶ時間を十分確保できるように、遊ぶ場の準備はできるだけ簡単に済ませる。 ・遊びの途中で、随時改良してもよいことを伝えておく。 ・遊ぶ人を前後半に分け、交代で各グループを回り、遊べるようにする。 ・友達のおもちゃで遊んだ後に、おもちゃを作った友達やグループに感想を付箋に書いて伝える時間を確保する。	■作ったおもちゃを使ってお店屋さんを開き、自分以外のおもちゃを使ってみんなでも楽しもうとしている。 【関・意・態】 (行動・観察・振り返りカード)
9	○前時の活動を通して気付いたことを振り返り、これからの活動の計画を考える。  上手に作れたから他の人にも遊んでもらいたいな。  そういえば、子ども園の園児が、遊んでいるとき見ていたよ。  子ども園の子たちにも遊んでもらいたいな。 ●次時の願いを振り返りカードに記入する。	・自分が工夫したことを言葉にすることで、気付きを自覚化させるとともに、友達の作ったものには、自分のものとは違うよさがあることに気付かせる。 ・子ども園との交流を計画する。	

10 本 時	○園児に楽しく遊んでもらうためには、おもちゃや遊び方をどう工夫したらよいかを話し合う。  ルール説明が分かりにくい所があったよ。  子ども園の友達に楽しんでもらうために、ルールを簡単にしよう。 ●園児に楽しんでもらうための改良点をワークシートに記入する。	・園児が楽しく遊ぶためには、おもちゃの強度を増したり、遊びのルールを簡素化したりするなどの工夫が必要なことに気付かせる。 ・友達からもらったアドバイスも参考にさせ、考えさせる。 ・「園児が楽しめるように」という観点を大切に、話し合いをさせる。 ・遊び方について、自分の考えを伝えると同時に、友達の考えを聞き合えるような時間を確保する。	■相手が園児であることを考え、遊びのルールや約束を工夫している。 【思考・表現】 (ワークシート・振り返りカード)
11 ・ 12	○園児に楽しんでもらうために、おもちゃを改良する。  子ども園のお友達に楽しめるように、ルールを説明してあげよう。  お手本を見せると分かりやすいな。 ●改良する視点をもっておもちゃやルールの改良に取り組んでいる。	・ルール、おもちゃの改造など、前時に出たグループごとの工夫をもとに、おもちゃの改良をし、お店屋さんの準備を行わせる。 ・役割を分担して準備を行い、早く終わった児童には、他の役割を分担している友達の手伝いをさせるなどして、学級全体で、楽しいお店屋さんの準備をするのだという意識をもたせる。	■相手が園児であることを考え、遊びのルールや約束を工夫し、みんなで楽しめるようにする。 【思考・表現】 (行動・観察・振り返りカード)
13 ・ 14	○園児を招待して、「おもちゃ屋さん」をする。  優しく教えてあげよう。  こども園の子たちにわかりやすく説明できたよ。 ●こども園の子たちに遊んでもらい気付いたことを振り返りカードに記入する。	・活動にあたっては、安全確保に十分留意するとともに、園児の安全を守る立場にあることを含めて、児童にも改めて安全指導を行う。 ・活動の中で、園児の様子を気にかけてたり、園児に感想を聞いたりするような言葉かけをさせる。	■自分たちが、園児を楽しませることができたことが分かり、自分自身の成長に気付いている。 【気付き】 (振り返りカード)
15	○「おもちゃ屋さん」で頑張ったことを発表する。  〇〇さんは教えるのが上手だったよ。 ●おもちゃやさんをやってみて気付いたことや友達の発表を聞いて気付いたことを振り返りカードに記入する。	・自分が工夫したことを言葉にすることで、気付きを自覚化させるとともに、友達の作ったものには、自分のものとは違うよさがあることに気付かせる。	■自他のおもちゃ屋さんには皆が楽しむための工夫が施されていることに気付いている。 【気付き】 (振り返りカード)

ひろげる	16	○学習の振り返りを行う。  また子ども園の友達と遊びたいな。  またみんなで遊びたいな。 ●本単元を行ってみて気付いたことや次時への願いを振り返りカードに記入する。	・3学期以降も、様々な活動の中で、園児や他学年との交流ができるように、児童が願いを聞き合い、今後の活動を広げられるような意欲付けをする。	■本単元を振り返りこれからの活動に生かそうとしている。 【関・意・態】 (振り返りカード)
------	----	--	---	---

6 本時の指導 (10/16時)

(1) 本時のねらい

おもちゃやルールなど子ども園の園児と楽しむための工夫を考え表現することができる。

(2) 本時の展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◎資料 □指導上の留意点 ・【評価】
導入 (10)	○前時の振り返りカードから本時の見通しをもつ。  子ども園の子たちと一緒に遊ぶの楽しみだな。  子ども園の子たちが楽しんで遊ぶには少しむずかしいかも・・・。 本時のめあて：子ども園の子たちに楽しんでもらうための作戦を考えよう。 ○楽しんでもらうためには、どんなところを変えればいいのか予想する。	◎前時で使用した振り返りカード 感想が書かれた付箋 □振り返りカードを見ながら、気付いたこと、分かったことを発表させる。
自分 タイム (7)	○園児が楽しめるにはどうすればいいのかを自分で考え、遊び方説明書に記入する。  子ども園の子たちは私たちより小さいからどこを変えればいいかな？  まだひらがなも習っていないから説明の仕方も変えたほうがいいよ。 ○計画書、遊び方説明書を使い自分たちの遊びで改善できる点を報告書に書き込む。	□自分たちのお店ごっこの時の振り返りや感想の書かれた付箋などから、改善する視点をもたせ、考えさせる。 □小学校に入学する前と後で、自分ができるようになったことを認識させる。 □実際の園児の写真を見せて、相手意識をもたせる。 ◎計画書、遊び方説明書 □報告書の写真から線を引き、自分の考えた改善点と改善する場所を合わせさせる。

みんなタイム (20)	○班ごとに自分たちの改善する点を話し合う。  ぼくは、子ども園の子たちがまだひらがなを習っていないので、説明に絵を入れればいいと思います。  私は子ども園の子たちが楽しんで遊べるように、迷路をもっと簡単にしてあげればいいと思いました。 来てくれた子たちにわかりやすいように、実際にやりながら説明してあげたり、ルールを簡単にしたりしようよ。 	□話し合いの仕方や順番を全体で確認する。 ◎遊び方説明書 □途中で何班か発表させ、子ども園の子たちに楽しんでもらうという目的や、改善の視点を再度確認させる。 □改良する点を班の作ったおもちゃやお店の写真に書き込む。
振り返りタイム (8)	○振り返りカードを使って本時を振り返り、次時の学習につなげる。  友達と話したら、もっと改良するところが分かったよ。  今日考えた作戦で、友達と協力して準備をしよう。	◎振り返りカード □次時に何の作業を進めていくのか見通しをもたせる。 ・おもちゃやルールなど子ども園の園児と楽しむための工夫を考え表現している。【思考・表現】(ワークシート・振り返りカード)

(2) 本時の板書計画

こどもえんの子たちにたのしんでもらうための
さくせんをかんがえよう。

- ・みせばんがたのしかった。
- ・むずかしかったけどできた。
- ・ルールせつめいするのがむずかしかった。
- ・ほめてもらったからたのしくできた。

- ・おもちゃ
おもちゃをもっとかんたんにしたほうがいい。
- ・ルール
もっとわかりやすくしたほうがよさそう。
- ・みせづくり
かんばんをつけてあげたほうがわかりやすい。

どんぐりごまはん

- ・まわしかたをおしえてあげる
- ・ルールをやりながらせつめいする

けんだまはん

- ・はいるこつをおしえてあげる
- ・はいったらほめてあげる

めいろはん

- ・みちをかんたんにする
- ・おうえんしてあげる

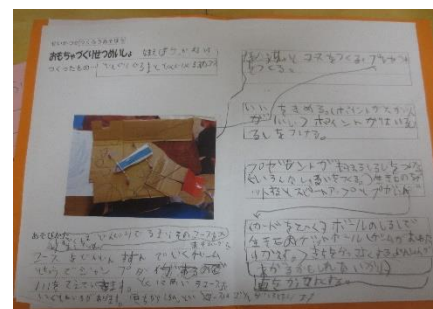
たいこ、マラカスはん

- ・いっしょにえんそうする
- ・しってるきょくでえんそうする

7 実践事例の成果と課題

(1) 学習課題を協働的に追究して学びを深める学習活動の工夫

- おもちゃ作りの際には、座席を生活班にしたり、同じおもちゃを作る児童同士が隣り合うように座らせたりして、学習場面に応じてグループを変えておもちゃを製作させた。友達と遊びながら作らせることで、お互いのおもちゃにアドバイスをし合ったり、よさを認め合ったりする様子が見られた。
- 試しの遊びを繰り返し、児童がお互いに遊んだ感想やアドバイスを付箋に書き、交換したことで、おもちゃを工夫して改良することの楽しさを味わうことができた。また、もらったアドバイスを基に、おもちゃ作りを工夫することができた。
- 話し合いの際には、「園児が楽しめるように」という観点を教師が意識させながら遊びの工夫を考えさせることができた。話し合いの途中で、何班か発表させ、園児に楽しんでもらうという目的や、改善の視点を確認させたことで、児童も視点を明確に話し合うことができた。



【児童の記述】

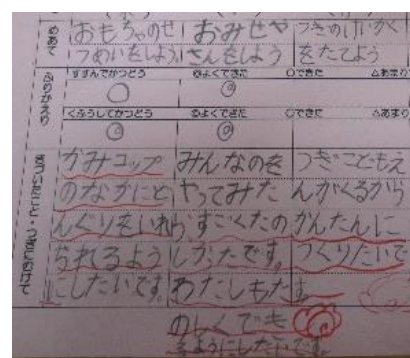
- ・ どんぐりごまのつまようじを短く切ると、びゅんびゅん回ることが分かった。
- ・ 的入れの的を大きくすれば、どんぐりがたくさん入るから、子ども園の友達も楽しめると思う。

- グループでの話し合いは、おもちゃの工夫について意見を出すことができた。しかし、一つ一つの意見を深めたり、さらに付け加えの意見を出したりしながら、グループ全員で決定する話し合いには至らなかった。1年生でも話し合いを進めていけるように、教師がグループに入り、話し合いの経験を重ねる必要がある。



(2) 児童の学習評価についての評価方法の工夫

- 単元を通して毎時間の振り返りを一枚のカードで行ったことで、児童が学習過程を意識して取り組み、活動のゴールイメージをもちながら学習に取り組むことができた。前単元の「たのしいあき いっぱい」から、同じ書式のカードを使ったことで、カードの書き方にも慣れ、短時間で振り返ることができるようになった。
- めあてと振り返りを毎時間カードに記入させたことで、担任が児童一人一人の活動状況を把握することができた。特に、「気付き・次にむけて」の欄には、感想だけでなく「次はこうしたい。」など児童の毎時間の気付きを言葉に残し、単元を通して自己の変容を実感させることができた。



【児童の記述】

- ・ 次の授業では、子ども園の友達が楽しんでもらえるように、おもちゃを改良していきたい。
- ・ おもちゃの工夫をグループで考えたから、次の時間は、みんなで力を合わせて作りたい。

- 振り返りカードを使うことで、活動に主体的に取り組む児童の様子をみとることができた。しかし、児童の気付きの深まりについては、全ての児童から振り返りカードだけでは見切れない部分があった。「楽しかった。頑張った。」だけの振り返りで終わらないように発見カードの工夫や書かせ方の工夫が必要である。



第2学年 生活科学習指導案

指導者 2年2組 大木 雅也

1 単元名 「もっと なかよし まちたんけん」(20時間)

2 単元の目標と観点別評価規準

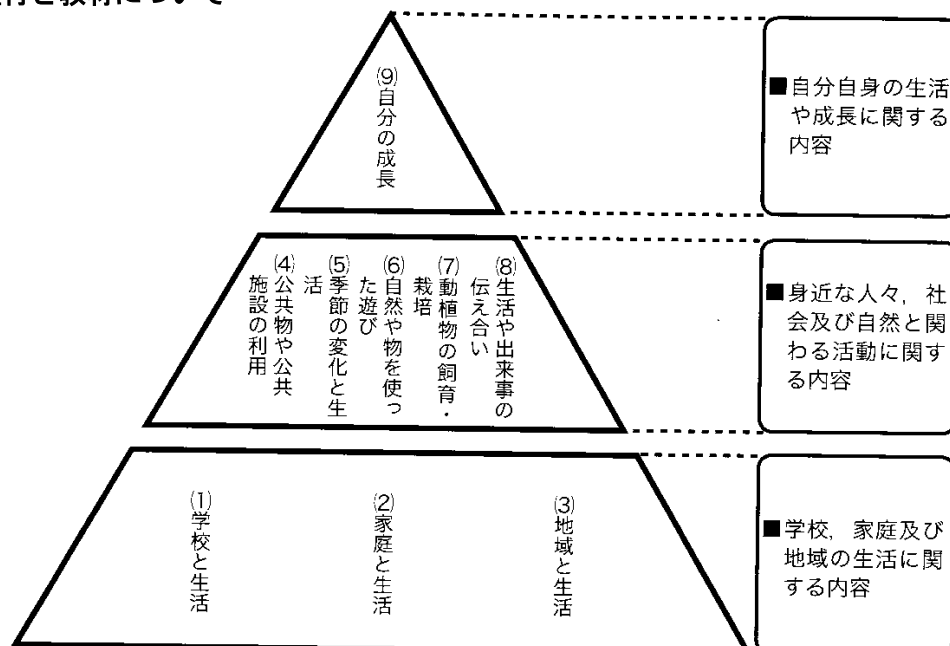
(1) 単元の目標

質問をしたり、いっしょに何かをしたりするなどして、地域の人々と関わる活動を通して、地域には生活したり、働いたりしている人がいることや、それらの人々と自分たちの生活との関わりに気づき、地域の人々に親しみや愛着をもつとともに、人々と適切に接したり、安全に生活したりすることができるようにする。

(2) 単元の観点別評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気づき
①地域の人々や様々な場所に関心をもって関わろうとしている。 ②地域の人々の様子や様々な場所について、見たり、調べたりしようとしている。 ③地域の一員として、マナーを守り、安全に気を付けて活動しようとしている。 ④自分の好きな場所や人、心に残った出来事などを伝えようとしている。 ⑤相手に分かりやすい発表の仕方を考え、練習している。 ⑥自分の好きな場所や人、心に残った出来事などを分かりやすく伝えたり、友達の発表を進んで聞いたりしている。	①行きたい場所や会ってみたい人、してみたいことを決めている。 ②相手や場に応じた行動について考え、活動の計画を立てたり、約束を決めたりしている。 ③好きになった場所や親しくなった人々などのことを振り返り、自分なりの方法で表現している。	①地域には様々な場所があり、そこには多様な人々が生活していることに気付いている。 ②地域には様々な場所があり、それらの仕事に携わっている人がいることに気付いている。 ③地域で生活したり働いたりしている人々の思いや、自分たちの生活との関わりに気付いている。 ④親しみや愛着のある場所が増えたり、人々と適切に接したりすることができるようになった自分に気付いている。

3 単元の位置付と教材について



(1) 本単元の教材について

本単元は、新学習指導要領第3章第2節生活の内容(3)に基づいて設定した。

(3) 地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。

1回目のまち探検で、児童は、自分たちの住む四谷地域には様々な場所があることに気付いた。2回目に行くまち探検では、四谷地域に生活する人々の思いに気付き地域に愛着をもつことを目的とする。

1回目のまち探検では、自分の住んでいる地域に対して関心を向けるために、住んでいる家の周りがある、興味をもった場所について紹介し合った。児童は、自分が普段目にしていない気に入ったものや場所を友達と紹介し合い、友達の発表を聞くことによって、よく知らない場所や行ったことのない場所に興味をもち、まち探検の活動への関心・意欲を高めた。そして、実際に探検に行くことで、今まで知らないものや場所に気付き、地域に親しみをもつことができた。

2回目のまち探検では、1回目のまち探検を基にし、四谷の地域で生活したり働いたりしている人々に焦点を当てる。まち探検では、その場所を利用する人やそこで働く人たちにインタビューしたり質問をしたり、話したりして関わる活動を充実させる。そうした活動を通して、自分たちが生活している地域には、たくさんの人々が関わっていることが分かり、さらに地域に対して親しみや愛着をもち、地域の人々と適切に接することができるようになると考えた。

4 研究主題との関連

(1) 学習課題を協働的に追究して学びを深める学習活動の工夫

児童の気付きの質を高めるためには、自分との違いや新たな視点を児童同士で話し合い、伝達し合うことが大切である。そのため、まち探検で見学やインタビューしてきたことを発表するための方法を話し合う際には、活発に意見交換できる手だてが必要である。

本時では、まず付箋を用いて発表方法、その理由を考える。次にグループになりピラミッドチャートを使用して友達と話し合う。そして「それがなぜなのか」理由を話し合っていく活動を通して、よりよいものがどれなのかを選択をしていく。また発表の中で自分たちのグループとは違う視点や共通点に気付くことができるようにする。友達との意見を比較することが児童の気付きへの深まりにつながる。

(2) 児童の主体的に学習に取り組む態度の育成方法と

学習状況の評価方法の工夫

○振り返りカードの活用

学習問題の追究の見通しをもち、個人や集団で学習調整をしながら進めていくために必要な態度や技能を児童の発達段階や指導内容を踏まえて具体化して児童に示すことで、自己の学びを振り返る指標することが期待できると考えた。本単元では、児童が自己の学びを振り返るために、振り返るための問いの工夫と学びのプロセスに即して作成した「学びの振り返りカード」を活用した。

どきどき わくわく まちたんけん

2年 <みく>)

◎ふりかえろう

あいては、 <u>は</u> かりやすいはっぴょうのし かたをすずんで書えることができた。	よくできた	できた	がんばりで できた	できた
友だちときょうかして、話し 合うことができた。	よくできた	できた	がんばりで できた	できた
	よくできた	できた	がんばりで できた	できた

◎友だちのはなしを聞いて、気がついたこと、これから
やってみよう

5 単元の指導計画（全20時間）

	時	○主な学習活動 児童の学び	・指導上の留意点	■評価
であう	1	○自分のお気に入りの場所や興味のある場所、知っている場所などを話し合う。  いつも三栄町公園で遊んでいるよ。 学校に来る途中にお寺があるよ。	- 自分の生活している地域の中で、お気に入りの場所や興味のある場所などを紹介し合うことができるようになる。 - 知っている場所の絵をかき、地図に貼る。自分の住んでいる周りに何があったか想起させる。	■地域の人々や様々な場所に関心をもって関わろうとしている。 【関・意・態】 (観察・行動)
	2	○自分が行きたい場所を決め、探検の計画を立てる。  友達と遊んでいる公園に行きたいな。	行きたい理由を明確にさせ、行きたい場所を決めるようにする。	■行きたい場所や会ってみたい人、してみたいことを決めている。 【思考・表現】 (ワークシート)
	3・4	○探検の計画や、ルール、マナーを確認し、探検に出かける。（グループごと）  人に会ったらあいさつをしよう。 道の歩き方に気を付けよう。	校外で活動するときの安全やマナーについての約束を確認する。	■地域の人々の様子や様々な場所について、見たり、調べたりしようとしている。【関・意・態】 (行動・観察) ■地域には様々な場所があり、そこには多様な人々が生活していることに気付いている。【気付き】 (振り返りカード)
	5・6	○1回目の探検で分かったことをグループごとに発表する。  初めて知るお店がたくさんあったよ。	探検で分かったことを発表し合うまとめの活動へ見通しをもたせ、さらに知りたいことを考えられるようにする。	■好きになった場所や親しくなった人々などのことを振り返り、自分なりの方法で表現している。 【思考・表現】 (行動・観察・ワークシート)

か か わ る		○さらに知りたいことを話し合い、2回目の探検の計画を立てる。  他の場所にも行ってみたい。坂本屋のお店の人にカステラをどうやって作っているか聞いてみたい。	・前時で子どもたちが発表したことを掲示し、話し合いを進めやすくする。	■地域の人々の様子や様々な場所について、見たり、調べたりしようとしている。 【関・意・態】 (行動・観察・ワークシート・振り返りカード)
	7 ・ 8	○探検の計画やルール、マナーを確認して2回目の探検に出かける。(グループ) 「塩湯」のお風呂場の様子や働く人のお話を見たり聞いたりしたいな。  「わかば」にもう一度行ってインタビューしたい。 ・金駒 ・坂本屋 ・東京堂 ・光タイヤ ・大久保基盤店 ・わかば ・ZOO ・西念寺 ・塩湯	・スマイルクラブの方々に協力を依頼して、グループごとに探検に行く。 ・探検に行く場所や施設に教師が事前に連絡を取り、協力をお願いする。 ・何を聞きたいかをグループで話し合い、決められるようする。	■地域の一員として、マナーを守り、安全に気を付けて活動しようとしている。 【関・意・態】 (行動・観察)
	9	○探検を振り返り、見つけたことや気付いたことをカードにまとめる。  塩湯は100年前からあることを知ったよ。 お客さんの笑顔を見ると嬉しくなると言っていたよ。 他のグループの場所のことも知りたいな。 お店の人にも勉強したことを伝えたいな。	・写真を掲示して探検を振り返りやすくする。	■自分の好きな場所や人、心に残った出来事などを伝えようとしている。 【関・意・態】 (行動・観察) ■地域には様々な場所があり、それらの仕事に携わっている人がいることに気付いている。【気づき】 (ワークシート) ■好きになった場所や親しくなった人々などのことを振り返り、自分なりの方法で表現している。 【思考・表現】 (振り返りカード)

	10 本 時	○グループごとに発表の方法を話し合う。  「わかば」に行って分かったことを他のグループにも伝えたいな。 「塩湯」の人の笑顔の写真を見せたいな。利用している人と話すことが嬉しいと言っていたから。	○司会を決めて話し合う。 ○話し合いを進めやすいように、賛成・反対の意見に分ける。	■好きになった場所や親しくなった人々などのことを振り返り、自分なりの方法で表現している。 【思考・表現】 (行動・ワークシート)
ひろげる	11 ・ 12 ・ 13 ・ 14	○グループごとに報告会の準備をする。  色々聞いたけど、どこをクイズに出そうかな。  他のグループの友達に伝わるように、どんなポスターにすればいいかな。	・発表方法のモデルを示し、他のグループに伝わりやすい紹介文を考えられるように指導する。 ・1グループごとに前後半に分かれ、発表できるようにする。(他のグループの発表を見せられるようにする。)	■自分の好きな場所や人、心に残った出来事などを伝えようとしている。 【関・意・態】 (行動・観察) ■好きになった場所や親しくなった人々などのことを振り返り、自分なりの方法で表現している。 【思考・表現】 (行動・ワークシート)
	15	○発表の分担、声の大きさ、話す速さを確認し、グループで発表の練習をする。 話しているところがどこなのか分かるように、新聞を指しながら話すといいね。  絵を見せてから、話し始め、話した後、絵を見る時間があるといいね。	・分かりやすい発表にするためのポイントが理解できるようにする(声の大きさ・視線・資料の見せ方等)。 ・自分たちの発表を動画で撮影して確認しながら練習させる。	■相手に分かりやすい発表の仕方を考え、練習している。 【関・意・態】 (行動・観察・振り返りカード)

16 ・ 17	○学年で報告会を開き、見つけたことを発表する。（お店の方も招待する。）  大きな声ではっきりと発表できた。写真を見せるタイミングもよかった。写真を見て、驚いてくれて、嬉しかったよ。  それってすごい。私もそのお店に行きたい。	・発表する時に大切なポイントを確認してから、発表を始めるよう助言する。	■自分の好きな場所や人、心に残った出来事などを分かりやすく伝えたり、友達の発表を進んで聞いたりしている。 【関・意・態】 (行動・観察) ■親しみや愛着のある場所が増えたり、人々と適切に接したりすることができるようになった自分に気付いている。 【気付き】 (発言、振り返りカード)
18 ・ 19	○学年合同で報告会を開いて、〇〇さんを招待する。  お世話になったお店の人にも伝えたい。ありがとうを言いたい。  お店の人となかよくなって、まちのことがよく分かるようになった。もっといろいろなところに行ってみたいな。	・地域には様々な場所があり、多くの人々が自分たちの生活を支えていることに気付くことができるようにする。	■自分の好きな場所や人、心に残った出来事などを分かりやすく伝えたり、友達の発表を進んで聞いたりしている。 【関・意・態】 (行動・観察) ■地域で生活したり働いたりしている人々の思いや、自分たちの生活との関わりに気付いている。 【気付き】 (振り返りカード)
20	○学習の振り返りをする。  四谷の町にはたくさんの人が働いていて、私たちの生活を支えてくれているんだ。	・地域の人々と自分たちの生活との関わりに気付くことができるようにする。	■本単元を振り返りこれからの活動に生かそうとしている。 【関・意・態】 (行動・観察・振り返りカード)

6 本時の指導 (10/20時)

(1) 本時のねらい

探検したお店や親しくなった人々のことを発表するために、どんな発表にするか友達と伝え合うことができる。

(2) 本時の展開

	○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◎資料 □指導上の留意点 【評価】
導入	○前時を振り返り、たんけん場所を確認する。 ○自分がまとめカードに書いたことを確かめる。 ・～だった、すごい。 ・～を教えたい。 ・他のグループのことを知りたい。 本時のめあて グループではっぴょうの方ほうを考えよう。	◎前時で使用した振り返りカード □振り返りカードを見ながら、気付いたこと、分かったことを発表させる。
自分タイム	○発表の方法を自分で考える。 ・クイズ ・劇 ・新聞 ・ポスター ・写真 ・作文	□これまでの学習で行った発表方法を想起させる。 ◎付箋 □自分でよいと思う方法を赤字、わけを黒字で書く。
みんなタイム	○どの方法で発表したほうがよいか、なぜその方法を選んだかをグループで話し合う。 ・写真を見せながら話すと分かりやすい。 ・ポスターにした方がみんなで発表できるよ。 ・みんなが楽しめるようにクイズにしたい。	□ピラミッドチャートを使用して、児童の意見を集約、焦点化して、発表方法を決定できるようにする。
	○グループで話し合った方法を発表する。 ・写真を見せながら説明するとイメージできて分かりやすいから、使いたい。 ・「わかば」で見つけた秘密をクイズにして発表するとみんなも参加できるから。 ・「ZOO」で聞いたことをポスターにして、みんなで発表すると、1枚でたくさんことが分かる。	□他グループの発表を聞き、グループの発表の方法を見直すようにする。 【思考・表現】グループでよりよい発表方法について考え伝え合っている。(ワークシート)
振り返りタイム	○本時を振り返り、次時の学習につなげる。 ・いろいろな発表方法のよいところがあった。 ・発表の準備がしたい。	◎振り返りカードを書き、次時への見通しをもつようにする。

(3) 本時の板書計画

グループではっぴょうの方ほうを考えよう。

これまでの学習の発表写真

これまでの学習の発表写真

ほうほう

紙しばい

ポスター

しゃしん

クイズ

しんぶん

げき

・クイズ ・しゃしん ・げき ・しんぶん ・ポスター

1

2

3

4

5

6

げき

しんぶん

クイズ

紙しばい

ポスター

しゃしん

7 実践事例の成果と課題

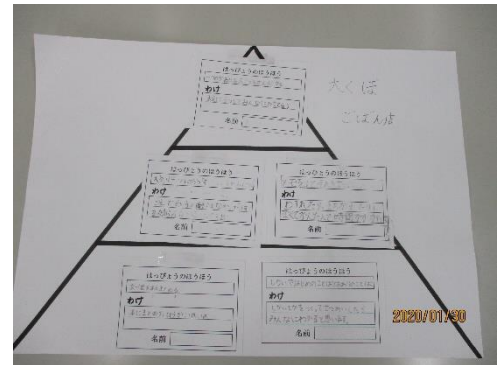
(1) 学習課題を協働的に追究して学びを深める学習活動の工夫

○ピラミッドチャートを使ったことでグループで発表方法を話し合う際に、よりよいものを選択しようとする様子が見られた。発表の中で自分たちのグループとは違う視点や共通点に気付く児童が見られた。

【児童の記述】

- ・新聞のほうはあったときにみんなが見られるから。
- ・お店の人のえがおのしゃしんを見せたい、お客さんと話すときがうれしいと言っていたから。

- 児童が写真など、様々な発表方法を経験していないため、発表のイメージがもてず、話し合いが活発化されなかった。
- 本実践でのグループでの話し合いは、司会を決めて進めたが、日々の授業から計画的に話し合いの場を多く設け、経験させていく必要がある。
- 児童が思考を整理できるよう、「見つける」「比べる」「関連付ける」などの場面に応じて、言葉かけや板書を工夫する必要があった。



(2) 児童の学習状況についての評価方法の工夫

○単元を通して毎時間の振り返りを行ったことで、児童が活動の流れを意識して取り組み、活動のゴールのイメージをもちながら見通しをもって学習に取り組むことができた。

○振り返りカードを記入させたことで、担任が一人一人の活動状況を把握することができた。特に「気付き・これからやってみたいこと」の欄には、感想だけでなく「次はこうしたい」等のように、児童の毎時間の願いを言葉に残し、自己の変容を実感させることができた。

【児童の記述】

- ・インタビューで聞いてきたひみつをクイズにしたい。
- ・しゃしんをつかって友だちといっしょに絵本にまとめたい。

- 児童の気付きの深まりについては、全ての児童から振り返りカードだけでは見切れない部分があった。「よかった。」「楽しかった。」だけの振り返りで終わらないように、カードの工夫や書かせ方の工夫が必要である。



第3学年 社会科学学習指導案

指導者 3年1組 柳沼 麻美
3年2組 白澤恵梨香

1 小単元名 「わたしたちの暮らしと販売の仕事」(12時間)

2 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

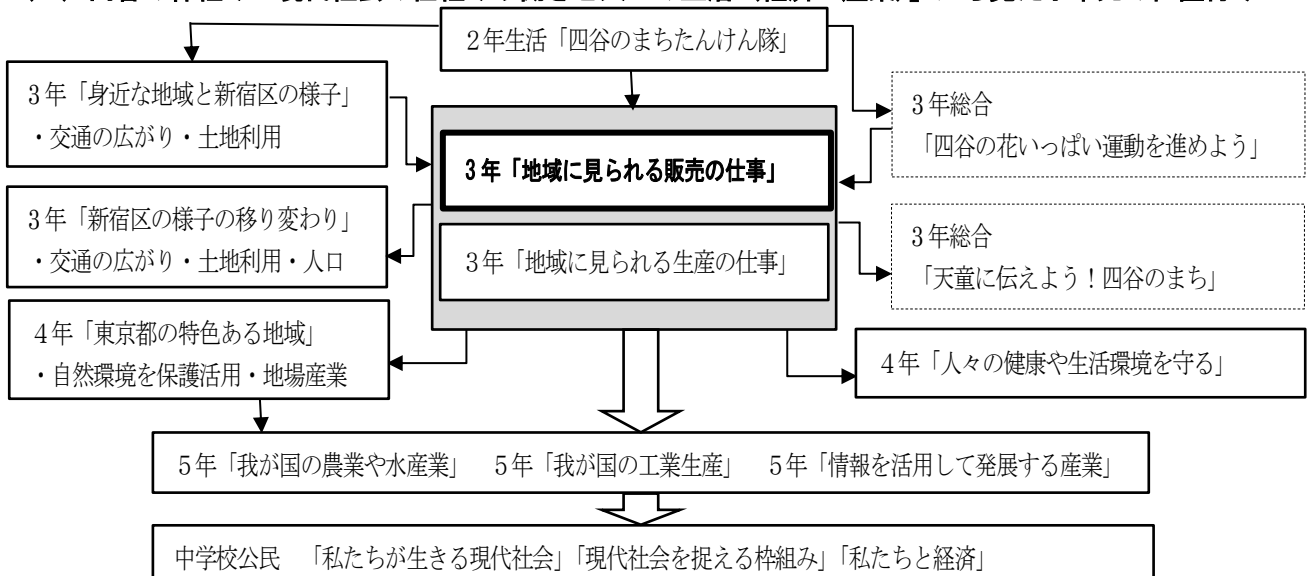
- 販売に携わっている人々の仕事の様子について、消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して問いを見だし、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして白地図などにまとめ、調べたことを分類したり、消費者の願いと関連付けたりして考え、適切に表現することを通して、販売の仕事は消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう工夫して行われていることを理解できるようにする。
- 地域に見られる販売の仕事について、学習問題を主体的に調べ解決しようとするとともに、学んだことを消費生活に生かそうとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどについて、買い物調べをしたり商店を見学して調査したり地図などで商品の仕入れ先などを調べたりして情報を集め、読み取り、販売に携わっている人々の仕事の様子を理解している。	①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して問いを見だし、販売の仕事の様子を考え、表現している。	①地域に見られる販売の仕事について、予想や学習計画を立てたり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②読み取った情報を白地図や図表にまとめ、販売の仕事は消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高めるよう工夫して行われていることを理解している。	②調べたことを基に、観点ごとに販売の仕方を分類して工夫を考えたり、販売の仕事と消費者の願いを関連付けて工夫を考えたりして文章で記述し、図表などにまとめたことを基に説明している。	②地域に見られる販売の工夫について学習したことをもとに、これからの消費生活に生かそうとしている。

3 小単元について

(1) 内容の枠組み「現代社会の仕組みや働きと人々の生活(経済・産業)」から見た小単元の位置付け



(2) 指導内容の構造

現行学習指導要領 第3学年内容(2)

アの(イ)：販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解すること。

アの(ウ)：見学・調査したり地図などの資料で調べたりして白地図などにまとめること。

イの(イ)：消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現すること。

※【 】は、視点と方法を示す。

問い：私たちは、どこでどのような物を買っているのだろう。【消費者の願い】
【商店の分布】

知識：四谷の地域には、いろいろな種類の店がたくさんあって、目的に応じて買い物をする店を決めている。
：食料品の買い物が多く、特にA店で食料品を買う人が多い。
資料：四谷地域のお店マップ
：買い物調べカード
：買い物調べの集計グラフ

<出会い>

A店のバックヤードを見学してたくさんの段ボール箱があることから他地域や外国との関連に気付く。

問い：A店の商品はどこから来ているのだろう。【他地域や外国との関わり】
知識：A店では、東京以外の県や外国からも様々な商品を仕入れて販売している。
資料：段ボール等の表示の写真
：仕入れ先の日本・世界地図

<出会い>

先生が1週間どのような買い物をしているかを知り買い物や利用するお店に関心をもつ。

<学習問題>

A店にたくさんの人が買い物に来るひみつは何だろう。

問い：A店には、なぜたくさんのお客が集まるのだろう。

種類ごとに分けて考えてみよう。

活動：見学や調査で分かったことをカード化して分類・整理する。【分類】

問い：お店の人の工夫は買い物客の願いとどうつながっているのだろう。

活動：買い物客の願いと分類・整理した工夫を線でつなげる。【関連付け】

知識：A店では、売り上げを高めるために、買い物に来る人の多様な願いに応える工夫をしている。

問い：A店以外のスーパーではどのような工夫をしているのだろう？

【比較】

知識：売り方を工夫したり、チラシや広告を出してお客を呼び込もうしたりするのは同じだけど、どの店もそのお店に来るお客の願いに合わせた特色ある売り方の工夫をして売り上げを高めようとしている。

資料：見学カード お店の写真 個々の工夫を整理した比較表

問い：A店ではどのような売り方の工夫をしているのだろう。

【販売の仕方】

知識：買いやすいようにきれいに並べている。

：タイムセールなどで安く売っている。

：お客がほしがる新鮮なものを売っている。

資料：お店の見学カード

：商品陳列の写真

：お店の人のインタビュー

問い：A店ではたくさんの人に来てもらうためにどのようなことをしているのだろう？

【集客の仕方】

知識：買い物に来てもらうために、チラシを配布したり、のぼりや広告を掲示したりしている。

：お客を待たせないようすばやく会計ができるレジを用意している。

：食料品以外にも雑貨屋や本屋も同じ建物の中にある。

資料：折り込みチラシ

：店の見学カード

：店の人のインタビュー

問い：お店のよさをどう伝えようか。【総合】

活動：それぞれのお店のお客にとってのよさをポスターにして説明し合う。

<社会との関わり>

問い：私たちはどのように買い物をしていくとよいのだろう。

四谷にはたくさんのお店があり、それぞれのお店の人たちが買い物客の願いに応える販売の工夫をしているから、これからは私たちが、店の特長や広告などの情報をよく知って買い物をしていくことで、欲しいものを安く買うことができそうだ。

(3) 本小単元の教材について

本小単元は、買い物調べを基に児童が家族に聞き取りをしたり見学により店の様子の観察や働く人への聞き取り調査ができたりするなど具体的な調査活動ができる単元である。見学により調べた事実（店が具体的にやっている事柄）を販売や集客の拡大のための工夫として捉えることで、消費者の願い（ニーズ）に基づいて店が経営され売り上げを高めているという、経済的な活動に気付せる単元でもある。

取り上げる店としては、四谷三丁目にあるA店を中心に、消費者の異なるニーズに応える複数の店を取り上げる。児童が、A店をモデルとして学習し、その店の工夫と比較しながら、他の店も調べることでどの店も消費者のニーズをふまえて工夫して販売の仕事を行っていることを理解できるようにしていきたい。また、「いかす」段階では、調べた店の工夫やよさが伝わるポスターに表現することで、地域の販売の仕事について学んだことを消費生活に生かしていこうとする態度を育てていきたいと考える。

【本小単元で見学するスーパーマーケットの特徴の分析】

店の名称	スーパーマーケットの特徴
A店（四谷三丁目・新宿通り沿い）  店舗面積が広く、品揃えが充実している。四谷地域で一番売れている店で、幅広いお客のニーズに応える販売の工夫をしている。	・1階は文房具、飲料、日用品、生鮮品以外の食品、弁当や揚げ物などのコーナー、そして支払いのレジがある。 ・2階は生鮮食品、その食品を加工した弁当などが置かれている。 ・混雑緩和のため、客が自分でお金を投入するシステムが導入された。 ・日曜日はメガ売りをしており、消費者のニーズに合わせた量や品揃えを考えている。 ・毎月の第〇曜日などによって、肉の特売日、魚の特売日などが決まっています、イベントを多く企画している。 ・無添加の食品を多く、扱うようにしている。 ・外資スーパーや他のスーパーのブランドの品物も置いている。 ・駐車場あり。・ポイントカードがある。・花を置いている。 ・新宿区を移動販売していたり、配送サービスをしたり、買い物に不便を感じている人（高齢者など）に対して配慮した取組をしている。 ・使用したペットボトルなどの回収（リサイクル）に取り組んでいる。 ・お客さんの声を集めて掲示し、店作りに生かしている。 ・従業員100名程度。（1日に働く人80人。深夜2時まで営業のため。）
B店（若葉町・住宅街）  雨の日特売など独自のサービスを行う。坂を上らなくても地域の人は買い物ができる。	・A店よりは狭い。・外資スーパーの商品も置いている。 ・建物が、生鮮品エリア、食品・日用品エリアが分かれている。 ・隣には、精肉店がある。焼鳥屋の屋台も出ている。 ・お買い得の野菜は、外に並んでいる。 ・輸入食品や日用品、雑貨など置いている。 ・雨の日サービスがあり、雨の日だと一部の商品が安かったり、雨の日スタンプカード（独自）のスタンプがたまると値引きされたりする。 ・住宅地にあることで、地域の住民が近くで買い物ができる便利さがある。周辺にはあまり店がない。（坂が多いため、高齢者やベビーカーを押す人などは助かっている。） ・総菜をバックヤードで作っている。・花を置いている。 ・A店と同じポイントカードがある。
C店（四谷2丁目）  コンビニ型スーパーマーケットで、夜遅くまで営業している。一括仕入れにより安く販売しており、共働き家族の利用が多い。	・A店よりは狭い。 ・ポイントカードがある。ポイントが数倍の日が月に数回ある。 ・店舗独自の銀行ATMがある。 ・総菜をバックヤードで作らず、配送されている。（コンビニ的スーパーマーケット） ・安く提供できるように、系列店全体で仕入れ値が決まっている。 ・狭いが、飲み物、お菓子、パン、生鮮品（野菜、肉、魚、フルーツ）が一通り揃う。そして、安い。まとめ買いをするような場合は選ばれない。 ・こまめに買いに行く人が多い。（店もそこを狙っている。） ・お買い得な日用品や水などの飲み物は外に並んでいる。 ・花を置いている。



(4) 児童の学びが深める問題解決的な学習過程と「問い」の構成の工夫

本小単元では、学習指導要領や解説から、着目させたい視点や考える方法を抽出（【】で表現）し、その視点や方法が働くように促す追究の問いを設定し、学びのプロセスに即して構成を下記のように考えた。

学習問題を把握する問い	私たちは、どこでどのような物を買っているのだろう。 【消費者の願い】【商店の分布】
単元の学習問題	A店にたくさんの人が買い物に来るひみつは何だろう？
↓ 事実を追 究し捉え る問い	A店ではどのような売り方をしているのだろう。【販売の仕方】 A店ではたくさんの人に来てもらうためにどのようなことをしているのだろう。【集客の仕方】 A店の商品はどこから来ているのだろう。【他地域や外国との関わり】
特色や意味を考 える問い	A店には、なぜたくさんのお客さんが集まるのだろう。種類ごとに分けて考えてみよう！【分類】 店の人の工夫は買い物客の願いとどうつながっているのだろう。【関連付け】 A店以外のスーパーはどのような工夫をしているのだろうか。【比較】
社会との関わり を考える問い	店のよさを買い物する人にどう伝えとよいのだろう。【総合】 私たちはどのように買い物をしていくとよいのだろう。【生活と関連付け】

4 小単元の指導計画と評価計画 (12時間扱い)

	ねらい	○主な学習活動●評価の活動問問い・児童の反応	◎資料□指導上の留意点【評価】
つかむ	自分や家庭での買い物経験を基に、地域の販売の仕様の様子に関心をもつ。①	○自分の家庭の買い物経験を振り返って話し合う。 問：私たちはどこでどのような物を買っているのだろう。 ○四谷にある店について地図で確かめ、自分たちの買い物調べの方法を確かめる。 ・いろいろなお店で買い物している。 ・家庭によって買い物に行く店がちがうようだ。 ●疑問や知りたいことをノートに書く。	◎先生の1週間の買い物調べカード □先生の買い物をモデルに自分の買い物経験を話し合わせる。 □教科書や副読本を参考に買い物調べの見通しをもたせる。 【態度①】家庭の買い物に関心をもち疑問をもっている。(ノート)
	家庭学習	○1週間の買い物を調べ学習カードに記録する。	【態度①】(学習カード)
	買い物調べの結果を分類して地図に整理し、四谷地域の商店の広がりや買い物の傾向について理解する。②	問：学級の買い物調べの結果を整理するとどのようなことがわかるのだろう。 ○買い物調べの結果を買った店と買った物の種類別に色シールで四谷の地図に整理する。 ●買い物地図を見て気付いたことをノートに書き話し合う。	◎買い物地図、店の写真、買い物調べまとめ用グラフ、買い物調べカード □グループで集計したものを基に学級全体で地図にまとめるようにする。 【知技①】買い物調べの結果を地図に整理し、店の分布や買い物の傾向に気付いている。(ノート)
	買い物調べの結果から生まれた疑問などを基に、学習問題を設定し、学習計画を立てる。③	○気付いたことや疑問に思ったことを紹介し合う。 ○学級で調べる学習問題を設定する。 A店にたくさんの人が買い物に来るひみつは何だろう。 ○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・品物の種類や量が多いから。 ・大きな道路の近くあるから。 ・イベントや子供のガチャガチャがあって人が来る。 ・その他 ●つかむ段階の学習を振り返りカードに記入する。	◎買い物調べをまとめた地図、店の写真 □疑問を集約して学習問題を設定する。 □学習問題に対する予想を考え、見学の計画を立てる。 【思考①】学級で話し合ったことを根拠にして、調べていくことを考えている。(ノート) 【態度①】学習計画の作成を通して見学の見通しをもっている。(学びの振り返りカード)
調べる	スーパーマーケットの見学をして、店で働く人の販売の仕事について必要な情報を集めることができる。④	問：予想したことは合っているのだろうか。実際にA店を見学して調べてみよう。 ○事前に設定した観点に即して観察したり、店の人に聞き取りしたりして見学する。 ・やっぱり予想していた通りだった。 ・予想していなかったことも分かった。 ●見学で分かったことをカードに記録する。	◎見学カード □見学に当たっては、【品物】、【店の様子】、【働く人】、【その他】の観点に基づいて観察するようにする。 【知技①】見学の観点に即して観察したり聞き取りしたりしたことを見学カードに記入し、店の工夫に気付いている。(見学カード)
	見学で調べたことを基に、店の人は品物を売るためにどのような工夫をしているのか考え、販売の工夫を理解する。⑤	問A店ではどのような売り方の工夫をしているのだろう。 ○見学カードを分類・整理して、売り方の工夫について分かったことを話し合う。 ・【品揃え】同じ種類でもさまざまな品物がある。 ・【店の様子】特売の表示や分かりやすい表示がある。 ・【店の様子】ついでに買えるように近くにお客が作れる材料が置いてある。→売れる並べ方 ●売り方の工夫のまとめをノートに書く。	◎商品陳列の写真 □売り方の工夫に着目して、調べてきたこと分類して板書に整理するようにする。 ◎店の人のインタビュー(文章資料) 【思考①・知技①】販売の仕方に着目して集めた情報から問いについて考え、売り方の工夫を理解している。(ノート)
	見学で調べたことを基に、集客のためにどのような工夫をしているのかを考え、販売の工夫を理解する。⑥	問A店ではたくさんの人に来てもらうためにどのようなことをしているのだろう。 ○見学カードを分類・整理して、たくさんの人に来てもらう工夫について話し合う。 ・特売イベントのポスターやのぼりを用意する。 ・エレベーターやエスカレーターは高齢者に便利。 ・サービスカウンターでお届けサービスがある。 ・ポイントカードや子どもガチャガチャがある。	◎チラシ、のぼり、看板などの写真 ◎様々なサービスの広告 □買い物をする人に着目して、お客を集める取組の目的について考えることで、集客の工夫に気付かせるようにする。 ◎店の人のインタビュー(文章資料) 【思考①・知技①】集客の仕方に着目して集めた情報から問いについて考え、集

	店で販売する品物について、日本地図や世界地図を用いて産地を調べ、私たちの生活は外国や他地域とつながりがあることを理解する。⑦	●お客を集める工夫のまとめをノートに書く。 ○見学前に予想しなかった発見を紹介し合う。 問：A店の商品はどこから来ているのだろう。 ○A店で売っている品物の産地を調べる。 ・全国各地から品物が来ている。 ・外国からもたくさんの品物が来ている。どうやってきているのだろう。 ●調べて分かったことをノートに書く。 ・A店はみんなが欲しがるか考えながら、日本各地や外国からも品物をそろえている。 ●学習問題の解決にたどり着いたか話し合う。 ・調べたいことはだいたいできたからまとめた。	客の工夫を理解している。(ノート) ◎段ボールの写真や商品ラベル ◎日本地図や世界地図 □産地名をもとに地図を使って調べ、日本と品物の産地とを結ぶようにする。 ◎店長さんの話 (外国産のニーズ) 【思考①・知技①】他地域や外国との関わりに着目して地図で調べた情報から問いについて考え、そのつながりを理解している。(ノート) 【態度①】学習問題の解決に向けて必要なことを調べることができたかを振り返っている。(学びの振り返りカード)
	販売の工夫を消費者の願いと関連付けて考えることを通して、学習問題についての自分の考えを文章にまとめる。⑧	問：A店にはなぜ買い物客がたくさん来るのだろう。 ●販売の工夫の目的を話し合い、自分が考えたA店のひみつをノートに書く。 A店の人気のひみつはたくさんある。例えば、「品揃え」では、一つの種類のものでも、何種類もそろえていたり、肉のとなりに料理に必要なものをついでに買えるようにしたりしている。お客さんもついでに何でもそろえるから、店を選んでいる。また、安心・安全な食べ物をそろえているから、信用されてまた人が集まってくるのだと思う。A店は、お客さんの願いを考えて店づくりをし、お客さんを集め、たくさんの品物を売っていることが分かった。 ○A店以外の店が利用される理由を話し合う。	◎A店の店長さんの話 (店づくりの理念の3つの柱) □販売の工夫の目的を話し合うことを通して、買い物客の願いと販売の工夫を線でつなげて話し合えるようにする。 【思考②】販売の工夫を分類したり消費者の願いと関連付けたりして工夫を考えている。(ノート) 【知技②】A店の人気の秘密を自分の言葉でまとめ、消費者の願いを踏まえて売り上げを高めるよう工夫していることを理解している。(ノート) □A店以外のスーパーの工夫を予想させ、見学の見通しをもたせる。
ま と め る	A店以外のスーパーの工夫について予想したことをもとに学級で別の店の見学を通して情報を収集する。⑨	問：A店以外のスーパーでは、どのような工夫をしているのだろう。 ○学級で見学先を選択してスーパーマーケットの工夫を調べる。 ・これは違う工夫だな。 ・A店と同じ工夫だな。	◎買い物地図と各商店の写真 □A店より規模の小さい店も独自の工夫があることを意識させる。 □A店の見学の経験を生かして別のスーパーマーケットを見学する。 【知技①】すでに学んだA店の販売の工夫を基に見学・調査し、それぞれの店の工夫を理解している。(ノート)
	スーパーマーケットの販売の工夫を比較し、どの店にもそれぞれのお客のニーズを踏まえた売り上げを高める販売の工夫があることを理解する。⑩	○それぞれの店のよさを話し合い、3つの店の販売の工夫を比較表に整理する。 ・どの店もチラシなどを出して客を集めている。 ・B店は、若葉町の人たち向けに、雨の日に特売をし、お客さんが集まるようにしている。 ・C店は、働いている人向けに営業時間が長くして、なるべく安く買えるようにしている。 ●売り上げを高めるスーパーの工夫をノートに書く。	□1組と2組で分担して調べた店の工夫をグループで紹介し合う。 □3つの店の比較表を拡大掲示して共通点と相違点を考えるようにする。 【思考②・知技②】表に整理した販売の工夫の比較を通して、消費者の多様な願いを踏まえた売り上げを高める販売の工夫を理解している。(ノート)
	家庭学習	○個人で担当する商店を調査する。(夏季休業中)	【態度①】
い か す	それぞれの店の工夫やよさをポスターにまとめて表現する。⑪	○個人で調べてきた商店の工夫を紹介し合う。 問：店のよさをどう伝えとよいのだろう。 ●商店のよさを伝えるポスターにまとめる。 ・100円ショップは、安いのに品揃えが多い。だから、みんなにとって分かりやすいし、嬉しい。	□地図に整理した店から一つを選択してポスターにまとめるようにする。 【思考②・知技②】商店の工夫を総合して店のよさとして表現し、多様な販売の工夫を理解している。(ポスター)
	これからの買い物の仕方について自分の考えをまとめ、地域の販売についてさらに考えたことを文章にまとめる。⑫	問：私たちはどのように買い物をしていくとよいのだろう。 ○3つのスーパーや個人で調べた商店のよさをもとに考えたことを話し合う。 ●これからの買い物にどう生かすか考えて書く。 店にはそれぞれの工夫があつて、そのよさを知ると、品質のよいものや安いものなど、自分の願いをかなえる買い物ができる。私たちもこれからの買い物に生かしたい。	◎買い物地図 ◎商店のポスター ◎3つのスーパーの工夫の比較表 【態度②】学んだことをもとに考えて生活に生かそうとしている。(ノート)

5-1 本時の指導（6／12時）

（1）本時のねらい

○見学で調べたことをもとに、集客の仕方に着目して、たくさんの人に来てもらうためのA店の工夫を考え、理解することができる。

（2）本時の展開

	○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◎資料 □指導上の留意点 【評価】
導入 (5)	○前時の学習を振り返る。 ・ A店は、いろいろな種類のものをかえるように品揃えをよくしていて、売り方の工夫をしていた。	◎店の売り方の工夫（前時の内容）が分かる掲示物（模造紙）や写真 □学習計画を掲示し、本時の問いを確認する。
	本時の問い：A店ではたくさんの人に来てもらうためにどのようなことをしているのだろう？	
自分 タイム (7)	○たくさんの人に来てもらう工夫をノートに書く。 ・ チラシやのぼりでお客さんに伝えている。 ・ エスカレーターやお茶が置いてある。 ・ ポイントカードが使える。	◎見学カード、店の様子が分かる写真（チラシ、のぼり、看板など） □調べてきたことの中から、お客さんを集めるための工夫を見つけ出すようにする。
みんな タイム Ⅰ (15)	○たくさんの人に来てもらう工夫について話し合う。 ・ 特売のイベントのポスターやのぼりが飾られている。 →安さで人を集める。 ・ 駐車場がある。→車で来やすい。 ・ サービスカウンターでお届けサービスをしている。 →楽に買うことができるから来たい。 ・ ポイントカードでポイントがたまる。 →値引きになるから使って買いたい。	□グループで発表カードに書く。見学カードに書かれた内容を分類・整理して、視覚的に捉えられるようにする。 □店の人がしていることの目的を考え、お客さんを集める工夫を色分けして書く。 ◎店の人の話（文章資料）
みんな タイム Ⅱ (10)	○たくさん工夫があった中で、A店の1番のひみつは何かを話し合う。 ・ チラシを配ったり、特売日を毎週やったりしているから、安く買いたい人が集まると思う。 ・ お茶のサービスやガチャガチャは、お年寄りにも子どもにもやさしいからよいと思う。	◎店の様子が分かる写真 □発表された工夫の中から自分が1番のひみつだと思えるものを選び、その理由を話し合う。 □必要に応じて発表に関連する写真を提示して確かめ合うようにする。
振り返り タイム (8)	○お客さんを集める工夫のまとめをノートに書く。 ！A店では、お客さんを集めるために、安さを知らせるためにチラシを配ったり、特売日を毎週やったりしている。ポイントカードやお茶のサービスなど店に「来きたいな」、「買いたいな」ということをしているから、子どももお年寄りもたくさんの人が集まって買い物をするのだと思う。 ○今日の学習を通してできるようになったことや次の時間のめあてなどを記入する。	【思①知①】集客の仕方に着目して集めた情報から問いについて考え、お客の集め方の工夫を記述している。（ノート） □学習の仕方を振り返り、次時のめあてを記入できるよう、「学び方カード」を活用する。

（3）本時の板書計画

A店ではたくさんの人に来てもらうためにどのようなことをしているのだろう。			
自分タイム 考えをノートに書く みんなタイム 発表し合う	せん伝のくふう ・ 特売日のカレンダー ・ のぼり ・ チラシ ・ 特売カレンダー 写真	買いやすさのくふう ・ 駐車場（障害者マーク）⇒遠くの人 ・ エスカレーター ・ エレベーター ・ おとどけサービス ⇒小さな子どもの母親、高齢者、障害のある人…だれでも	くり返しきてもらうくふう ・ ポイントカード ・ 子ども用ガチャガチャ ・ お客さんの声コーナー ・ サービスカウンター、レジの人 ⇒笑顔、困ったときに聞きやすい。
【考えたこと】 ・ 特売日や安さがわかるチラシやポスター⇒安売りはお客さんはうれしいから ・ ポイントカード⇒さらに安くなるから ・ お茶、お届けサービス、ガチャガチャ⇒子どももお年寄りも「来きたいな」、「買いたいな」。 ・ 品揃えがいい⇒行けば何でもそろうから、それも人が集まるひみつ。 ふりかきタイム			
A店のひみつは・・・・・・			

5-2 本時の指導（10／12時）

（1）本時のねらい

○3つのスーパーマーケットの販売の工夫を比較し、どの店にも、消費者のニーズを踏まえた販売の工夫があり、それは売り上げを高めるにつながっていることを理解することができる。

（2）本時の展開

	○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◎資料 □指導上の留意点 【評価】
自分 タイム (5)	○前時の学習を振り返り、今日の学習の見通しをもつ。 ・1組は「B店」に見学に行って、2組は「C店」に行ってきたので、隣のクラスに伝えます。 本時の問い：「B店」や「C店」は、どのような工夫があるのだろうか？	□掲示した学習計画を見て、本時の問いと今日の学習の進め方を確認する。
みんな ① タイム (7)	○となりのクラスの人に何を伝えるか一人一人が確認する。 ・B店の・・・を伝える。・Cの・・・を伝える。	□自分が伝える工夫を確かめ準備する。
みんな タイム ② (15)	○グループの違う組の相手にそれぞれの店の工夫を伝える。 ・B店は、坂道を上るのが苦手な高齢や・・・。 ・C店は、夜遅くまでやっていて仕事帰りに・・・。 ○それぞれの店の工夫を発表し合い、3つの店の販売の工夫を比較表に整理する。(全体) ・どの店もチラシなどを出して客を集めている。 【B店】 ・若葉町の人たち向けに、雨の日に特売をしている。 ・A店と同じく、お茶を出していて、お客にやさしい。 【C店】 ・A店と似ていて、夜遅くに仕事から帰ってくる人向けに営業時間が長くして、なるべく安く買えるようにしている。 ・ATMでお金がおろせたり、ポイントカードでお得になったりすることがよいところだ。	◎店の工夫が分かる写真（一人一人） □1組と2組で分担して調べた店の工夫をグループ内で紹介し合わせる。 ◎店の比較表（児童・教師用） □見学に行っていない店の工夫について聞いた児童に発言させ、見学に行った学級の児童に補足の発言をさせるようにする。 □3つの店の比較表をホワイトボードに拡大掲示して、共通点と相違点を視覚的に捉えやすくする。 □必要に応じて発表に関連する写真を提示して確かめ合うようにする。
みんな タイム ③ (10)	○「A店」と「B店」や「C店」の販売の工夫を比較して、共通点と相違点について話し合う。(全体) ・B店は、坂の下に住む、若葉町あたりの近くに住む人に向けた、雨でもおとくなサービスをしている。 ・C店は、通りかかった人でも、「ついでに」、「思いついたときに」買えるくふうをしている。 ・どの店も、近くに住む人や来そうなお客さんのことを考えて、売るための工夫をしている。 ・お客さんのことを考えているのは、やはり、A店と同じく売り上げを高めようとするためだ。だから店が続いている。	□すでに学習しているA店の工夫を基に共通点と相違点を考えるようにする。 □下線や色分けして共通点に着目できるようにしたり、それぞれの店の工夫をまとめた言葉を考えたりして、特長に気付かせる。 □「なぜ店の工夫に違いがあるのか」を考えることにより、どの店にも、消費者のニーズを踏まえた販売の工夫があり、それは売り上げを高めるにつながっていることに気付くようにする。
振り 返り タイム (8)	○今日の学習から、分かったことや考えたことをノートに書く。 ○今日の学習を通してできるようになったことを振り返り、次の時間に向けたためあてなどを書く。 「B店も、C店も、少しせまいけれどお客さんを集めるために、A店とはちがった工夫をしていました。どのお店もお客さんに合わせた工夫をして何回も来てもらい、店がもうかるようにしていることは同じだと分かりました。 スーパー以外のほかの店でもそうなのかな調べてみたいです。」	【思考②・知技②】表に整理した販売の工夫の比較を通して、どの店にも共通する消費者のニーズを踏まえた売り上げを高める販売の工夫の大切さを理解している。(ノート) □振り返りタイムでは、みんなタイムⅡのことを使って、自分のまとめをしていく。 □また、早く書き終えた児童には、「学び方カード」を活用し、学習の仕方を振り返り、次の学習に向けての記述をするようにする。

（3）本時の板書計画

「B店」や「C店」には、どのようなひみつがあるのだろう。

自分タイム かくにんをする。

B店	A店	C店
・雨の日とく売 ・雨の日スタンプカード ・坂の下の人のために お年寄り、ベビーカーの人 ・ポイントカード ・おそうざい	・品ぞろえがいい ・店が広い ・とく売日 ・イベント ・お茶 ・お客さんに合わせて ・ポイントカード	・ATM ・ポイントカード ・夜おそくまで ・まとめて仕入れて、安く ・せまいけど品ぞろえ◎

みんなタイムⅠ 聞いたことからみんなて表にまとめる。⇒まとめると・・・

【にていること】
【すべて】
お客さんに合わせて
おとくに、安く
ポイントカード
【B店とA店】
お茶のサービス
いっしょのポイントカード
【C店とA店】
夜おそくまで

お客さんに合わせたくふう

みんなタイムⅡ

・どの店もお客さんのねがいに合わせて、自分の店らしくふうをしている。(せまくても、広くても)
・どの店も、売り上げを上げるために、それぞれの店らしくふうしている。
・せんもん店やほかの店は、どうだろう？

【ふりかえりタイム】
・B店もC店も、A店よりせまいけど、自分の店らしい、売るためのくふうをしていた。
・どの店も、お客さんに合わせてくふうし、売り上げをのぼそうとしていることが分かった。

ちがいは

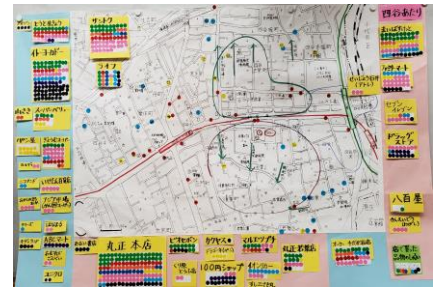
坂の下の人が雨でもおとく楽しく買い物	広い店でめずらしいものもたくさん買える	通りがかりの人でもついでに、ちょっとでも安く買い物
--------------------	---------------------	---------------------------

お客さんを呼びたい、売りたい
店→どの店も、もうけたい

6 実践事例の成果と課題

(1) 社会的事象の見方・考え方を働かせることができる教材開発

- 「買い物調べ」後に、地域の店の分布を地図に表し、どの店でどのようなものを購入していたのかをシールで捉えられるようにしたことで、複数の店を比較し、それぞれの店のよさを理解することができた。
- 児童は、分布に着目して商店が新宿通り沿いや駅の近くに広がっていることや、地形と買い物行動をつなげて考え、坂の下に暮らす人々によく利用される商店の存在に気付くことができた。



【A児の記述】

四谷にはいろいろなしゅるいの店があちこちにある。新宿通りぞいにスーパーなどのお店が多い。駅の近くには食べ物を売る店が多い。家の人は、買うものによって店をえらんで買い物をしていた。

- 複数の店を比較し、それぞれの店のよさを理解することができた半面、指導時間や教材研究にかかる時間は多かった。指導内容を精選して、次年度の指導に生かすとよい。

(2) 学習問題を協働的に追究して学びを深める学習活動の工夫

- 学習問題を追究するために、スーパーマーケットの見学・調査を行った。「お客さんを集めるためにどのようなひみつがあるのだろう。」という問いに向かって一人一人が調べ、学級全体でどのようなひみつがあったのかを短冊に書いて話し合い、店の工夫として理解することができた。
- スーパーマーケットで働く人から店内やバックヤードで実物を見ながら教えてもらったことで売り上げを高めるためにさまざまな工夫をしていることを実感しながら捉えることができた。



(3) 児童の学びが深まる問題解決的な学習過程と「問い」の構成の工夫

- 資料として「地域の店の地図」を作成したことで、取り上げたA店だけでなく「ほかの店はどうなのだろう。」という問いが自然と生まれ、児童がそれぞれの店の工夫を捉え、比較しながら学習できた。
- 見学でスーパーマーケットのバックヤードを見学させてもらうことで、商品の産地に着目して「品物はどこから来ているのか。」という問いが生まれた。

(4) 児童の学習状況についての評価方法の工夫

- 小単元終末のまとめとして、地域の店の工夫やよさを総合して考え、「地域の店紹介ポスター」を作成した。「店の工夫を総合して店のよさとして表現していたか（思考・判断・表現②）」とまた、「多様な販売の工夫を理解していたか（知識・技能②）」の2点について評価した。

【B児のポスターの評価】

- ・その店らしい販売を高めるための工夫を「店のよさ」として絵や文で表現している。→「思・判・表②」をAと評価。
- ・販売を高めるための工夫を複数記述している。→「知・技②」はAと評価。



【B児のポスター（一部削除）】

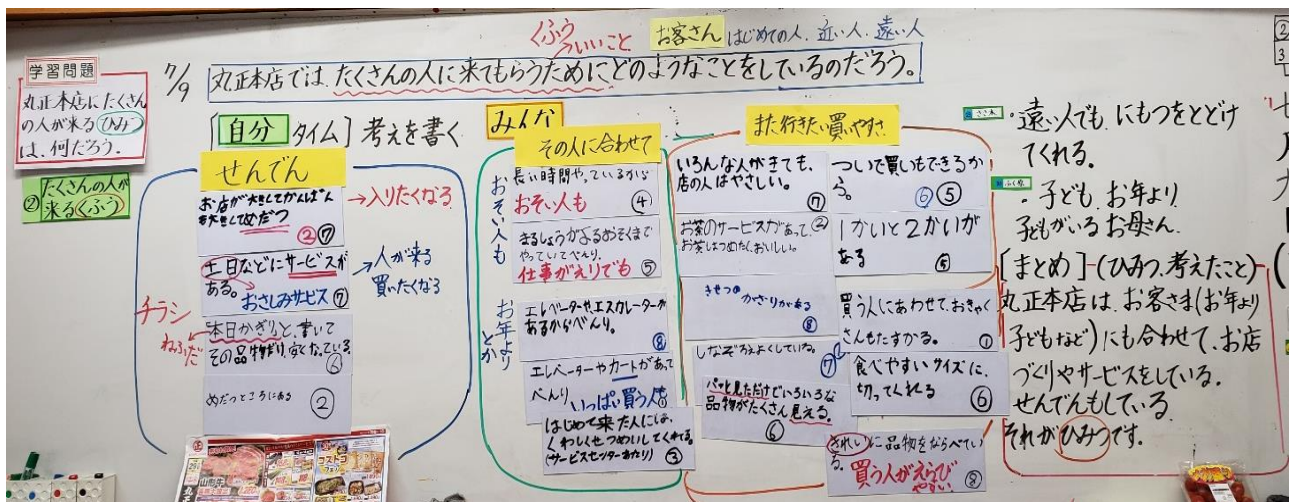
- 学び方カードでは、一人一人が項目を自己評価して学び方を振り返り、A児のような友達と学ぶよさに気付く記述が見られた。友達の発言やポスターから地域の店に関心をもち、自らかかわろうとする姿が見られた。

【A児の記述】 みんなで調べて教え合ったら知らないお店のひみつがたくさんあった。どの店にもそれぞれの「人気のひみつ」があったので、今度行ってみたい。こんなにお店のある四谷ってすごいところだなと思いました。

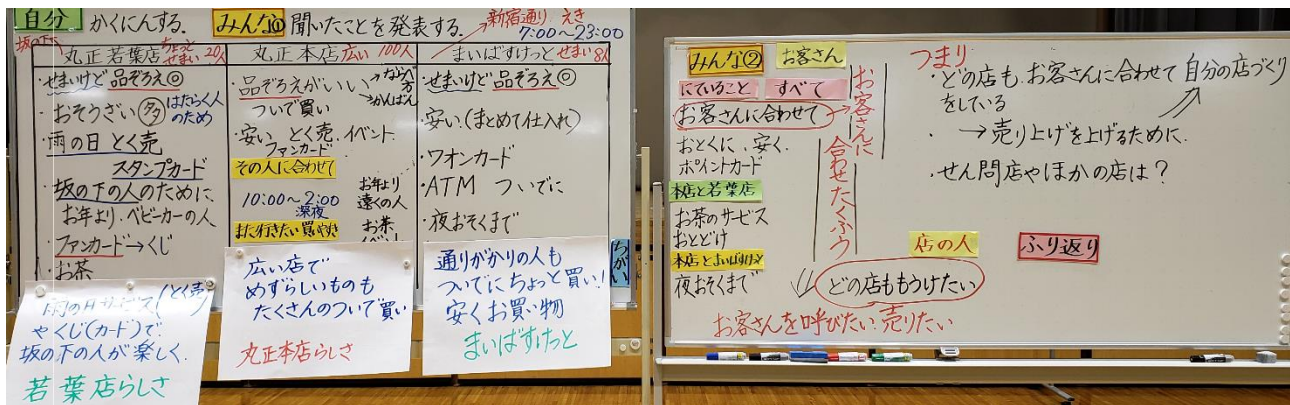
- 初めて学び方カードを記述する中で、どのように書いてよいかわからない児童もいた。友達の考えを聞いたり、記述したものをプロジェクターで拡大提示したりしてどの児童も自分の学び方を振り返ることができるよう積み重ねていく。

7 参考資料（板書の実際や活動の様子）

【第6時】



【第10時】

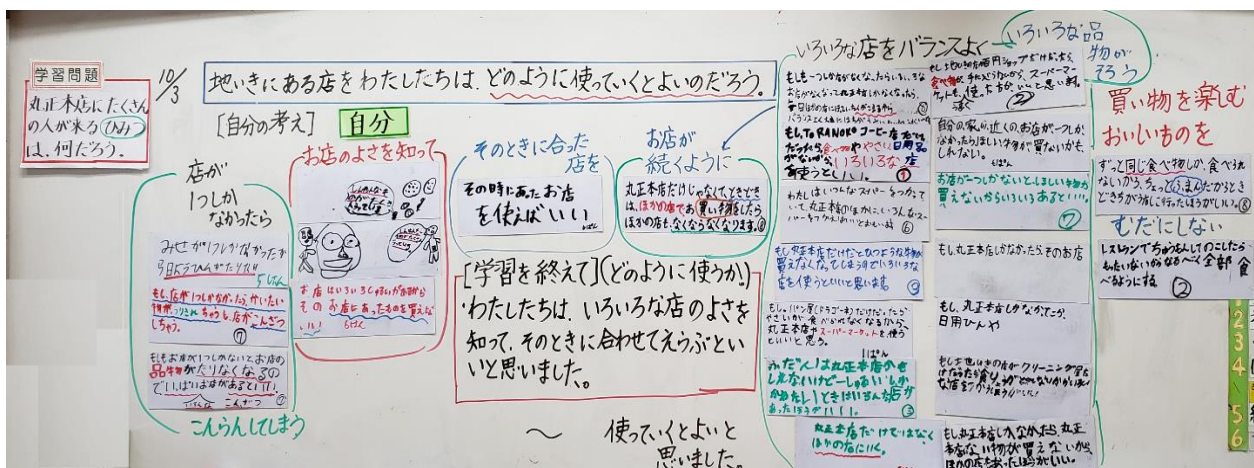


【第9時】 見学の様子（1組B店、2組C店）

【第11時】 ポスターを紹介する様子



【第12時】



第3学年 社会科学習指導案

指導者 3年2組 白澤 恵梨香

1 単元名 「新宿区の移り変わり」(16時間)

2 単元の目標と観点別評価規準

(1) 単元の目標

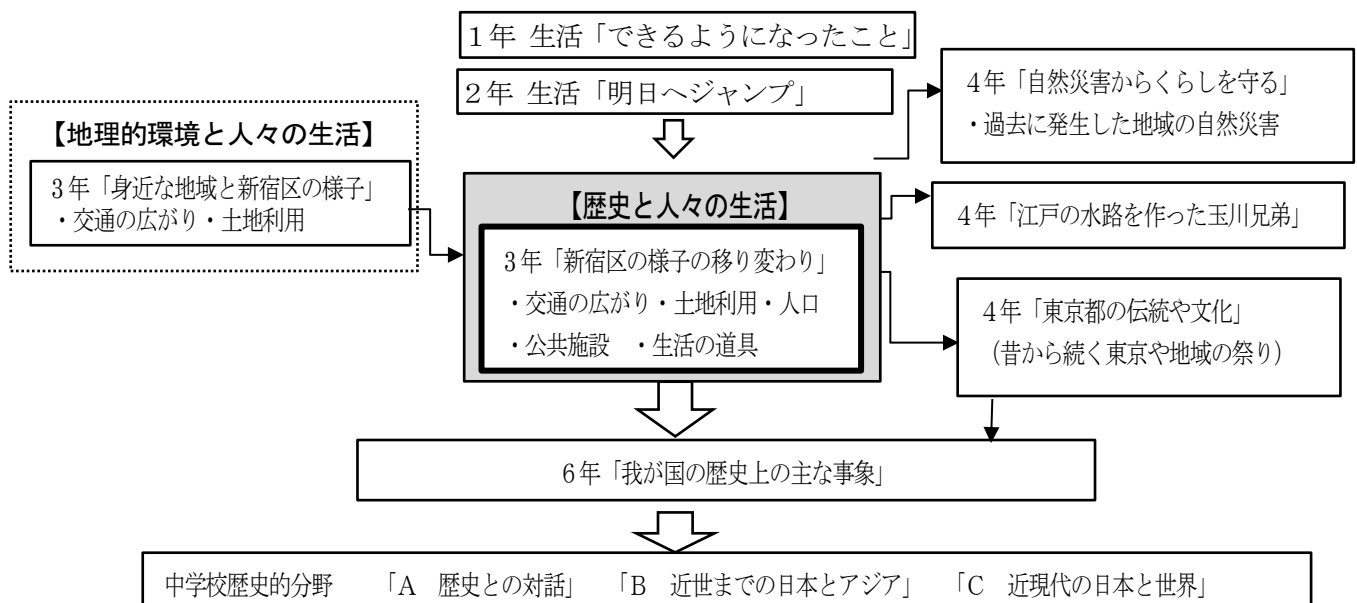
- 新宿区の移り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して問いを見出し、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして年表などにまとめ、比較したり関連付けたりして変化を考え、適切に表現することを通して、新宿区や人々の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解できるようにする。
- 新宿区の移り変わりについて、主体的に学習問題を解決しようとするとともに、区民の一人として新宿区の発展を考えようとする態度を養う。

(2) 単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具について、聞き取り調査をしたり、地図などの資料で調べたりして情報を集め、読み取り、区の様子や人々の生活の移り変わりの様子について理解している。	①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して問いを見だし、区の様子や人々の生活の移り変わりの様子について考え、表現している。	①区の移り変わりについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表などにまとめ、区や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解する。	②調べたことを相互に関連付けたり、区の様子の変化と人々の生活の様子の変化を結び付けたりして区全体の変化の傾向を考えたり、学習したことを基に、区の発展を考えたりして、表現しようとしている。	②学んだことを基に、区の発展について区民の一人としての願いをもち、協力していこうとしている。

3 単元について

(1) 内容の枠組み「歴史と人々の生活」から見た単元の位置付け



イの(ア) 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。

これからの新宿区はもっと外国人が増え、にぎやかになっていくと思います。日本人も外国人もみんながなかよく笑顔でくらせるような新宿区になってほしいです。新宿区の計画でもだれでも大切にすることを目指しているので自分たちもそんなまちにしたいです。

（３）本単元の教材について

本単元では、社会科の歴史的な内容を扱う最初の学習である。交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いなどの視点から具体的に市や人々の生活の様子の変化（移り変わり）を捉えさせたい。変化の傾向を考え、表現することを通して、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解することが大切である。第１単元で学習した市の様子を基に、時間の経過により変化して現在の市の様子につながっていることを捉えることが有効である。単元の終末では、市の発展やこれからの未来像を考える活動を設定し、将来を担う市民の一人としての自覚と愛情をもてるようにする。時期の区分では、昭和などの元号も使い、公共施設を取り上げる際には、租税の役割についても触れるようにしたい。

単元の導入では、第１単元で学んだことを生かせるように構成する。例えば、現在の新宿駅の様子と昔の新宿駅の様子を比較し、駅周辺は昔と今では違っていることが捉えられるようにする。さらに、様子が変わっているのは、駅周辺だけなのか、他の地域はどうなのかなど児童から疑問が生まれるようにしていく。

調べる段階では、副読本を中心に違いを比較する視点ごとに調べるとともに、人々の生活の様子も変わってきたことに気付くことができるよう、当時の様子を地域の人に聞き取り調査したり、地域の博物館の学芸員の方による出前授業によって調べる活動も取り入れたりする。

まとめる段階では、年表にまとめ、区や人々の生活の様子の変化の傾向を考えていく。さらに、学んだことを生かしながら、区の未来も考える学習を展開していく。

【第１時資料】新宿駅周辺の３つの時期の写真



昭和２２年（１９４７年）ごろ
新宿区ができた（約７０年前）

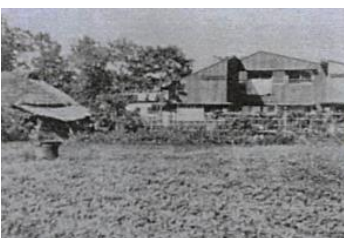


昭和３９年（１９６９年）ごろ
東京オリンピック（約５５年前）



現在（令和元年・２０１９年）

【第２時】新宿区に畑があった写真や当時の人々の生活が見える写真や再現映像



畑があったころの落合地区の写真（昭和２２年）



西新宿で野球をする子どもの写真（昭和４７年）

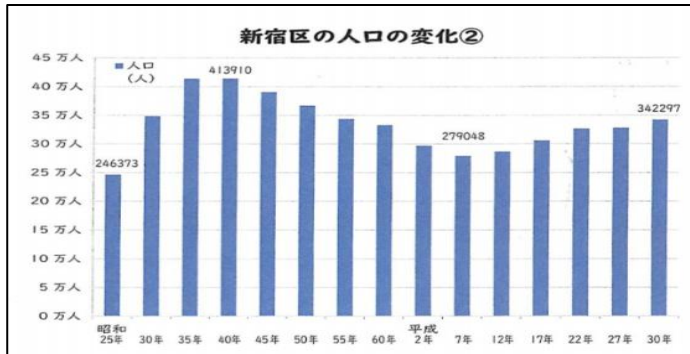


新宿区ができたころのまちの様子
（再現映像の一部）



新宿区ができたころの子どもが遊ぶ様子
（再現映像の一部）

【第7時】 新宿区の人口や外国人人口の変化



【第14・15時資料】「大新宿の歌」と「当時の区民や区長の願い」

大新宿区の歌（昭和24年新宿区制定）
服部嘉香作詞 平岡均之作曲

1. 空より広き武蔵野の
国のみやこの中心に
大新宿区あかるさよ
道は八方さかえのもと
ビジネスセンターあつめてここに
自治を誇れば空高く
民主日本の鐘がなる

2. 海より青き武蔵野の
国のみやこの中心に
大新宿区楽しさよ
心さやかに身もすこやかに
あの町この町笑顔で暮す
みやこじまんの住宅地
平和日本の風そよく

3. 空より広き武蔵野の
国のみやこの中心に
大新宿区にぎわしさ
およぐ人波うずまく光
ものみなゆたかに集めてここに
いつも春めく繁華街
自由日本の花とさく

4. 海より青き武蔵野の
国のみやこの中心に
大新宿区かがやけり
御苑外苑学園ならぶ
あの森この森みどりはかおる
かおるほまれに色そめて
文化日本のにじがたつ

新宿区ができたころの
区民や区長の願い

新宿ができたころは、区の八割が焼け野原であり、人口は約十三万人であった。その後、復興のため区民の努力は、国や都の計画に合わせて着々と成果を挙げた。人口は三十四万人を超え、新しい建物や住宅が立ち並び、市街は一新して、日に日ににぎわいが増している。さらに、学校等の公共施設の充実や交通網が発展してきた。本区は、首都東京を構成する中心地として、その発展は、はかり知れないものがある。

昭和三十年三月
新宿区長 岡田昇三

「新宿区史」昭和30年3月
P1-5の序の一部を編集したもの

（3）児童の学びが深める問題解決的な学習過程と「問い」の構成の工夫

本単元では、学習指導要領や解説から、着目させたい視点や考える方法を抽出（【】で表現）し、その視点や方法が働くように促す追究の問いを設定し、学びのプロセスに即して構成を下記のように考えた。

学習問題を把握する問い	新宿駅あたりはどのようにかわったのだろう。【駅前や人々の様子の変化】 新宿区の他の地域の様子や人々のくらしはどうなのだろう。【他の地域や人々くらしの変化】
単元の学習問題	わたしたちの住んでいる新宿区の様子や人々のくらしは、どのようにかわってきたのだろう。
↓ 事実を追 究し捉え る問い	交通はどのようにかわってきたのだろう。【交通の違い】 土地の使われ方はどのように変わってきたのだろう。【土地利用の違い】 区の公共施設はどのように変わってきたのだろう。【公共施設の違い】 新宿区に住んでいる人の数は、どのように変わってきたのだろう。【人口の違い】
特色や意味を考 える問い	3つの時期の区の様子は、それぞれどのような様子なのだろう。【関連付け】
↓ 事実を追 究し捉え る問い	生活の道具はどのように変わってきたのだろう。【生活の道具の違い】 人々のくらしはどのように変わってきただろう。【人々のくらしの違い】
特色や意味を考 える問い	わたしたちが生活する新宿区の様子や人々のくらしは、どのようにかわってきたのだらう。【区の様子とくらしの関連付け】
社会との関わり を考える問い	これからの新宿区は、どのように変わっていくのだろう。【変化や発展】 新宿区はこれからどのような区になっていくとよいのだろう。【区民や区長の願い】

4 単元の指導計画と評価計画 (16時間扱い)

	ねらい	○主な学習活動●評価の活動【問】問い・児童の反応	◎資料□指導上の留意点【評価】
つ か む	新宿区ができたところと東京オリンピックがあったところと現在の駅前の様子を比べて気付いたことを話し合うことを通して、駅前の様子が変わってきたことに気付き、疑問をもつ。①	○現在の新宿駅の写真から「区の様子」の学習を振り返る。 【問】新宿駅あたりはどのようにかわったのだろう。 ○現在、区ができたころ、東京オリンピックのころの新宿駅周辺の写真を比べて気付いたことを話し合う。 ・新宿駅あたりは、どんどん建物が増えて高層ビルが建った。様子が変わってきた。 ●疑問や知りたいことをノートに書く。 ・70年でこんなに変わったなんてびっくりした。ほかの場所はどうかのだろう。	◎新宿駅周辺の3時期の写真(昭和22年、東昭和39年、現在)、遊ぶ子供たちの写真、新宿区の地図 □1学期に行った「新宿区の様子」の学習を振り返る。現在と比べてどうかから考え始め、どの時期と比べてどうかの分かるよう板書するようにする。 【知①】駅前の建物や人の様子について調べ、新宿駅周辺の変化について理解している。(ノート)
	ほかの地域の様子や人々のくらしの変化に気付き、疑問に思ったことをもとに学習問題を設定する。②	【問】新宿区以外の地域の様子や人々のくらしはどうかのだろう。(学習問題をつくろう。) ○ほかの地域の様子や人々のくらしの変化に気付いたことを書く。 ・新宿区に畑があるとは思わなかった。 ・子供の遊びや服装や家の様子もちがう。 ●疑問に思ったことをノートに書き、学習問題を設定する。 ・ほかにも区の様子が今とちがう場所はあるのかな。 ・くらしの様子は変わったのだろうか。	◎戸塚・落合地区の写真(昭和33年と現在)昭和33年頃がわかる再現映像、新宿区の地図 □児童の疑問を生かして学習問題をつくるようにする。 【思①】交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して問いを見出し、区や人々の生活の移り変わりについて考え、表現している。(ノート)
	【学習問題】わたしたちの住んでいる新宿区の様子や人々のくらしは、どのようにかわってきたのだろう。		
	区の様子をまとめた地図を基に学習問題について予想するとともに、予想を分類して何を調べたらよいかを考え、学習計画を立てる。③	○区の様子で学習したことを生かして予想する。 ・家や店が多くなったのでは。【土地利用】 ・学校も増えたのではないかな。【公共施設】 ・地下鉄や電車がなくなったはず。【交通】 ○予想を分類し、何を調べたらよいかを考え、学習計画を立てる。 ●つかむ段階の学習を振り返りカードに記入する。 ・くらしがどう変わったか、おばあちゃんに聞いてみたい。また、歴史博物館で調べたい。	◎現在の新宿区の写真と地図 □前時に作成した疑問や学習問題はカード化して、予想に生かせるようにしておく。 【態度①】学習問題や学習計画を振り返り、解決の見通しをもっている。(学び方カード)
調 べ る	新宿区内の主な鉄道や道路の時期による違いについて地図などの資料を使って調べ、交通の様子の変化について理解する。④	【問】交通はどのようにかわってきたのだろう。 ○新宿区内の交通の変化について調べる ・昭和22年は道路に線路があった。(都電) ・地下鉄など線路が増えた。 ●交通の変化についてのまとめをノートに書く。 ・電車や道路が作られて交通の様子も変わり、みんなが使うようになってまちの様子も変わってきた。	◎3つの時期の交通網の地図 ◎3つの時期の新宿駅の写真 □3つの時期の交通網の地図や新宿駅の写真には、どこに着目したかが分かるように丸印などの書き込みをさせるようにする。 【知技①】交通の時期による違いについて、地図などの資料から情報を集め読み取って新宿区の交通の移り変わりの様子を理解している。(ノート)
	新宿区内の土地利用について地図などの資料を使って調べ、土地利用の様子の変化について理解する。⑤	【問】土地の使われ方はどのように変わってきたのだろう。 ○新宿区内の土地利用について調べる。 ・昭和22年に比べて駅の周りには店が増えた。 ●土地利用の変化についてのまとめをノートに書く。 ・工場がへったり、住宅地や店が多い地域に変わったりして土地の使われ方が変わり、まちの様子も変わってきた。	◎3つの時期の土地利用の地図や写真 □地図や写真に気付いたことを書き込みながら、3つの時期を比べて変化を捉えるようにする。 【知技①】土地利用の時期による違いについて、地図などの資料から情報を集め読み取って新宿区の利用の移り変わりの様子を理解している。(ノート)
	区内の公共施設について地図などの資料を使って調べ、新宿区の公共施設の分布の変化について理解する。⑥	【問】公共施設はどのように変わってきたのだろう。 ○主な公共施設の分布や数の変化について調べる。 ・昭和22年は学校が少なかったけれど、昭和41年には増えている。 ・学校は区の税金で建てられている。 ●公共施設の変化についてのまとめをノートに書く。 ・路面電車から、自動車、地下鉄へとかわってきた。駅の数もとても多くなった。	◎3つの時期の小中学校分布の地図 区役所と四谷小学校の今と昔の写真 □地図から小中学校の数を比べて、分布の傾向を捉えるようにする。 【知技①】公共施設の分布の時期による違いについて、地図などの資料から情報を集め読み取って公共施設の分布の移り変わりの様子を理解している。(ノート)
	新宿区の人口の変化について棒グラフなどの資料を使って調べ、人口の移り変わりの特色や傾向を理解する。⑦	【問】新宿区の住民の数はどのように変わってきたのだろう。 ○新宿区の人口や外国人人口の変化について調べる。 ・オリンピックのころが一番多い。 ●人口の変化についてのまとめをノートに書く。 ・人口は、オリンピックの頃に急に増えて一度減ったけれどまた増えている。外国人も増えてきた。	◎新宿区の人口の棒グラフ、外国人人口のグラフ □グラフに矢印や丸印を書き込み、人口の増減や一番多い時期などを捉えるようにする。 【知技①】人口の時期による違いについて、グラフなどの資料から情報を読み取り、人口の移り変わりの様子を理解している。(ノート)

調 べ る	これまで調べてきたことを年表にまとめ、新宿区の変化の様子を理解する。 ⑧	問：3つの時期の区の様子は、それぞれどのような様子なのだろう。 ●3つの時期ごとの区の様子について、交通、土地利用、公共施設、人口を関連付けて考え、分かったことを年表に整理する。	◎新宿区の年表（ワークシート） □これまでの学んだことをもとに年表（ワークシート）にまとめる。 【知技②】時期ごとの新宿区の様子を比較し、新宿区が移り変わってきたことを理解している。（年表・ノート）
	洗濯板を使う体験を通して、気付いたことを話し合い、くらしの変化について調べる計画を立てる。 ⑨	問：洗濯板（古い道具）はどのように使うのだろう。 ○洗濯板を使ってみて、気付いたことを話し合う。 ・ギザギザのところがすごい。今はやっぱり楽だ。 ●道具の変化はどのように調べられそうかを考え、学習計画を見直している。 ・おばあちゃんに聞いてみたら使っていたときの様子がもっとわかりそうです。	◎洗濯板、洗濯板の使い方カード □体験したことも生かし、道具の変化をどのように調べたら解決できそうかを学級全体で話し合う。 【態度①】道具の変化について学習を振り返ったり、学習計画を見直したりしている。（ノート）
	生活の道具の移り変わりについて資料や聞き取り調査をもとに調べ、生活の道具の変化を理解する⑩	問：生活の道具はどのようにかわってきたのだろう。 ○いくつかの古い道具の変化について資料をもとに調べ、くらしの変化について話し合う。 ●生活の道具がどのようにかわったかを年表に整理する。 ・昔の道具はかなり人の力が必要だった。今は、ご飯を炊くのも、洗濯も自動。電気の力も大きい。	◎道具年表、道具の変化の写真（明かり、洗濯機）、古い道具の実物 □話し合いでは昔と比べて今はどのようなよさがあるかを考えるようにする。 【知技①】生活の道具の違いについて資料や聞き取り調査から情報を集め、生活の道具の変化を理解している。（ノート）
ま と め る	人々の生活について写真や再現映像などで調べ、生活の様子の変化を捉える。 ⑪⑫	問：人々のくらしはどのようにかわってきたのだろう。 ○くらしの変化の様子について歴史博物館の方の話を聞いたり、資料を使ったりして調べ、くらしの変化について話し合う。 ●人々のくらしはどのように変わったかをノートに書き、学習問題の解決にたどり着いたか話し合う。 ・オリンピックのころに電化製品が広まったことで、みんなが使い、便利になり始めた時期だと分かった。だいたい調べられたのでまとめたいです。	◎当時を再現した映像や写真、現在のくらしの絵、歴史博物館の方の話（GT） □2時間のうちの1時間は、歴史博物館の方へ質問し、古い道具を使っていた当時の様子を調べるようにする。 【知技①】生活の様子の違いについて写真などから情報を集め読み取り、人々の生活の移り変わりの様子について理解している。（ノート）
	人々の生活や道具の移り変わりを年表に整理し、時間の経過に合わせて便利になったことを理解している。⑬	問：わたしたちが生活する新宿区の様子や人々のくらしは、どのようにかわってきたのだろう。 ～年表に整理して考えよう～ ○区の変化や人々のくらしの変化の様子について調べたことを年表にまとめる。 ●年表にまとめたことから人々の生活の移り変わりに分かったことをノートに書く。	□生活の様子の変化を区の様子の年表に合わせて、道具の移り変わりを位置付け関連付けるようにする。 【知技②】時期ごとの様子を比べることで道具やくらしの変化を年表に整理している。（年表）
	まとめた年表をもとに、学習問題に対して自分の考えをまとめる。⑭	問：わたしたちが生活する新宿区の様子や人々のくらしは、どのようにかわってきたのだろう。 ○まとめた年表をもとにしながら、学習問題について自分の考えをまとめる。 ●新宿区や人々のくらしがどのようにかわってきたかをノートに書く。	◎新宿区や人々の生活の年表、写真、大新宿の歌の歌詞 □これまでの傾向を新宿区の様子や人々のくらしについて関連付けたり比較したりして考える。 【思考②】これまでの変化の傾向を関連付けて、表現している。（ノート） 【知技②】調べたことを年表などにまとめ、区や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解する。（年表・ノート）
い か す	学んだことをもとに、これからの新宿区がどのようにかわっていくとよいのかを考える。⑮	問：これからの新宿区は、どのように変わっていくとよいのだろう。（大新宿の歌5番を考えよう。） ○人口の変化や国際化、区の施策などから新宿区がどのように変わっていくかを話し合う。 ・これからも新宿区に住む外国人は増えると思う。 ●区民の一員としての願いを入れた大新宿の歌の歌詞を考える。 ・「世界」や「にぎやか」という歌詞は入れたい。なぜなら外国人の人口も今後も増えていくだろうから。	◎新宿区ができた当時の区民、区長の願い（文章資料）、大新宿の歌の歌詞 □区の施策を知り、これまでの学んだことを生かしてこれからの新宿区の様子を考えるようにする。 【思考②】学んだことを基に、区の発展を考え、表現しようとしている。（ノート）
	これからの新宿区がどのような区になっていくか、区民の一員として考えたことを文章にまとめる。 ⑯	問：新宿区はこれからどのような区になっていくとよいのだろう。 ・区長や区民の願いをもとに、どのような区になってほしいか自分たちの願いを話し合う。 ・話し合いから区歌の続きを考え、発表し合う。 ●これからの新宿区について自分の考えを書く。	◎大新宿の歌の歌詞 ◎新宿区の移り変わり年表 【態度②】学んだことを基に新宿区の未来を考えようとしている。（ノート）
		これからの新宿区はもっと外国人が増え、にぎやかになっていくと思います。日本人も外国人もみんながなかよく笑顔でくらすような新宿区になってほしいです。新宿区の計画でもだれでも大切にすることを目指しているので自分たちもそんなまちにしたいです。	

5 本時の指導（6／16時）

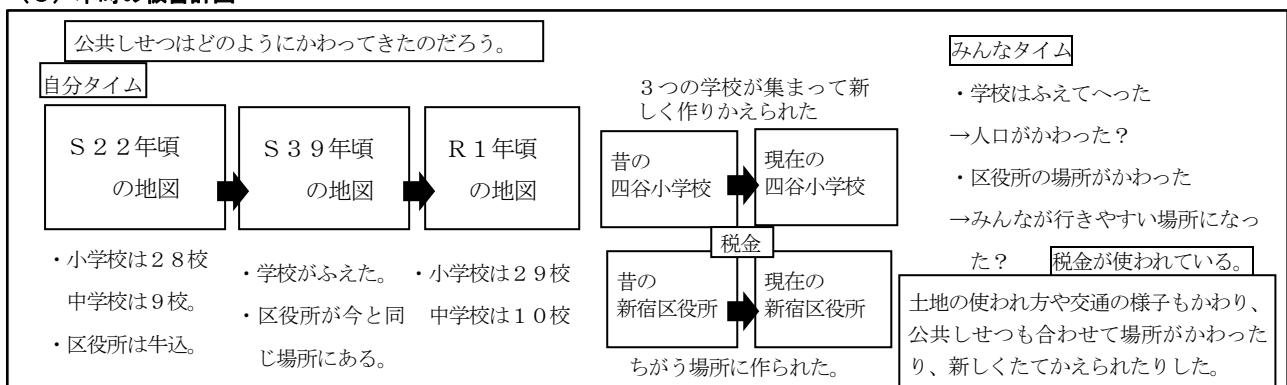
（1）本時のねらい

○新宿区内の公共施設の変化について地図などの資料を使って調べ、新宿区の公共施設の分布の変化を理解する。

（2）本時の展開

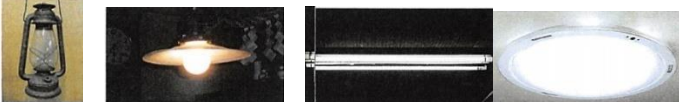
	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◎資料 □指導上の留意点 【評価】
導入 (5)	○前時までの学習や第1単元の学習を振り返る。 ・新宿区の土地の様子はだんだん住宅地と商店の多い地域が増えていったね。 ・「新宿区の様子」のとき、住宅地には学校があったよ。 ・住宅地が増えたということは学校も増えたのではないかな。 本時の問い：公共しせつはどのようにかわってきたのだろう。	□前時までの学習や、第1単元で学習した新宿区の公共施設の分布の様子を振り返ることを通して、学習への意欲を高められるようにする。
自分 タ イ ム (15)	○資料から公共施設の分布の様子について読み取る。 ・今の新宿区は小学校が29校、中学校が10校ある。 ・区役所は新宿駅の近くにある。 ・昭和22年のころは、今と比べると区役所の場所が違う。 ・写真を見ると建物の様子も違うね。 ・昭和39年のころは、昭和22年と比べて小学校も中学校も増えている。	◎3つの時期の小中学校分布の地図 ○区役所と小中学校の今と昔の写真 □現在の地図と昭和22年、昭和39年の地図を比較することによって、どう違うのか確認できるようにする。 □地図や写真には、丸印などを書き込むようにする。 □ICTを使って拡大したり画像を比較したりすることを通して、資料を読み取れるようにする。
みんな な タ イ ム (15)	○読み取ったことを発表する。 ・学校は東京オリンピックのころにふえて、その後に減ってきた。 ・住む人や子どもが増えたあとへったのではないかな。 ・区役所は、はじめは牛込地区にあったけど、場所が変わっていた。駅に近い方が便利だったのではないかな。 ・学校や図書館は住宅地の多い場所に多くなっている。 ・区役所の人は新宿区に住む人にとって便利ように考えて公共施設を作っているんだね。 ・学校や区役所を新しく作るときには、税金が使われる。	□時代ごとに読み取れたことを板書で整理することを通して、時代ごとに様子が移り変わっていることを捉えられるようにする。 □ICTで重ねて確かめる。 □四谷小の写真や区役所の人の話（文章資料）を提示し、区民のために税金を使って公共施設が作られることを確認する。
振り 返 り タ イ ム (10)	○新宿区がどのように移り変わってきたのか分かったことや考えたことをノートに書く。 ・土地の使い方や交通の様子もかわり、公共しせつも合わせて場所がかわったり、新しくたてかえられたりした。 ・新宿区の学校は東京オリンピックのころには増えて、今は少し減った。住んでいる人の数と関係がありそうだから調べてみたい。	【知技①】公共施設の分布の時期による違いに着目して、地図などの資料で調べて情報を集め読み取り、新宿区の公共施設の分布の移り変わりについて理解している。（ノート）

（3）本時の板書計画



6 実践のまとめにかえて ※臨時休業のため実践が途中までしかできていないため

本単元では、調べたことを年表にまとめていくようにする。毎時の学習を年表に整理し、まとめていく中で、「新宿区の様子はどのようにかわり、人々のくらしの様子はどのようにかわっていったのだろう。」という学習問題を解決していくように学習展開する。児童が、単元終末において次のような年表に整理できることを想定し、学習状況を次のように評価できるのではないかと考えた。

	新宿区ができたころ 昭和22年 (1947年)	東京オリンピックのころ 昭和39年 (1964年)	現在 令和2年 (2020年)	それぞれのうつりかわりの様子（まとめる と・・・）	
交通	路面電車やバスがあった。	線路や電車、トロリーバスがふえ、道路がせいびされ、ふえた。	電車がふえ、地下鉄の駅や道路のほ ばも広がった。	路面電車から、自動車、地下 鉄へとかわってきた。駅の 数もとても多くなった。	←第4時に 記入 【知・技①】
土地の使 われ方	田や畑はほとんどない。 住宅地が広がっていて、 新宿駅の周りには店が多 い。工場も多かった。	工場がへり、かわりに商店が多 い地いきや住宅地がふえた。	工場はもっとへり、住宅地や店が多 い地いきがふえた。	昔から住宅地が多く、工場 がへり、商業地がふえた。	←第5時に 記入 【知・技①】
公共し せ つ	小学校が28校 中学校が9校	昭和22年にくらべてふえた。 小学校36校、中学校15 校。	一度ふえたけれど、またへった。小 学校29校、中学校10校。住宅地 の近くには学校や図書館がある。	学校は一度ふえたけれど、 その後へった。住宅地には 学校や図書館がある。	←第6時に 記入 【知・技①】
人口	人口は24万人。だんだ ん人口が増えていった。	このころの人口が一番多い。 (41万人)オリンピックのこ ろにきゅうにふえた。	今は、34万人。人口は少しへった。 外国人から来た人もふえて8万人い る。	人口は、東京オリンピック のころにふえて、そのあと へっているが、42万人も いる。外国人の人口もふえ た。	←第7時に 記入 【知・技①】
第8時に記入【知・技②】					
当時の区 の様子 まとめる と・・・	まだ畑があるところもあ ったり、路面電車やトロ リーバスがあったり、 人口もまだ少なかった。	オリンピックになり、道路や鉄 道や駅がせいびされた。人もた くさん集まってきて、人口がふ えた。だから学校（公共しせつ） もふえた。	電車の路線、駅、道路などがふえ、 住む人、働く人が増えた。（住宅地、 商業地がふえた。）外国人の人口も ふえた。	交通も、土地の使われ方も、 公共施設もかわって、住む 人も多くなり、だんだんと 新宿区のまちの様子はかわ ってきた。	←第8時終 末に記入 【思②】
生活の道 具	 【部屋の明かり】 灯油→電気（電球→蛍光灯→LED）			生活の道具は、人の力か ら、電気にきりかわっ て、だんだんよりよくべ んりになってきた。家事 が短い時間で、楽にでき るようになったことで、 ちがうことに時間をか けることができるよう になった。	← 第11時に記 入 【知・技①】
	 【洗たく】 人の力（こする→手回し）→電気（手回し→全自動）				
当 時 の 道 具 や 人 々 の 生 活 の 様 子	まだ、人の力で家事をす ることが多い。	電化製品もふえ、みんな でオリンピックをみるこ とができた。	電化製品が全自動になっ たり、インターネットが つながったりするよう になり、さらにべんり になった。	新宿区は、この70年間 で、まちの様子がどん どんかわってきた。その 間に地下鉄などの交通 も整備され、電化製品 もどんどんよくなり人 々の生活もよりよくな った。	← 第12時終 末に記入 【思②】
第12時に記入【知・技②】					

第4時～第7時、第9時～第11時

○年表の調べる項目ごとに調べて分かったことを記入する。

【知・技①】→記入の状況を把握し個別の支援をする。

第8時・第12時

○縦の列を見て、「その当時は『どのような新宿区の様子だったか』や『人々のくらしはどのようなようだったか』」を考え、記述する。【知・技②】

○それぞれの時間の終末で新宿区や人々のくらしの全体としての移り変わりの傾向をまとめて記述する。

【思・判・表②】→記述内容をもとに評価する。

第4学年 社会科学学習指導案

指導者 4年3組 本木 綾子

1 単元名 「水害からくらしを守る」(9時間)

2 単元の目標と観点別評価規準

(1) 単元の目標

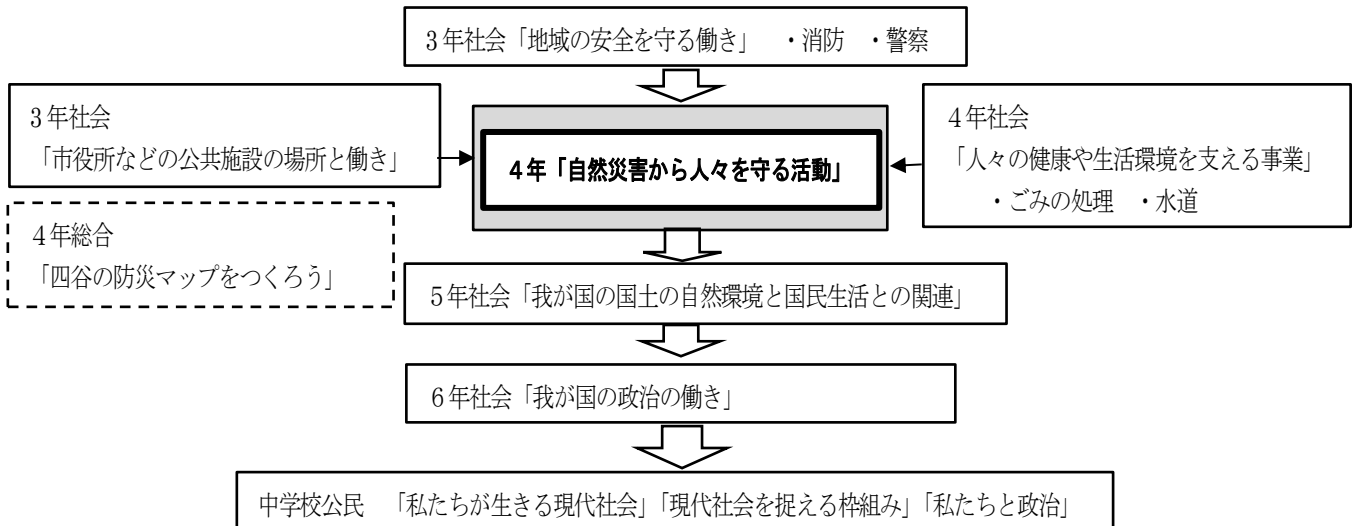
- 自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして関係図にまとめる。そこから、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される自然災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにする。
- 自然災害から人々を守る関係機関や人々の活動について、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養うとともに、学んだことを基に、地域社会の一員として関係機関や地域の人々を守る活動に協力しようとする態度を養う。

(2) 単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①過去に発生した地域の自然災害や関係機関の協力などについて、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動の様子について理解している。 ②調べたことを、関係図や文にまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることについて理解している。	①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見いだし、災害から人々を守る活動について表現している。 ②調べたことを比較・関連付け、総合などして、自然災害による被害を減らすための対策や人々の生活について考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	①自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立て、振り返ったり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②過去の自然災害や、人々の安全を守る取組について学んだことを基に、地域社会の一員として、関係機関や地域の人々を守る活動に協力しようとしている。

3 単元について

(1) 内容の枠組み「現代社会の仕組みや働きと人々の生活(政治)」から見た小単元の位置付け



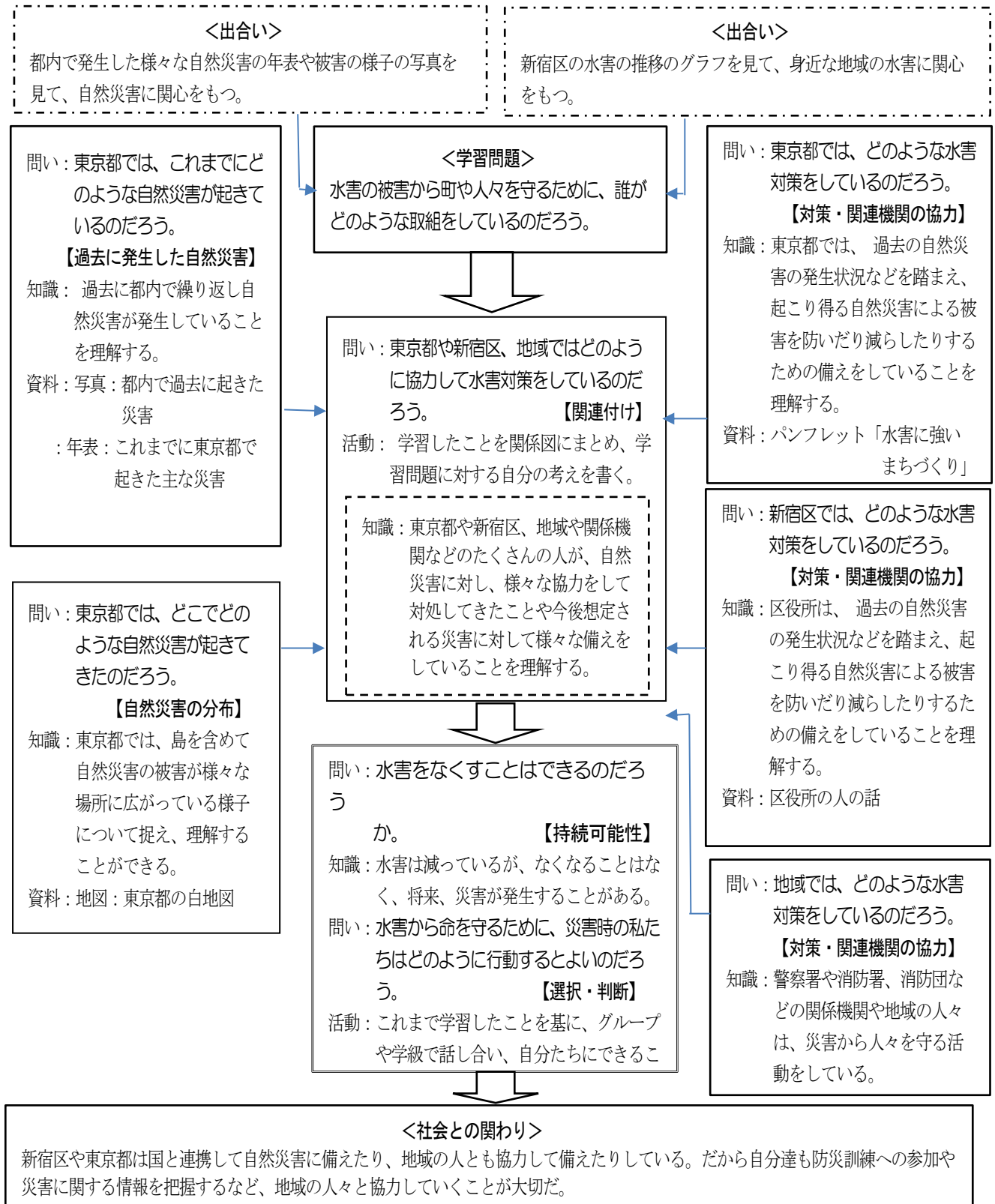
(2) 指導内容の構造

学習指導要領 第4学年内容 (3)

アの(ア)：地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。

アの(イ)：聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。

イの(ア)：過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。



(3) 本単元の教材について

「つかむ」段階で、東京都でこれまでに起こった自然災害の種類や分布、発生時期について地図や年表などの資料で調べ、新宿区でもこれまでに神田川の流域で水害が多く起こっていることに気付かせる。そこで水害からまちや人々を守るために、誰がどのような取組をしているのかを調べる学習問題を設定する。

「調べる」段階では、新宿区における神田川流域の水害対策に加えて、東京都各地の高潮や土砂災害の対策を取り上げ、グラフや文章、写真などの資料を活用して調べる。神田川流域の水害対策を詳しく調べる際には、新宿区の危機管理課の人へのインタビュー調査も行う。

「まとめる」段階では、地域の関係機関や人々は自然災害に対して様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される自然災害に対し様々な備えをしていることを関係図にまとめる。さらに、学んだことを基に地域社会の一員として、水害からまちや人々を守るためにできることを考えたり、「マイタイムライン」を作成したりする。

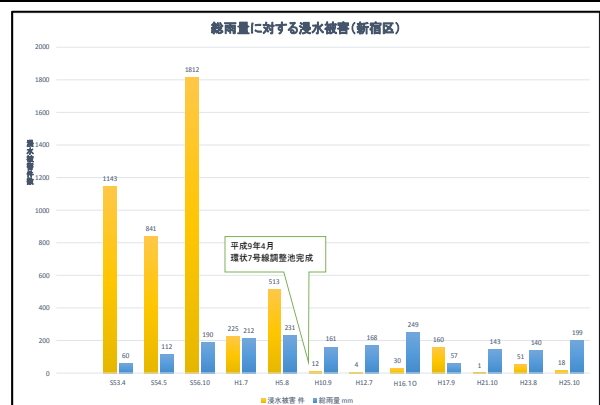
神田川流域の水害からくらしを守る取組を整理すると以下ようになる。新宿区の水害対策などの取組から、東京都全体における水害の対策や備えに視野を広げて見ていくことができるようにする。

		身近な災害への対策や備え	→ 東京都各地の災害への対策や備え	
		新宿区神田川（都市型）水害	低地の高潮	土砂災害
東京都		・地域防災計画 ・地下調節池の建設 ・護岸工事 ・水位・雨量観測システム・サイレン（1か所） ・浸水予想区域図の公表 ・洪水浸水想定区域図の公表	・高潮浸水想定区域図の公表 ・高潮特別警戒水位の設定	・土砂災害警戒区域 ・土砂災害特別警戒区域の指定
新宿区		・地域防災計画 ・水位・雨量観測システム・サイレン（5か所） ・ハザードマップ・浸水実績図 ・避難所の開設・気象情報メール ・ホームページ・水防訓練 ・防災センター・防災行政無線	・ハザードマップ ・避難所の開設 ・気象情報メール ・ホームページ ・防災センター ・防災行政無線	・ハザードマップ ・避難所の開設 ・気象情報メール ・ホームページ ・防災センター ・防災行政無線 ・土砂災害アドバイザー派遣
関係機関・地域	消防署	・水防訓練（年1回） ・避難誘導	・水防訓練（年1回） ・避難誘導	・避難誘導
	消防団	・水防訓練（年1回） ・避難誘導	・水防訓練（年1回） ・避難誘導	・避難誘導
	警察	・避難誘導 ・道路危険区域	・避難誘導	・避難誘導
	出張所	・土嚢配布 ・地域情報収集	・土嚢配布 ・地域情報収集	・土嚢配布 ・地域情報収集

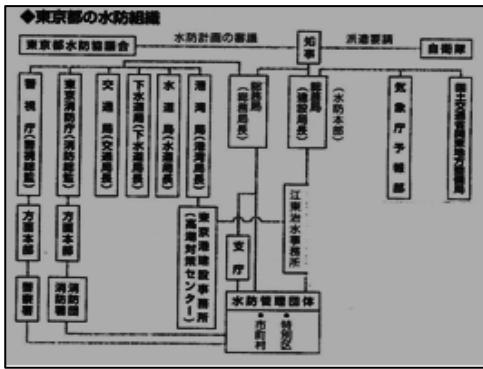
<使用する資料>



[地図 東京都で起きた自然災害]



[新宿区浸水被害のグラフ]



[東京都の水防組織図]



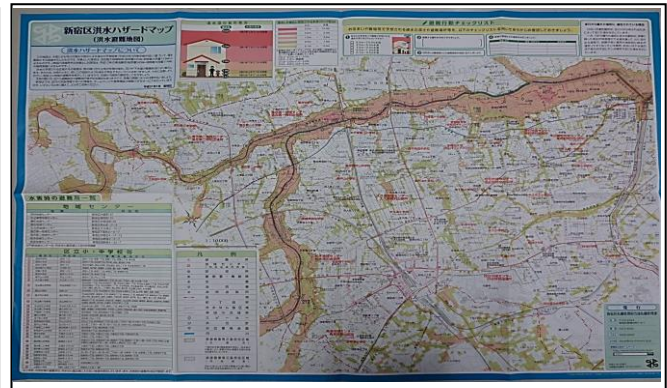
[環状七号線地下調節池の写真]



[橋の封鎖の写真]



[水防訓練の写真]



[新宿区洪水ハザードマップ]

【第3時の板書】

10/27 水害からくらしを守る

【問い】 神田川の水害に対して、東京都民はどのような対策をされているのだろう。

＜考察対策＞

- ① スムーズに水を流す。
・下水道
・川の整備
- ② 雨水をためる。
・雨水貯留池
・チャイルド
- ③ 地面にしみこませる。
・ぼろ
・しんとうます、トレンチ
- ④ 河床地の保全回復

＜質問したいこと＞

- ハザードマップの作りかた（この町のデザイン）
- 昔、水害が多かった理由
- 水害がへった理由
- 川のそばはみずく（けり）
- 糸が少なくていい...
- 水害のあとに元にもどすには

【まとめ】 神田川の水害に対して、東京都民は...
その結果

（3）児童の学びが深める問題解決的な学習過程と「問い」の構成の工夫

本単元では、学習指導要領や解説から、着目させたい視点や考える方法を抽出（【】で表現）し、その視点や方法が働くように促す追究の問いを設定し、学びのプロセスに即して構成を下記のように考えた。

学習問題を把握する問い	東京都ではこれまでにどのような自然災害が起きてきたのだろう。 【過去に発生した自然災害】 東京都では、どこでどのような自然災害が起きてきたのだろう。 【自然災害の分布】 新宿区ではこれまでにどのくらい水害が起きてきたのだろう。 【過去に発生した自然災害】
単元の学習問題	水害の被害から町や人々を守るために、誰がどのような取り組みをしているのだろう。
↓ 事実を追究し捉える問い	東京都では、どのような水害対策をしているのだろう。 【自然災害への対策や備え】 新宿区では、どのような水害対策をしているのだろう。 【自然災害への対策や備え】 地域では、どのような水害対策をしているのだろう。 【自然災害への対策や備え】
特色や意味を考える問い	東京都や新宿区、地域ではどのように協力して水害対策をしているのだろう。 【関係機関の協力】【生活と関連付けて考える】
社会との関わりを考える問い	水害から命を守るために、災害時の私たちはどのように行動するとよいのだろう。 【持続可能性】 【選択・判断】

4 単元の指導計画と評価計画 (9時間扱い)

	ねらい	○主な学習活動●評価の活動問問い・児童の反応	◎資料□指導上の留意点【評価】
つかむ	東京都でこれまでに起こった自然災害について調べ、東京都各地で繰り返し様々な自然災害が発生していることを捉える。①	問：東京都では、これまでにどのような自然災害が起きてきたのだろう。 ○都内でこれまでに発生した様々な自然災害の種類と被害の様子について、年表と写真で調べる。 ・東京都では、様々な災害が繰り返し起こっている。 問：東京都では、どこでどのような自然災害が起きているのだろう。 ○都内で自然災害が発生した場所と災害の種類を調べる。 ・東京都の各地で自然災害は起きている。 ・その中でも洪水が多く起こっている。この前も起きた。 ●年表と地図を見て気付いたことをノートに書く。	◎地図「東京都で起きた自然災害」 ◎年表「東京都で起きた自然災害」 □年表などから東京都でも地震、洪水、土砂崩れなどの自然災害が繰り返し発生していることを捉えることができるようにする。 【知技①】これまで東京都で発生した自然災害について年表や白地図から読み取ったことを記述している。(ノート)
	新宿区の水害の発生状況を調べ、浸水件数が減ってきた事実に疑問をもち学習問題を設定するとともに、予想を話し合い学習計画を立てる。②	問：水害はなぜ起こるのだろう。 ○水害がなぜ起こるのかを調べる。 ・水害には、川の水があふれて起きる水害（外水氾濫）と、まちに降った雨を下水道が流しきれずに溢れて起きる水害（内水氾濫）がある。 ・東京に緑が減ってきたことで、土地が水を貯える力が弱く、水害が起こってしまう。 問：新宿区ではこれまでにどこでどのくらい水害が起きているのだろう。 ○新宿区の浸水被害が減っている事実について疑問を出し合い、学級の学習問題を設定する。 ・浸水被害は神田川の流域で起こっている。 ・浸水被害はだんだん減ってきている。 ・なぜ浸水被害は減ってきたのだろう。 ・きっと誰かが何かをしているからだと思う。	◎東京都の冊子「みんなで考えよう！水害に強いまちづくり」 ◎新宿区浸水被害のグラフ ◎神田川水害年表 □水害の種類や水害が起きる仕組みを理解する。 □浸水の減少についての児童の疑問を集約して学習問題を設定する。 【思考①】浸水被害が時間の経過とともに減っていることに着目して問いを見出すことができる。(ノート) □学習問題に対する予想を考えて話し合い、調べる計画を立てる。
	(神田川の) 水害からまちや人々を守るために、誰がどのような取り組みをしているのだろう。		
		●水害から守るために誰がどのようなことをしているか予想し、話し合う。 ○学習問題を解決するために調べることを確かめ合う。	【態度①】学習問題を予想し、調べることについて見通しをもっている。(ノート)
調べる	神田川の水害に対して東京都はどのような取組をしているのかを理解する。③	問：神田川の水害に対して、都や区、地域の人々はどのようなことをしているのだろう。 ○東京都が水害に対してどのような取組をしているのかを調べる。 ・川の幅を広げたり、川底を深くしたりしている。(護岸工事) ・雨水を大きな空間にためている。(調節池) ・雨水を地面にしみこませる工夫をしている。(透水性舗装) ・自然の力で水害を防ぐ。(緑を増やす) ●神田川の水害を防ぐために東京都がしていることをノートに書く。	◎東京都の冊子「みんなで考えよう！水害に強いまちづくり」 ◎東京都の水防組織図 ◎対策の写真 □資料から東京都の水害対策について読み取り、ノートに書く。 □区役所の人にインタビューしたい内容を考えさせる。 【知技①】東京都の具体的な水害対策について理解している。(ノート)
	神田川の水害に対して新宿区や地域の人々はどのような取組をしているのかを理解する。④ (本時)	問：神田川の水害に対して、新宿区や地域の人々はどのようなことをしているのだろう。 ○新宿区や地域の人々が神田川の水害に対してどのような取り組みをしているのか話を聞く。 ・ハザードマップは、東京都からもらった情報を基に予測して作っている。 ・新宿区では、東京都と協力して水位・雨量観測システムやサイレンを備えている。 ・新宿区は消防署や消防団、地域の人と協力して水防訓練を行っている。	◎区役所の人のお話 ◎新宿区洪水ハザードマップ ◎環状七号線地下調節池の写真 橋の封鎖の写真、水防訓練の写真 □区役所の危機管理課の人の話を聞くことで、現場の様子を捉えられるようにする。 【知技①】新宿区は、東京都や関連機関の人々と協力して、水害を防いだり減ら

		●神田川の水害を防ぐために新宿区や地域の人々が協力して対策していることをノートに書く。	したりしていることを理解している。 (ノート)
	東京都などが、低い土地を河川氾濫や高潮からまちや人々を守るための対策をしていることについて理解する。⑤	問：東京都は、河川氾濫や高潮に対してどのような取り組みをしているのだろう。 ○高潮の起こりやすい場所や、防ぐための取組について調べる。 ・高潮は、台風などが原因となり、沿岸部の低い土地で発生する。 ・防潮堤や水門、スーパー堤防などを作っている。 ●河川氾濫や高潮を防ぐための東京都などの取組をノートにまとめる。	◎台風19号の災害ニュース ◎東京マイ・タイムライン ◎「荒川土手（スーパー堤防）」写真 ◎水門などの整備（写真） ◎動画「荒川の氾濫予想」VTR □東京都が国や区市と連携して取り組んでいる河川氾濫や高潮対策を資料から読み取れるようにする。 【知技①】東京都が河川氾濫や高潮を防ぐために計画的に対策をしていることを理解している。(ノート)
	東京都などが、山地や丘陵地の斜面で発生する土砂災害からまちや人々を守るための対策をしていることについて理解する。⑥	問：東京都は、土砂災害に対してどのような取り組みをしているのだろう。 ○土砂災害の起こりやすい場所や、土砂災害を防ぐための取組について調べる。 ・土砂災害は、山や谷、がけが崩れて起こる。 ・大雨が降ると地面が柔らかくなって崩れやすくなる。 ・急斜面が崩れることを抑える施設の整備を進めている。 ●土砂災害を防ぐための東京都などの取組をノートにまとめる。	◎東京マイ・タイムライン ◎「法枠工」の写真 ◎「砂防ダム」写真 ◎土砂災害ハザードマップ □東京都が国や区市と連携して取り組んでいる土砂災害対策を資料から読み取れるようにする。 【知技①】東京都が土砂災害を防ぐために計画的に対策をしていることを理解している。(ノート)
ま と め る	学習問題について調べたことを関係図にまとめ、学習問題のまとめについて考えたことを関係図に表現する。⑦	問：東京都や新宿区、地域では、どのように協力して水害対策をしているのだろう。 ●学習したことを、関係図にまとめることができる。 ・いろいろな人がつながっている。 ・たくさん協力がある。 ●まとめた関係図を基に学習問題について考えたことを文章で関係図に追記する。 ・新宿区では、防災計画を作って、東京都とも協力しながら水害に備えて対策を考えている。水害が起こった時は、警察や消防署、地域の人々とも協力して、住民を避難させるなどし、命を守っている。	◎これまでの学習したノートや資料 □様々な対策を付箋に記入してワークシートに位置付け、相互の関連を矢印で結び説明を記入させる。 【思考②】様々な立場の人を結んで相互の取組を関連付け、どのように協力しているのか考えている。(関係図) 【知技②】調べたことを関係図にまとめ、関係機関や地域の人々が自然災害に対し協力して対応していることを理解している。(関係図)
い か す	水害をなくすことはできないことを踏まえ、将来の水害対策や備えについて考え、関心をもつ。⑧	問：水害をなくすことはできるのだろうか。 ○浸水被害の資料から水害をなくすことは可能なかどうかについて話し合う。 ・新宿区は浸水被害は減っているがゼロにはならない。 ・きっと水害をゼロにすることはできない。 ・水害から命を守る方法について考えなければならない。 ・実際に災害が起きたらどのようにしたらよいのかな。 ●今後の水害対策について考えたことや疑問を書く。	◎新宿区浸水被害のグラフ □水害をなくすことは不可能なことに気付かせ、将来の災害に向けた対策や備えに目を向けさせていくようにする。 【態度①】浸水被害を完全になくすことができないことを踏まえ、今後どのようにしたらよいか疑問や関心をもっている。(ノート)
	これまで学習してきたことを基に、水害から命を守る方法について考え東京マイ・タイムラインを作成する。⑨	問：水害から命を守るために、災害時の私たちはどのように行動するとよいのだろう。 ●学習したことをもとに、自分たちではできないことと、自分たちが協力できることを分けて考え、その理由も合わせて話し合う。 ●災害時の自分の行動について考え、自分の対処の流れを東京マイ・タイムラインのワークシートに記入する。 ・台風が近づいたら、ニュースなどでどんな危険があるか情報を調べる。 ・注意報や警報が出たら、外出をしない。 ・暴風時は倒れやすい植木や看板に気を付けて避難する。 ●自然災害の学習を終えた振り返りをマイ・タイムラインに記入する。	◎自分でまとめた関係図 ◎新宿区洪水ハザードマップ ◎東京マイ・タイムラインのワークシート □資料や学習記録を用意し、学んだことを基に根拠をもって考えることができるようにする。 【思考②】様々な取組の中から、自分たちにできること、協力できることを考えて行動を選択している。(ノート) 【態度②】地域の一人として災害時の自分の行動の仕方について考えている。(東京・マイ・タイムライン)

5 本時の指導（4／9時）

（1）本時のねらい

○神田川の水害に対して新宿区や地域の人々は協力してどのような水害対策をしているのか理解することができる。

（2）本時の展開

	○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◎資料 □指導上の留意点 【評価】
導入 (2)	○本時の問いを確認する。 本時の問い 神田川の水害に対して、新宿区や地域の人々はどのように協力して対策をしているのだろう。	□学習計画を掲示し、本時の問いと調べる方法を確認する。
自分 タイム (5)	○質問内容と質問する順番を確かめる。 ・ 神田川が氾濫する危険があることをどのように知るのか。 ・ 氾濫しそうになった場合は、区はどうするのか。 ・ もし氾濫してしまったら、誰とどんな協力をするのか。 ・ 水害のために準備をしているのか。	◎前時の学習の板書の記録 □前時で分からなかったことを振り返り、聞いてみたいことや重要だと考える質問に番号を記入する。
みんな タイム Ⅰ(20)	○区役所の人に質問し、話を聞く。 ・ 神田川の橋には、水位・雨量観測システムやサイレンが設置されている。東京都と協力して設置している。 ・ ホームページやメール、防災行政無線などで川の水位や避難情報を知らせている。 ・ 氾濫した場合に備えて、消防署や消防団、地域の人と連携して訓練をしている。 ・ 自衛隊を派遣してもらう場合は、東京都知事をお願いをする。 ・ 日頃から危険な場所を見てもらえるように、ハザードマップを作って配っている。	◎区役所の人の話 ◎神田川・環状七号線地下調節池の写真 ◎台風19号における防水扉設置の様子の写真 ◎神田川流域の浸水予想区域図 □区役所の危機管理課の人の話を聞くことで、現場の具体的な様子を捉えられるようにする。 □質問に対する区役所の人の回答を板書でまとめていく。 □必要に応じて写真などの資料を用意して掲示して理解を促す。 □児童はメモを取りながら聞くことができるように促す。
みんな タイム Ⅱ(10)	○インタビューを通して考えたことについて話し合う。 ・ 新宿区は、東京都や消防署とも協力して対策していることが分かった。 ・ 消防署や消防団は水害対策の訓練もしていることが分かった。 ・ 避難誘導は警察と消防署が協力して行っていることが分かった。	□新宿区の人だけで安全を守ることができるか投げかけ、誰がどのように協力しているかに着目して考えさせる。 □新宿区が東京都や関連機関と連携して対策をしていることに気付かせる。 □自分の考えをノートに書いてから、学級全体で話し合う。
振り返り タイム (8)	○本時の問いに対するまとめをノートに書く。 新宿区は、東京都だけでなく、消防署や地域の人と協力しながら、洪水を防ぐ取り組みを行っている。そのおかげで、浸水被害が減ったり、人の命が守られたりしてる。 ○今日の学習を通してできるようになったことや次の時間のめあてなどを記入する。	【知技①】新宿区は、消防署や地域の人と協力して、水害を防いだり減らしたりしていることを理解している。 (ノート) □「学び方カード」を活用して、学習をを振り返り、次時のめあてを記入するよう促す。

（3）本時の板書計画

10/30 水害からくらしを守る

問い 神田川の水害に対して、新宿区や地域の人々はどのように協力して対策をしているのだろう。

＜質問＞

- ハザードマップの作り方 (2軒のタイミング)
- 調節池 (数回)
- 昔の水害の理由
- 川が氾濫した時の対策
- 水害への理由
- 水害対策の活用
- 川のそばの対策
- 雨量を増やす取組

東京都

- 下水道
- ほそ
- 川の整
- 地下調節池
- ちよ留

新宿区

- ハザードマップ
- 水位・雨量観測システム
- サイレン
- 橋のふた
- 水防訓練
- 気象情報
- メール、HP
- 避難誘導
- 消防訓練
- 消防団
- 地域の人

まとめ

- 神田川の水害に対して新宿区は、東京都だけでなく、消防署や地域の人と協力しながら、洪水を防ぐ取り組みを行っている。そのおかげで、水害が減ったり、人の命が守られたりしている。

6 実践事例の成果と課題

(1) 社会的事象の見方・考え方を働かせることができる教材開発

○「つかむ」段階で、東京都でこれまでに起こった自然災害の種類や分布、発生時期に着目して地図や年表などの資料で調べることで、東京都ではこれまで洪水が繰り返し起こっていることを理解することができた。さらに、新宿区ではこれまでに神田川の流域で水害が多く起こり、その都度対処してきたことも理解できた。

○「調べる」段階では、新宿区における神田川流域の水害対策に加えて、東京都各地の高潮や土砂災害の対策を取り上げ、グラフや文章、写真などの資料を活用して調べた。東京都は高潮に対してスーパー堤防や防潮堤を作って備えていることや土砂災害に対して砂防堰堤や落石防護工などの対策をしていることを理解することができた。

●高潮や土砂災害については、ニュース映像などの動画を見せることでさらに理解を深めることができる。

自然災害について

東京都で起きた自然災害

災害発生年	災害の種類	主な場所(地域)
明治43年	洪水	東京
大正6年	地震	東京
大正12年	地震	東京
昭和13年	地震	東京
昭和15年	地震	三宅島
昭和22年	洪水	東京
昭和24年	地震	東京
昭和25年	地震	大島
昭和33年	洪水	東京
昭和37年	洪水	三宅島
昭和41年	洪水	東京
昭和49年	洪水	鶴江
昭和51年	洪水	田舎
昭和53年	洪水	中新井
昭和54年	洪水	八王子
昭和56年	洪水	品川
昭和57年	洪水	高尾
昭和58年	洪水	三宅島
昭和61年	洪水	大島
昭和65年	洪水	上野原
平成11年	洪水	板橋
平成12年	洪水	三宅島
平成17年	洪水	下井草
平成20年	地震	東京
平成25年	地震	大島

また地図を見て
気付いたこと
うちはくり返し起こっていた
かんたんな島で多い
自然災害は東京都には無いと
思っていたが、国にもある
かんたんな島で起こっていた
(大島)

(2) 学習問題を協働的に追究して学びを深める学習活動の工夫

○神田川流域の水害対策を調べる際には、新宿区の危機管理課の人へのインタビュー調査を行った。対策や備えに着目して実社会の人と対話的に学ぶ活動を通して、「役所の人に話を聞けてよかった。私たちが家にいるときも、役所の人が他の区や消防団の人たちと協力して水害を防いでいるということが分かった。」と記述していた。

●児童からの質問を事前に送付し、役所の人と何度も打ち合わせを行うことで、ねらいに迫るインタビュー調査をすることができる。



(3) 児童の学びが深まる問題解決的な学習過程と「問い」の構成の工夫

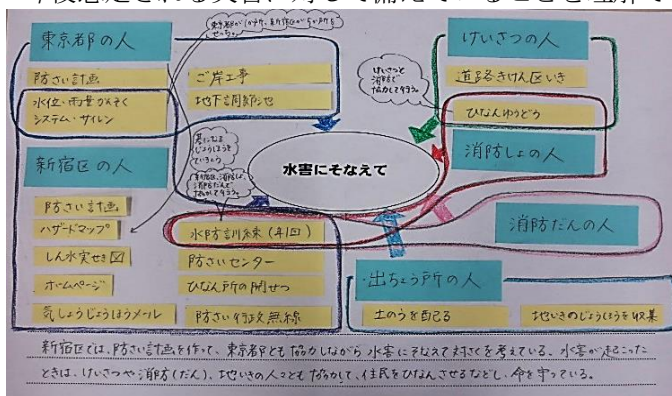
○「東京都ではどのような対策をしているか」「新宿区ではどのような対策をしているか」という事実を追究する問いを設定したことで東京都の取組を調べる視点を生かして新宿区の取組を調べていた。

○都と区の取組が地域の安全につながっていることに着目して「どのように協力して対処しているのか」という問いを設定することで、様々な立場の人が水害対策に協力してきたことが理解できた。

○マイタイムラインを作成した後に、「どのように行動したらよいか」を問うことで、自分事として、水害の際の行動や日ごろの備えへの関わり方を考えることができた。

(4) 児童の学習状況についての評価方法の工夫

○本単元のまとめでは、児童がそれまで調べてきた様々な立場の人々の取組をつないで協力関係を視覚的に捉えることができるようにするために関係図をつくる学習をした。自然災害から人々を守る取組と地域の人々の生活に関連付けて人々の働きの意味を考え、自然災害に対して協力して対処してきたことや今後想定される災害に対して備えていることを理解できているかを評価することができた。



【思考・判断・表現】

B 様々な立場の人を結んで相互の取組を関連付けて協力関係を考えているかを評価する。

「東京都からのデータや情報をもらい、それを基にハザードマップを作っている。」

【知識・技能】

B まとめの文章表現で、新宿区や東京都などが協力して水害の対策をすることで安全を守っていることを理解しているかを評価する。

●学びのプロセスに即した「学びの振り返りカード」の活用ができなかった。今後、「つかむ」「調べる」「まとめる」段階のそれぞれの学習が終わる際にカードを活用していきたい。

第4学年 社会科学学習指導案

指導者 4年1組 大島なぎさ

1 小単元名 「世界とつながる大田区」(10時間)

2 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

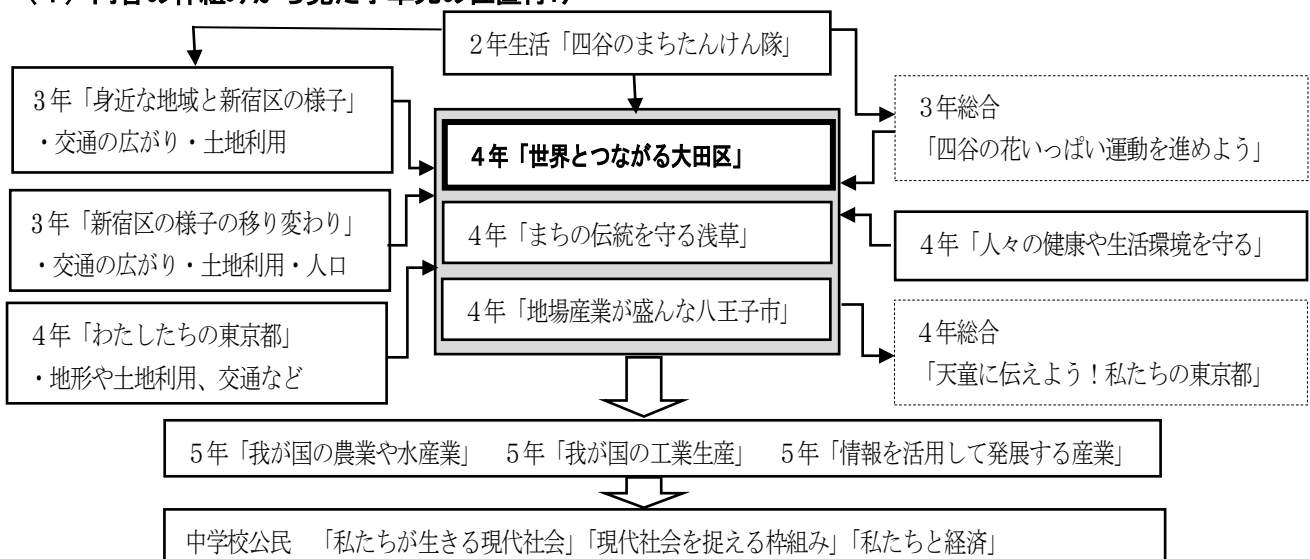
- 国際交流に取り組んでいる大田区について、位置や国際交流活動の背景、関係機関の人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料、ホームページなどで調べ、文章に記述したり新聞などにまとめたりして地域の様子を捉え、地域での活動状況と人々の取組を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりしながら大田区の特色を考え、表現することを通して、大田区では人々が協力し、国際都市をめざしたまちづくりをしていることを理解できるようにする。
- 国際交流に取り組んでいる大田区について、学習問題を主体的に追究・解決し、学習したことを基に地域社会に対する誇りと愛情をもち、地域の外国人と共に生活していくために自分たちができることを考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①大田区の位置、国際交流活動の背景、人々の協力関係などについて、地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、国際交流に取り組んでいる大田区の様子を理解している。 ②調べたことを文章に記述したり、新聞にまとめたりして、大田区では、人々が協力し国際都市を目指したまちづくりをしていることを理解している。	①大田区の位置や国際交流活動の背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見いだし、大田区では人々が協力し国際都市を目指したまちづくりに努めていることについて、考え表現している。 ②自分が住んでいる地域と比較・関連付け、国際交流に取り組んでいる大田区の特色を考え、学習したことを基に適切に表現している。	①国際交流に取り組む大田区について、予想や学習を立てたり、考えたりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

3 小単元について

(1) 内容の枠組みから見た小単元の位置付け



現行学習指導要領 第4学年内容（5）

県内の特色ある地域の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

アの(ア)：県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。

アの(イ)：地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめること。

イの(ア)：特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。

※【 】は、視点と方法を示す。

＜出会い＞東京の様子について調べ、東京ガイドパンフレットにまとめて天童市千布小の4年生に伝えたい。

＜出会い＞3年生に新宿区の移り変わりの学習で新宿区には8万人もの外国人がくらしていることが分かった。

＜出会い＞新国立競技場ができ、2020年にオリンピック・パラリンピックが開催される東京を訪れる外国人や日本に生活する外国人に関心をもつ。

問い：東京都の中で、大田区はどこにあるのだろうか？

【大田区の位置】

知識：大田区は東京湾に面していて、埋立地には工業地帯が広がっている。また、羽田空港や東京港があり東京の玄関にもなっている。

資料：東京都の地図

：羽田空港や東京港の写真

：羽田空港の就航国地図

問い：姉妹校都市交流はどのように行われてきたのだろうか？

【国際交流の歴史的背景】

知識：大田区は、大森貝塚を発見したモースの故郷であるアメリカセラム市と学校を含めて様々な交流をしている。

資料：姉妹校都市交流の取組が分かる写真や文書資料

：市民団の団長の話

問い：新宿とくらべ大田区はどのような地域と言えるのだろうか。

【比較】

活動：新宿と比較して共通点や相違点を明らかにし、東京ガイドパンフレットに追記する。

資料：国際都市おおた宣言

＜学習問題＞

大田区では、外国人とだれがどのように交流をしているのだろうか？

問い：大田区では、どうしてこんなにたくさんの国際交流活動をしているのだろうか？

活動：調べて分かったことを関連付けて図にまとめ、大田区が国際交流活動をすすめる理由について考え、話し合う。

【関連付け】

知識：外国人がたくさん訪れくらしている大田区では、様々な人々が協力して、国際都市を目指したまちづくりがすすめられている。

問い：東京都や大田区にくらす外国人は増えてきたのだろうか？

【外国との関わり】

知識：新宿区と同様に、東京でくらす外国人や大田区でくらす外国人は増えている。

：大田区は羽田空港を通して様々な国とつながっている。

資料：外国人観光客や日本で働く外国人の写真

：東京都や大田区にくらす外国人数の変化を表すグラフ

問い：国際都市づくりに向けて、どのような人々が協力しているのだろうか？

【人々の協力】

知識：区役所、区民、お店の人などが協力して大田区にくらしたり訪れたりする外国人と交流している。

資料：来～るおおた大使の人数

：ジャパンデーの取組の写真

：ウエルカムショップ

：外国語の案内表示

：国際都市おおた協会

＜社会との関わり＞ 問い：天童市千布小学校の4年生にどのようなことを伝えたらよいのだろうか。

東京都には、新宿区と異なる様々な特色ある地域がある。大田区は国際交流がさかんな地域として千布小の人に紹介していこう。

(3) 本小単元の教材について

本小単元では、県内の特色ある地域として、国際交流に取り組んでいる地域について学習する。地域が国際交流活動を行っている様子を捉えることで、児童がグローバル化する社会の様子を捉え、世界の国々との関わりへの関心を高める学習につながる単元でもある。

県内の特色ある地域として、国際交流が盛んな地域を取り上げる際に、姉妹都市交流や外国人との国際交流イベント等の取組を扱うこととした。区市町村や市民団体、住民など、様々な立場の人たちが国際交流活動を行っていることを捉えさせたい。

① 多文化交流会「ジャパンデイ」を取り上げる【第3時資料】

在住外国人の増加を受け、太田区が主催し企画・運営している「ジャパンデイ」を取り上げることにした。このイベントは、在住外国人に対してだけのイベントではなく、日本人が多文化を理解する上で、一緒に参加し、交流を図ることを目的として行われてきた。なぜ、一緒に餅つきをするのか、なぜ防災訓練をするのか、ということを見聞に考えさせる上で重要な資料である。

多文化交流会「ジャパンデイ」の概要

- 外国人区民の増加を受け、外国人・日本人相互の多文化理解を推進する目的で、平成25年度から太田区が開始したイベント。
- 様々な日本文化（餅つき、茶道、お正月遊び、獅子舞等）を、外国人と日本人と一緒に参加して体験し、交流促進を図っている。
- 平成27年度までは、会場で防災訓練を開催していた。（令和元年に再開。）

太田区が主催する多文化共生イベント『ジャパンデイ』の様子



② 在外外国人が新たに来日する外国人に日本のよさを発信する資料【第5・6時資料】

「来～る太田区大使」の取組

太田区に住む外国人が、SNS等を使って太田区の魅力を国内外に発信します。



太田区の魅力をPRする外国人住民



太田区は住みやすく、きれいな街です。観光スポットがたくさんあるので、もっと知りたいです。太田区の魅力をいろいろな人に伝えたいです。

第5・6時では、太田区が主催する「来～る太田区大使」の取組を取り上げることとした。太田区に住んでいる外国人が太田区のよさを発信していることの意味を考えることで、外国人住民も太田区民の一員であり、一緒に太田区のまちづくりに参加していることを理解できる資料として取り上げたい。また、それが、太田区の国際交流の特色の一つであることに気付くようにしていきたい。

③ 姉妹都市を結んでいるセーラム市との交流の意味に気付く資料【第4時資料】

第8時では、セーラム市と太田区の中学生が互いにホームステイをしたり、自分たちが制作した作品を送り合ったりする交流を取り上げる。

昭和59年、太田区立郷土博物館とピーボディー博物館（現ピーボディー・エセックス博物館）が姉妹館提携を行い、それが発展して、平成3年、太田区とセーラム市は姉妹都市となった。中学生が大人になったときに国際感覚を身に付けてほしいという区の願いから発足し、長い間続いている背景を知ることから、子どもであっても、住民の一員として、互いの文化を理解し、



国際交流を図る立場にあることに気付くことができる資料として取り上げる。また、これを契機に国際交流の姿が、少しずつ姿を変え、「多文化共生へのまちづくり」に変わってきたことに気付く資料として扱うようにしたい。

本実践は、以上のような大田区の様々な取組を取り上げ、児童一人一人が追究していく中で、大田区の国際交流の取組が、「姉妹都市交流」、「外国人住民への支援」、「多文化共生のまちづくり」と広がり変化してきた様子に気付かせていきたい。また、時代に応じて、国際交流の姿が変化している地域としては、新宿区も同様である。大田区の人々の姿を学びながら、グローバル化する社会の様子を捉えるとともに、世界の国々との関わりへの関心を高めていきたい。

国際都市おおた宣言

～地域力で世界にはばたく～

おもてなしの翼を広げ 世界中の人々を歓迎しよう

暮らしが息づく多彩な魅力あるまちとして

訪れる人を迎えます

ふれあいの翼を広げ 多様な文化を分かち合おう

互いの個性を認め誰もが活躍できる

笑顔あふれるまちをつくります

みらいの翼を広げ 豊かな明日をともにつくろう

おおたが誇る匠の技が世界の期待に応え

新しい産業をつくります

大田区は、日本のゲートウェイとして、

地域の力を集結し、新たな時代を切り拓いて、

世界にはばたく「国際都市おおた」を宣言する。

大田区

※ゲートウェイ・・・入り口（出展：大田区ホームページ）

資料 就航都市一覧（羽田空港旅客ターミナルHP）

（４）児童の学びが深める問題解決的な学習過程と「問い」の構成の工夫

本小单元では、学習指導要領や解説から、着目させたい視点や考える方法を抽出（【】で表現）し、その視点や方法が働くように促す追究の問いを設定し、学びのプロセスに即して構成を下記のように考えた。

学習問題を把握する問い	東京都にいる外国の人々の数は、どのように変わっているのだろう。 【在住外国人との関連】 羽田空港のある大田区は、なぜ多くの在住外国人が住みやすいと思うのだろう。 【外国人に対する取組】
単元の学習問題	大田区では、国際都市を目指し、どのような取り組みをしているだろう。
↓ 事実を追究し捉える問い	大田区は、外国の都市とどのような交流をしているだろう。 【外国の都市との関わり】 外国人旅行者のために、大田区ではどんな「おもてなし」の取組をしているのだろう。 【外国人旅行者のための取組】 在住外国人のために、大田区ではどのような「ふれあい」の取組をしているのだろう。 【在住外国人のための取組】
特色や意味を考える問い	大田区が、様々な外国人との国際交流を進めているのはなぜだろう。 【国際交流を進める意味】 大田区の工場は、どのように外国の人とつながっているのだろう。 【関連付け】
社会との関わりを考える問い	大田区では、どのような人たちが、外国の人々と共に過ごすためのまちづくりを進めているのだろう。 【関連付けて考える】 大田区はどのような特色がある地域と言えるのだろう。 【比較して考える】

4 小単元の指導計画と評価計画 (10時間扱い)

	ねらい	○主な学習活動 ●評価の活動 問 問 問 ・児童の反応	◎資料 □指導上の留意点 【評価】
つ か む	羽田空港は東京が世界とつながる玄関口であることや東京都にくらす外国人数が増加していることを理解する。①	○2020 東京オリンピック・パラリンピックに外国人がどこからどれくらい来るか話し合う。 ○羽田空港の位置と就航国を確かめ合う。 問：東京都にいる外国の人々の数は、どのように変わっているのだろう。 ○在住外国人人口が 40 年前に比べて 5 倍に増えている背景について話し合う。 ○外国人が仕事や生活で問題に直面する例について話し合う。 ●分かったことや疑問をノートに書く。	◎国立競技場や羽田空港の写真 ◎羽田空港への乗入れ国地図 ◎訪日・在住の外国人の写真 □地図で外国の位置や国旗を調べ、国旗の尊重を指導する。 ◎東京都在住外国人数のグラフ ◎外国人が困る時のアンケート 【知技①】東京都では訪日外国人や在住外国人が増加していることを理解している。(ノート)
	大田区に住んでいる外国人数・国籍を調べて生まれた疑問を話し合い、学習問題を設定する。②	○外国人意識調査を振り返り、大田区の在住外国人の人口や意識調査の結果と比較する。 ・日本に住むと困ることが多いにも関わらず、大田区が住みやすいと感じる外国人が多い。 問：羽田空港のある大田区は、なぜ多くの在住外国人が住みやすいと思うのだろう。 ○大田区の概要や外国との姉妹都市・友好都市があることや「国際都市おおた宣言」を出していることを調べる。 ●もっと知りたいことをノートに書き、みんなで話し合っ て学習問題を作る。 ・どのようなおもてなしをしているのかな。 ・国際都市おおた宣言はどのような内容だろう。どんな取り組みをしているだろう。 【学習問題】大田区では、国際都市を目指し、 どのような取組をしているのだろう。	◎大田区に居住する外国人の意識調査 ◎大田区の外国人人口のグラフ □外国人が日本でくらす難しさや外国人在住者の増加と矛盾から疑問が生まれるようにする。 ◎大田区の姉妹都市・友好都市と国旗 ◎国際都市おおた宣言(省略文) ◎羽田空港への外国人入国者数 【思考①】大田区の外国人に対する取組について疑問をもち学習問題を設定しようとしている。(ノート)
	大田区の交流の写真を手掛かりに、学習問題についての予想を話し合い、学習計画を立てる。③	問：学習問題の予想をし、学習計画を立てよう。 ○前時の学習を振り返る。 ●資料を手掛かりに学習問題の予想を書く。 ・姉妹都市は、区役所が代表の人を送っている。 ・外国人旅行者に対しては、新宿区のように案内所、外国人向けパンフレットを作っている ・在住外国人は、日本語教室を開いたり、イベントを行ったりして、日本のことを教えているのではないかな。 ○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ①姉妹都市 ②外国人旅行者 ③在住外国人 ●つかむ段階までを振り返り、学習の進め方を自己評価して学び方にカードに記入する。	◎姉妹都市交流の写真 ◎外国人旅行者の写真 ◎大田区のイベント「ジャパンデー」の写真と文章資料 ◎国際都市おおた宣言(全文) □根拠をもって予想できるよう、写真資料を提示する。 □予想は外国人旅行者、在住外国人、外国の姉妹都市の人に対する取組に分けて板書する。 【態度①】予想を書き、学習計画を立て見通しをもとうとしている。(ノート・学び方カード)
	姉妹都市や友好都市との交流について調べ、大田区では外国に住む人との国際交流を続けてきたことやその背景を理解する。④ 【本時】	問：大田区は、外国の都市とどのような交流をしているのだろう。 ○アメリカ合衆国セーラム市、中国北京市朝陽区、大連市との交流を調べる。 ・卓球交歓大会 ・中学生海外派遣・茶道体験 ○どうして交流が続いているのか調べる。 ・大森貝塚発見者のモースがきっかけなんだ。 ・姉妹校交流は国際都市づくりためなんだ。 ●姉妹都市や友好都市との交流のまとめをノートに書く。	◎友好都市の中国朝陽区、姉妹都市のセーラム市を調べる地図 ◎中学生と姉妹校交流の写真 ◎セーラム市との交流の経緯 ◎交流体験をした中学生の作文 □主にセーラム市との交流の様子を調べ、交流の背景や歴史からその意味を考える。 【知技①】写真などの資料で調べ、姉妹都市に対する大田区の取組について理解している。(ノート)
調 べ る	外国人旅行者との交流について調べ、安心して観光をしたり過ごしたりするための取組を行い、訪問者が多いまちづくりを目指していることを理解する。⑤	問：外国人旅行者のために、大田区ではどんな「おもてなし」の取組をしているのだろう。 ○大田区や地域住民の取組を調べる。(観光情報センター、案内ボランティア、外国人銭湯ツアーなど) ○区、区民、外国人旅行者の関係をまとめる。 ・区と住民が協力して外国人旅行者の「おもてなし」をしている。 ●外国人旅行者に対する大田区の取組についてノートにまとめる。	◎観光情報センターの写真 ◎案内ボランティアのポスター ◎外国人銭湯ツアーのポスターと案内する在住外国人の話 □区や地域商店などが協力した取組に気付くようにする。 【知技①】写真などの資料で調べ、外国人旅行者に対する大田区の取組についてノートにまとめている。(ノート)

調 べ る	在住外国人が安心して生活できるようにするための取組を調べ、多文化共生推進室や国際都市おおた協会の役割を考え、関係機関と大田区民が連携して交流をすすめていることを理解する。⑥⑦	問：在住外国人のために、大田区ではどのような「ふれあい」の取組をしているのだろう。 ○大田区多文化共生推進センターの取組について資料から調べる。 ・多言語による相談窓口（mics おおた） ・学校からの手紙を読むための保護者向け教室の開催 ○国際都市おおた協会の取組について資料から調べる。 ・「ジャパンデー」などの多文化交流イベント ・「来～るおおた大使」 ●調べて分かったことをノートにまとめる。	◎多言語相談窓口や保護者向け日本語教室の写真 ◎国際都市おおた協会の各イベントの写真や各担当者の話 ◎「来～るおおた大使」の国別人数のグラフ □在外外国人に対する取組に着目して、区の施設がどのような取組をしているかを調べ、ノートにまとめるようにする。 【知技①】 在住外国人に対する取組に着目し、集めた情報から大田区の交際交流の取組の様子を理解している。（ノート）																				
		○前時で調べた2つの区の施設の取組の共通点について話し合う。 ・外国の人に困らないでほしい気持ちがある。 ・外国の人が大田区でくらしやすくなってほしいから施設も協力している。 問：大田区が、様々な外国人との国際交流をすすめているのはなぜだろう。 ・共にくらす仲間として、できるだけ長く大田区でくらししてほしいからやっていると思う。 ・国際都市おおた宣言の考えに基づいている。 ・様々な交流は国際都市を目指す取組だった。 ●取組の意味について考えてノートに書く。	□2つの区の施設の取組の共通点を考えることで、外国人を地域の人が共生する活動であることに気付かせるようにする。 ◎国際都市おおた宣言（全文） □資料から国際都市を目指すには大田区民と外国人との交流が必要なことに気付かせる。 【思考①】 在住外国人に対する取組に着目し、集めた情報から国際交流の取組の意味について考えている。（ノート）																				
	世界とつながる町工場などの取組を調べ、大田区では工場も、ものづくりの技術や外国からの労働者や技術研修者を通して外国とつながっていることを理解する。⑧	○世界とつながる大田区の町工場の様子について知る。 問：大田区の工場は、どのように外国の人とつながっているのだろう。 ○大田区のものづくり支援の取組を調べる。 ・外国人研修生もたくさん働いている。 ○「ものづくりの力で未来をつくる」とは、どのような意味なのかを考え、話し合う。 ●町工場と世界が技術や人材でつながっていることについて分かったことをノートに書く。 ●学習計画を振り返り、学習問題の解決ができそうか振り返って学び方カードに記入する。	◎技術研修生の人数と写真 ◎外国の工場での技術指導写真 □町工場では外国人が日本人とともにものづくりしていることに気付くようにする。 【知・技②】 大田区の町工場について調べ、世界とのつながりを理解している。（ノート） 【態度①】 学習問題の解決に向けて必要なことを調べることができたかを振り返っている。（学び方カード）																				
ま と め る	調べてきた取組について表にまとめ、大田区では様々な人と協力して国際都市をめざすためのまちづくりをすすめていることを理解する。⑨	問：大田区では、どのような人たちが、外国の人々と共に過ごすためのまちづくりを進めているのだろう。 ●大田区が進める国際交流の様々な立場の取組についての取組を分類して表に整理する。 <table><tr><td>外国人</td><td>共生社会</td><td>おおた協会</td><td>地域の人</td><td>大田区の工場</td></tr><tr><td>姉妹都市</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>外国人旅行者</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>外国人在住者</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ●表を基に大田区が目指していること考える。 ・外国人が、たくさん訪れ、くらす大田区では、人々が協力して、国際都市を目指したまちづくりをすすめている。	外国人	共生社会	おおた協会	地域の人	大田区の工場	姉妹都市					外国人旅行者					外国人在住者					□縦に様々な立場の外国人、横に様々な立場の大田区の人を位置付けて表に整理する。 【思考②】 様々な立場の取組を関連付けて国際都市を目指す大田区の取組について考えている。（ノート） □様々な人のつながりや取組を相互に関連付けて考える。 【知・技②】 調べたことを表にまとめ、大田区では様々な国際交流の取組をすすめていることを理解している。
外国人	共生社会	おおた協会	地域の人	大田区の工場																			
姉妹都市																							
外国人旅行者																							
外国人在住者																							
	新宿と比べて大田区の特色を考え、東京紹介ガイドマップの大田区の欄に大田区の特色やよさを記入する。⑩	問：大田区はどのような特色がある地域と言えるのだろう。 ●新宿区比べて、共通点と相違点を見出して話し合い、大田区の特色について考えを書く。 ・国際空港の羽田があり外国人の交流がたくさんある。 ・様々な人が協力し国際交流をすすめている。 ●東京紹介ガイドマップの大田区の欄に、大田区の特色のよさを記入する。	□大田区の特色を、自分がくらす新宿区と比較して考えさせる。 【思考②】 大田区の特色を新宿区の様子と比較して考えている。 □大田区の特色を考え、東京ガイドマップに記入する。 【知・技②】 国際交流を盛んに進めている大田区の特色についてまとめ理解している。																				

5 本時の指導（4／10時）

（1）本時のねらい

○国際交流の様子や背景に着目して調べ、大田区では中学生に国際感覚を身に付けてほしいことを願って国際交流を続けてきたことを理解する。

（2）本時の展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◎教材や資料□指導上の留意点【評価】
導入 (5)	○前時の学習を振り返り、学習計画を確認する。 ○本時のめあてを確認する。 大田区は、外国の都市とどのような交流をしているのだろう。	◎学習計画表 ◎姉妹都市のセーラム市や友好都市の中国朝陽区、大連市を示す地図
自分 タイム (7)	○大田区との姉妹都市であるアメリカ合衆国セーラム市の国際交流の取組について調べる。 ・姉妹都市交流は、お互いの都市を訪問している。	◎中学生と姉妹校交流の写真 ◎セーラム市との交流の経緯 □セーラム市を中心に調べるようにする。
みんな タイム ①(12)	○大田区の国際交流の取組について分かったことを発表する。 ・外国の人とあいさつをしている。 ・お茶の体験をしている。 ・イベントを通して日本文化について伝えている。 ・日本から遠く離れた国と交流している。 ・大田区に住む人たちが、外国に行って、現地の人たちと関わっている。 ・一緒にスポーツをすることで交流している。	□国際交流の取組の様子について、誰が何をしているか写真や文章資料から読み取るように促す。必要に応じてラインを引くように伝える。 □主にセーラム市との交流の様子を写真や文章資料から調べるようにする。友好都市（中国北京市朝陽区、大連市）との交流については写真で簡単に紹介するようにする。（ICT）
みんな タイム ②(13)	○なぜ交流が続いているのか話し合う。 ・セーラム市との交流は大森貝塚発見者のモースがきっかけだったから。 ・姉妹都市交流は国際都市づくりのために大切だから。 ・お互いを理解することが大事だからだと思う。お互いにずっと理解する気持ちを大切にしてきたから、ずっと交流が続いているのではないかな。 ・区長や区役所の人たちが、外国から来る人たちと仲良く生活することが区民にとって大切だと考えたから。	◎国際交流の経過年表 □国際交流活動の内容や交流のきっかけ、交流先が以前よりも増えたことを捉えさせる。 ◎国際交流に参加した人々の声 □交流の様子を調べ、交流の背景や歴史からその意味を考える。
振り返り タイム (8)	○姉妹都市や友好都市との交流について振り返り、まとめをノートに書く。 ・スポーツを通して仲良くなろうと考えていた。 ・日本の文化を伝えることで、外国の人たちに日本のことを知ってもらおうとしていた。 ・外国との交流は、最近のことではなく、ずっと昔から始まっていた。 ・他にも大田区はどんな交流を行っているのか調べてみたい。	□学んだことがガイドブックづくりに繋がるよう意識化を図る。 【知技①】写真などの資料で調べ、姉妹都市に対する大田区の取組について理解している。（ノート）

（3）本時の板書計画

大田区は外国の都市とどのような交流をしているのだろう

自分タイム

みんなタイム①

国際交流の
年表

セーラム市への
訪問の様子
(写真)

卓球交歓大会
の様子 (写真)

茶道体験

中学生が外国に訪問 卓球をいっしょに楽 外国の人に日本の

あいさつしている。 しんでいる。 文化を伝えている。

- ・日本からはなれた国の人とふれあっている。
- ・外国に行ったり、外国から来たり。
- ・現地の人と関わって、相手の国のことを知る。

国際交流

みんなタイム②

◎なぜ交流が続いているのか？

- ・モースがきっかけ。
- ・なかよくしたい。
- ・日本のことを知ってほしい。
- ・お互いを知ることが大切。
- ・相手のよさが分かったから。

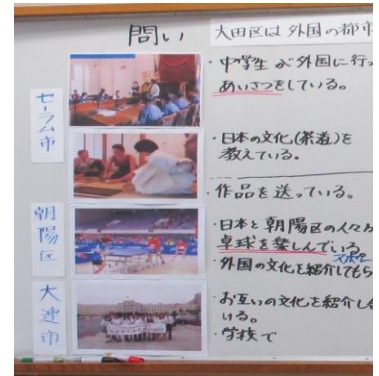
【ふり返し】分かったこと→考えたこと

- ・スポーツや相手の国の文化を知るなどの交流していた。外国の人たちとなかよくしたいのだと思った。
- ・昔からずっと続いていて、相手のことを知るからまた続けるのだと思う。

6 実践事例の成果と課題 ※臨時休校のため、実践は第8時まで。

(1) 社会的事象の見方・考え方を働かせることができる教材開発

- 実際に交流している様子が分かる写真を提示したことで、国と国との結びつき、互いの文化の理解、心の繋がりなどに気付き、国際交流についての見方を、児童が具体的なイメージをもって資料から読み取る活動につながった。
- 「国際都市おおた宣言」(省略文)を提示したことで、世界の玄関口である羽田空港のある大田区が、どのようにまちづくりに取り組んでいるか、国際交流の意味を考えることができた。
- 新単元のため、資料作成にかなりの時間がかかり、追加取材が必要だった。



【姉妹都市や友好都市との交流写真】

(2) 学習問題を協働的に追究して学びを深める学習活動の工夫

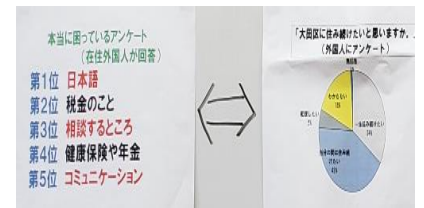
- 学習問題に対して予想し、学習計画を立てることで、児童が学習の見通しをもって学習を進めることができたため、児童は根拠をもって資料を読むことができた。第4時においても、「人」「もの」「情報」「文化」という視点から姉妹都市、友好都市の共通点を考え、国際交流の意味について考えさせる学習につながった。
- 「おおた宣言」のおもてなし、ふれあい、匠の技などのキーワードにより、問いが焦点化され、スムーズに予想や学習計画を立てることができ、次時の追究活動に広がっていった。



【資料から自分の考えをまとめる児童】

(3) 児童の学びが深まる問題解決的な学習過程と「問い」の構成の工夫

- 「多くの在住外国人が日本に住むと困ることが多いにも関わらず、大田区の在住外国人は住みやすいと感じている。」という事実を提示したことにより、「どうしてなのだろう。」という児童の問題意識が高まった。学習問題に対しさまざまな予想につながった。第4時においても「大田区は、外国の都市とどのような交流をしているのだろう。」という問いについて、様々な国際交流の形を理解することができた。



【大田区の外国人へのアンケート結果】

- 区内の人、旅行者、外国の人との交流の様子を調べる問いを設定し、国際交流がなぜ行われているのかという意味を考える問いを設定したことで、広い視野から国際交流に継続的に取り組んできた意味を考えられるような学習活動につながった。大田区の国際交流について調べていく中で生まれた「新宿区でもやっているかな？」という疑問を生かして「外国人の多い新宿区はどのようなのだろう。」という問いを設定して新宿区と比較しながら大田区の特長を考えることができた。

- 第4時では、「なぜ交流が続いているのか」ではなく「どうして交流が続いているのか」とした方がよかった。この先も続いていく国際交流について未来志向型の発問となるため、問いの吟味も必要である。

(4) 児童の学習状況についての評価方法の工夫

- 学び方カードを活用することで、振り返る視点が明確となり、一人一人が振り返り項目に基づいて自己評価を行うことができた。
- 本時の振り返りでは、姉妹都市や友好都市との交流を通し、日本の文化を伝えたり、外国の文化を知ったりすることがお互いに分かり合うことにつながると考えることができた。

【児童のノートから】セーラム市や朝陽区、大連市に行ったり、スポーツや茶道などの日本の文化を一緒に体験することで、仲良くなったり、お互いの国のことを知ろうとしていたのだなということが分かった。



【学習の振り返りを書く児童】

第5学年 社会科学学習指導案

指導者 5年2組 菊地 めぐみ

1 小単元名 「情報を活用して発展する販売業」（9時間）

2 小単元の目標と観点別評価規準

（1）小単元の目標

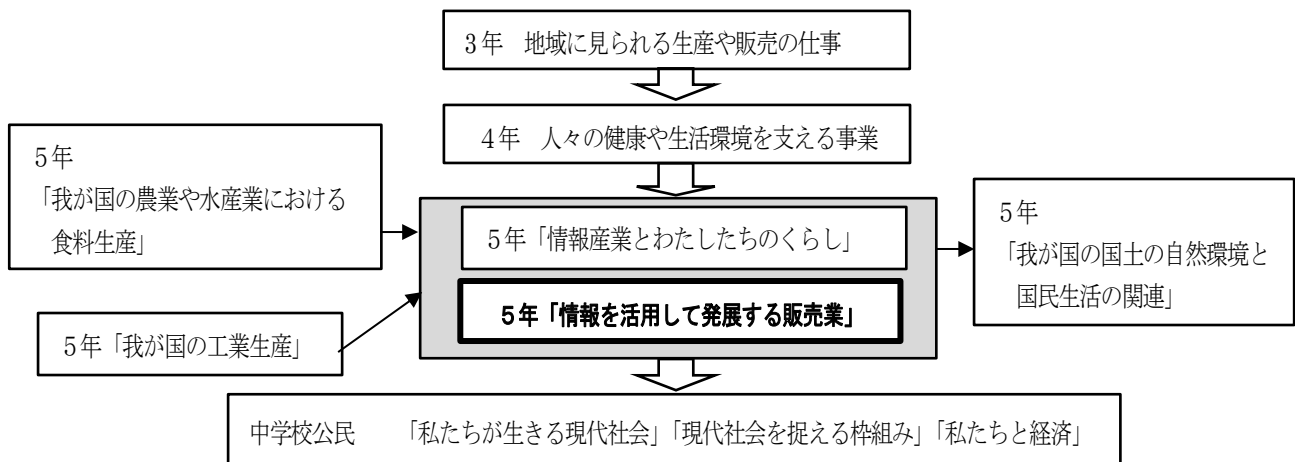
- 我が国の産業と情報の関わりについて、情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、聞き取り調査をしたり各種資料やコンピュータなどで調べたりして、まとめ、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解できるようにするとともに、情報活用の在り方を産業と国民の立場から多角的に考えることができるようにする。
- 学習問題を主体的に追究・解決し、学習したことを基にして、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、考えようとする態度を養う。

（2）小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報の種類、情報の活用の仕方について、聞き取り調査をしたり各種資料やコンピュータなどで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、産業における情報活用の現状について理解している。 ②調べたことを図表などにまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解している。	①情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、問いを見出し、産業における情報活用の現状について考え表現している。 ②情報化の進展に伴う利便性、産業の変化や発展と国民生活の向上を関連付け、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現するとともに、情報活用のあり方を多角的に考えている。	①我が国の産業と情報との関わりについて、予想や学習計画を立て、振り返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとしている。

3 小単元について

（1）内容の枠組み「現代社会の仕組みや働きと人々の生活（経済・産業）」から見た小単元の位置付け



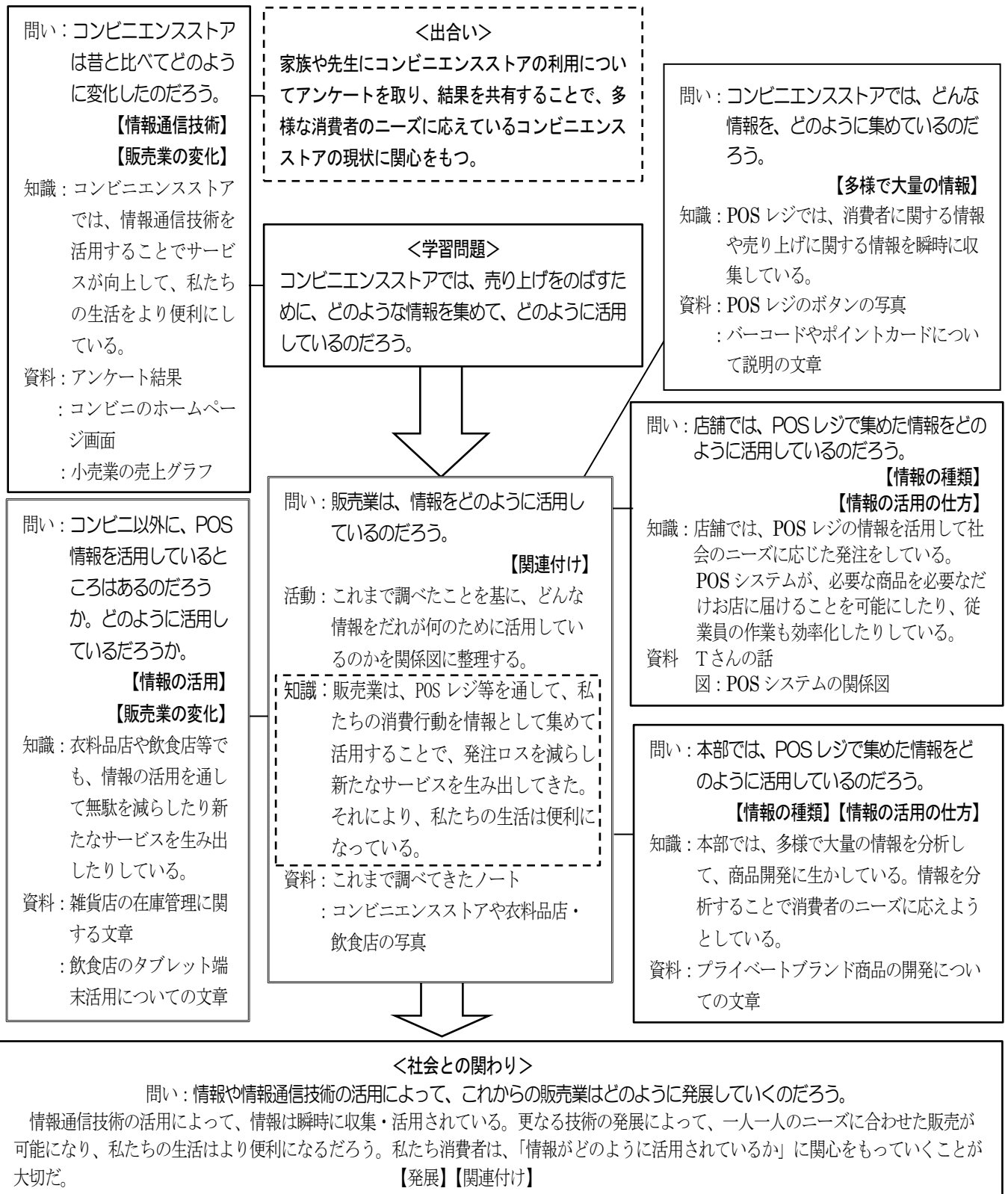
(2) 指導内容の構造

学習指導要領 第5学年内容 (4)

アの(イ)：大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。

アの(ウ)：聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめること。

イの(イ)：情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。



(3) 本小単元の教材について

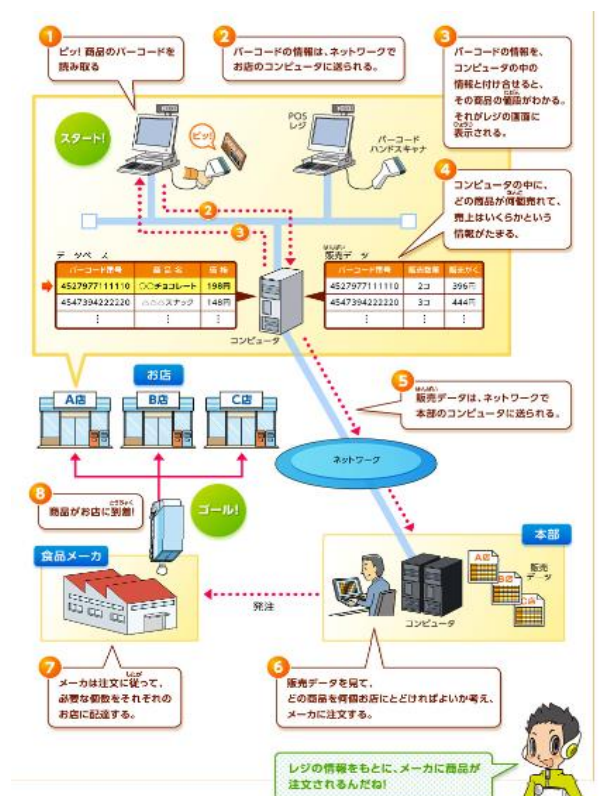
① 販売業の発展の捉え方

本小単元では、販売業の発展を「売り上げが伸びる」ことであると捉えた。児童は、これまで農業や工業の学習で、地形や自然環境を生かすこと、技術の革新と人々の努力によって、よりおいしい作物や製品を効率的に作っていることを学習してきた。安全性や環境への配慮など、消費者のニーズや社会のニーズに応える工夫をするという視点でも学習し、それらを追究することが生産者の利益につながることに触れてきた。第3次産業である販売業の目的を「売り上げを高めること」、そのための手段としての販売業の仕事は「消費者のニーズに応じて新たなサービスを作り出すこと」と考えた。販売業にとって、情報は、効率化とともに消費者のニーズを的確に把握するために必要であり、サービスの開発の基になるものである。この点からも、情報を活用して発展する産業を捉えるのに販売業はふさわしい教材であるといえる。

② POSシステムについて

POSとは、「Point Of Sales System」の頭文字を並べたもので、「販売時点管理」のことであり、物品販売の売り上げ実績を商品ごとなどに集計できるシステムである。販売情報を蓄積するレジは1980年代から使われているが、情報通信技術の発展とともにその発展や活用が進んできた。2017年～2019年にかけて大手のコンビニエンスストア3社では大幅なレジの入れ替えも行われている。新たなレジでは、詳細な気象情報、ポイントカードや会員カードのデータと合わせた分析により、より詳細で緻密な分析ができるようになってきた。

このPOSシステムで得られる情報の基本は、「販売データ」と「客層データ」である。「販売データ」とは、主に商品のバーコードから読み取られ、「どんな商品が、何月何日何時に、何個売れたか」が瞬時に記録される。「客層データ」の取り方は、各社で異なるが、店員がボタンで入力したり会員カードの情報と合わせることで収集できる。また、各支店が集めたデータは、本部に送られ、総合的に分析されて大まかな傾向などの情報になっている。(右図)



本小単元では、バーコードの意味やレジの客層ボタン・店で表示される画面(左図)から、レジでどのような情報が収集されているのかを調べることができるようにする。

(図: NECキッズテクノロジーワールド

<https://jpn.nec.com/kids/himitsu/08.html> より)

③ POSシステムで集めた情報の活用

このようなPOSシステムで得た情報を活用する立場として、本小単元では、実際に消費者を相手にしてレジを操作する「店」と、レジで集めた情報を集約して経営に生かす「本部」の立場に注目する。

「店」では、POSレジの情報を本部へ送ると同時に、店舗情報として昨年度の売り上げと比較したり最近の売れ行きと比べたりして、発注量を決めるために活用する。時には、本部から商品が指定されたり、立地に合わせた天気予報や行事の予定を調べたりして、POSデータを合わせることでより正確な予想を立てていく。「店」では、このように主に発注量を決めるときに情報を活用することで、「必要な商品が必要なだけ」並び、チャンスロスと破棄ロスを減らすことにつなげている。「店」について

調べる際には、本校の地域でコンビニエンスストアのオーナーを務めるTさんの話を活用する。

「本部」では、各店舗からの情報を基に、より広い範囲での売り上げの傾向を予測できる。「客層データ」と掛け合わせることで、新たな顧客のターゲットを絞りプライベートブランドの商品を開発したり、本部から各店舗への経営のアドバイスを伝えたりしている。コンビニエンスストアの商品開発では、こうした客層データを加味した情報の分析が生かされている。

④ コンビニエンスストア以外の販売業での活用

POSシステムを発注に生かすことは、コンビニエンスストア以外でも行われている。例えば、下の例のように、POSシステムで集めた「販売データ」や「客層データ」を本部で管理し、在庫管理と合わせることで発注量に活用して売り上げにつなげたり、産地直売所で集めた売り上げの情報を農家も把握することで、品切れを防いだりすることが可能になる。

どちらも、POSレジで得た売り上げや売れる時刻の情報を、発注することに生かし、「必要なときに必要なだけ」商品を並べることに生かしているといえる。このように別の事例を扱うことで、コンビニエンスストアだけではなく販売業でどのような情報を、どのように活用しているかを理解できるようにする。

小売業向け店舗管理システムで、スムーズな在庫管理を実現



産地直売所の商品管理の課題を解決します



(NECプラットフォームズホームページ <https://www.necplatforms.co.jp/solution/retail/>より)

(4) 児童の学びを深める問題解決的な学習過程と「問い」の構成の工夫

本小単元では、学習指導要領や解説から、着目させたい視点や考える方法を抽出（【】で表現）し、その視点や方法が働くように促す追究の問いを設定し、学びのプロセスに即して構成を下記のように考えた。

学習問題を把握する問い	コンビニエンスストアは、消費者にどのように使われているのだろう。【情報通信技術】 コンビニエンスストアはどのように変わってきただろう。【販売業の変化】
単元の学習問題	コンビニエンスストアでは、売り上げをのばすために、どのような情報を集めて、どのように活用しているのだろう。
↓ 事実を追究し捉える問い	コンビニエンスストアでは、どんな情報を、どのように集めているのだろう。【多様で大量の情報】 店舗では、POSレジで集めた情報をどのように活用しているのだろう。【情報の種類や活用の仕方】 本部では、POSレジで集めた情報をどのように活用しているのだろう。【情報の種類や活用の仕方】
特色や意味を考える問い	コンビニエンスストア以外にも、POS情報を活用しているところはあるのだろうか。【販売業の変化】
社会との関わりを考える問い	情報や情報通信技術の活用によって、販売業はこれからどのように発展していくのだろう。【国民生活の向上や情報の適切な取り扱いに着目して考える】

4 小単元の指導計画と評価計画（9時間扱い）

	ねらい	○主な学習活動●評価の活動	◎資料□指導上の留意点【評価】
つかむ	アンケート調査や各種資料から、情報通信技術の発達と共に、コンビニエンスストアが発展してきたことに気づき、疑問をもつことができる。 ①	問：コンビニエンスストアは昔と比べてどのように変化したのだろう。 ○コンビニエンスストアの変化について調べる。 ・他の小売業に比べて、コンビニエンスストアの売り上げ高の上がり方が大きい。 ・チェーン店として、店舗数が増え、売り上げも上がった。「誰もが足を運ぶ店」になった。 問：コンビニAは、どうして売り上げをのばしてきたのだろう。 ○資料を読んで気付いたことをノートに書く。 ・店では、発注がちょうどよくできるようになった。 ・コンビニAの社長は、「高い商品でも売れる」という自信をもって商品開発をして、売り上げの機会を増やした。 ・どちらも、判断するための情報がポイントになっている。 ●コンビニエンスストアが売り上げをのばすための工夫と情報の関係に着目して疑問をノートに記入する。	◎コンビニエンスストアの利用に関するアンケートの結果 ◎グラフ「小売業の売り上げの変化」 ◎Tさんの話 ◎プライベートブランド商品の開発を指示した当時の社長さんの話 【知技①】情報通信技術の活用による販売業の変化について、資料から読み取り、理解している。(ノート) 【思考①】販売業の現状と情報の活用の仕方に着目して、問いを見だし表現している。(ノート)
	情報の種類や活用の仕方に着目して問いをもち、学習問題を設定することができる。 また、予想を話し合い学習計画を立てて追究の見通しをもつことができる。 ② (本時)	問：詳しく知りたいことや疑問を出し合い、学習問題をつくろう。 ○前時に書いた疑問を出し合って学習問題を設定する。 ・なぜ、「高くても売れる」と自信がもてたのかな？ ・店と本部がつながっているのでは？ ・情報を集めたり活用したりしているのではないかな？ コンビニエンスストアでは売り上げを伸ばすために、どのような情報を集めて、どのように活用しているのだろう。 ●学習問題について予想を記入して話し合う。 ・売り上げ情報を生かして、売れる商品を発注している。 ・どんな人が来店するか情報を集めて新商品を開発する。 ・店の人が調べるのではなくレジの情報を使っている。 ○調べることを確かめ合い学習計画を立てる。 ●学習を振り返って「学び方カード」に記入する。	◎グラフ「小売業の売り上げの変化」 □疑問を分類して学習問題について考えやすくする。 □情報の種類や活用の仕方について調べる見通しがもてるようにする。 【態度①】学習問題について予想し、調べることにについて見通しをもっている。(ノート・学び方カード)
調べる	POS レジでは、消費者の購買行動に関する情報を瞬時に収集していることを理解する。③	問：コンビニエンスストアでは、どんな情報を、どのように集めているのだろう。 ○POS レジやバーコードの仕組み、ポイントカードの仕組みについて調べ、話し合う。 ・バーコードには、商品の情報が含まれている。 ・ポイントカードには、消費者の情報が含まれている。 ・POSレジは、バーコードやポイントカードの情報を瞬時に読み取ってサーバーに送っている。サーバーでは、それを保存している。 ・POSレジでは、その他に売れた日時や和などの情報も集めている。 ●本時の問いについて調べて分かったことをノートにまとめる。	◎POSレジの写真 ◎バーコードやポイントカードに含まれる情報 □次時につなぐために、レジで集めた情報がどこにつながっているのかという問いを引き出しておく。 【知技①】バーコードやポイントカードから情報を読み取り、POSレジにより瞬時に集めた情報は本部に送られていることを理解している。(ノート)
	店舗では、集めた情報を活用して売り上げにつなげる工夫をしていることを理解する。④	問：店舗では、POS レジで集めた情報をどのように活用しているのだろう。 ○店舗で情報をどのように活用しているか調べ、話し合う。 ・昨年度の売り上げ情報と比べて、発注数を決めている。 ・本部からの情報も生かして、必要なものが必要なだけあるような発注を目指している。 ・発注するシステムがあることで作業効率が上がったたり、外国人でも仕事ができるようになってきたりした。 ●本時の問いについて調べて分かったことをノートにまとめる。	◎Tさんの発注についての話 ◎コンビニAでの情報の活用 □効率よい発注ができることに着目できるよう、本部からの情報の流れと店舗での活用をつなげて調べることができるようにする。 【知技①】店舗では、集めた情報を活用して売り上げにつなげる工夫をしていることを理解する。(ノート)

	本部では、多様で大量の情報を分析して、商品開発に生かし、情報を分析することで消費者のニーズに応えていることを理解している。⑤	問：本部では、POSレジで集めた情報をどのように活用しているのだろう。 ○多様で大量の情報を生かした本部の取組みについて調べる。 ・本部は、1つの店舗だけでは分からない販売の実態をつかんで、店舗に伝えている。 ・本部は、POSで集めた情報をもとに商品開発を進め、新たなサービスを生み出している。 ・POSレジで情報が瞬時に収集できることで、開発した商品が良いか悪いかの判断もすぐにできる。 ●本時の問いについて調べて分かったことをノートにまとめる。 ●学習を振り返って「学び方カード」に記入する。	◎POSシステムの関係図 ◎プライベートブランド商品の開発についての文章 【知技①】本部では、多様で大量の情報を分析して、商品開発に生かし、情報を分析することで消費者のニーズに応えていることを理解している。(ノート) 【態度①】学習計画を振り返るとともに、学習問題の追究のために、コンビニエンスストア以外の販売業の情報活用について調べる見通しをもっている。(学び方カード)
	衣料品店や飲食店等でも、情報の活用を通して無駄を減らしたり新たなサービスを生み出したりしていることから、販売業における情報活用の現状について考え表現している。⑥	問：コンビニ以外に、POS情報を活用しているところはあるのだろうか。そこでは、どのように活用しているだろうか。 ○雑貨店等のPOSレジ等の活用について調べる。 ・雑貨店でも、POSレジを活用して、在庫の管理をスムーズにして発注に生かしている。 ・飲食店では、来店者の種類や来店時間の情報を生かして、メニューの開発や働く人の配置に生かしている。 ●販売業での情報活用の現状について調べて分かったことをノートにまとめる。	◎雑貨店のレジと在庫管理の仕方 ◎飲食店でタブレット端末の活用についての文章 □コンビニエンスストアでの情報活用と似ているところに気付けるように指導する。 【思考①】コンビニエンスストア以外の販売業に目を向けて産業における情報活用の現状について考え表現している。(ノート)
ま と め る	学習問題について調べたことを関係図にまとめ、学習問題のまとめについて考えたことを関係図に表現する。 ⑦⑧	問：販売業は、情報をどのように活用しているのだろう。 ●調べたことを関係図にまとめる。 ・わたしたちの物を買う行動が、POSレジを通して情報になり、店舗や本部に届いている。 ・店舗や本部は、情報を活用することで新たなサービスを生み出し、私たちに届けている。 ・販売業は、情報を活用することで、発展してきた。 ●まとめた関係図を基に学習問題について考えたことを文章で関係図に追記して説明し合う。 販売業は、POSレジ等を通して、私たちの消費行動を情報として集めて活用することで、廃棄ロスを減らしたり、新たなサービスを生み出したりしてきた。それにより、私たちの生活はより便利になっている。	◎これまでの学習したノートや資料 □調べて分かったことを情報の収集・分析・活用の流れに沿って整理するとともに、その活用の結果が国民生活とどのように関連するかを考えて関係図にまとめる。 【思考②】情報化の進展に伴う産業の発展と国民生活の向上を関連付け、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。(関係図) 【知技②】調べたことを図表などにまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解している。(関係図)
い か す	映像資料をもとに情報通信技術の発展とわたしたちのくらしの関連に気付き、産業における情報の活用についての関心を深めることができる。 ⑨	問：情報や情報通信技術の活用によって、これからの販売業はどのように発展していくのだろう。 ○情報の活用や情報通信技術の発達による生活の変化に関わる映像を見て、暮らしやすくなることや問題になりそうなことを考えて話し合う。 ・消費者のニーズに合わせることで、無駄をなくし、資源を大切に使うことができる。 ・電気が止まってしまったとき、全てが使えなくなってしまう不安がある。 ・人間がすることをしっかりと考えていかななくてはならない。 ●関係図にこれから発展が予想されるサービスの向上や国民生活の向上について考え、関係図に追記する。 ●情報化の進展に伴って、販売業の発展だけでない様々な産業の発展が考えられることについて、関心をもってノートに考えをまとめる。	◎動画 Society 5.0 ◎動画 未来のコンビニ □情報産業の学習や情報モラル教室などで学習したこととも関連させて、考えることができるようにする。 □関係図を基に、情報を活用したサービスの向上と国民生活とを関連付けて考えるようにする。 【思考②】産業と国民の立場から多角的に産業の発展について考えている。 【態度①】学習したことを基に、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとしている。(ノート)

5 本時の指導（2／9時）

（1）本時のねらい

○情報の種類や活用の仕方に着目して問いを見出して学習問題を設定するとともに、学習問題を予想して、学習計画を立てることができる。

（2）本時の展開

	○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◎資料 □指導上の留意点 【評価】
導入 (3)	○前時に資料から読み取ったことを確認し、本時のねらいを確かめる。 学習問題をつくり、調べる計画を立てよう。	◎グラフ「小売業の売り上げの変化」 ◎Tさんの話 ◎A社オリジナル商品の開発を指示した当時の社長さんの話
みんなのタイム (17)	○前時に書いた疑問を発表し合う。 ・店の人は、どんな情報を判断材料にしたのか。 ・店の人は、忙しいのに、どうやって情報を集めているのか。 ・発注をちょうどよくするのは難しいのではないか。 ・開発した人は、どんな情報を得ていたのか。 ○詳しく知りたいことや疑問から、学習問題にまとめる。 【学習問題】コンビニエンスストアは、売り上げを伸ばすために、どのような情報を集めて、どのように活用しているのだろう。	□具体例を想像しながら、情報と関連付けられるように、補助発問をしたり、話し合いを整理して板書にまとめたりする。
自分タイム (7)	○学習問題の予想をノートに記入する。 ・店や本部では売り上げの情報を集めていると思う。 ・レジは、情報を集める役割をしているではないか。 ・誰がどんなものを買うのかを調べて、新商品を作る。 ・店と本部で協力して情報を集めていると思う。	□誰が、何の情報を集めて、何のために使っているかをという視点で考える。 【態度①】学習問題について予想している。（ノート）
みんなのタイム (10)	○学習問題を解決するために調べることを確かめ、学習計画を立てる。 1 コンビニエンスストアのレジでは何ができるのか。（レジの働き） 2 店の人がどのように情報を活用しているか。（廃棄ロス減らすための活用） 3 会社の本部の人がどのように情報を活用しているか。（商品開発のための活用・店との協力）	□自動車工業の学習計画を想起して計画を立てやすくなるようにする。 □コンビニエンスストアといっても、店と本部で立場の違いがあることや、活用の目的のチャンスロス、廃棄ロス減らす、商品開発をするということに着目して、計画を立てられるようにする。
振り返りタイム (8)	○学習計画を振り返り、これからの学習に見通しがもっているか、自分の学び方についてカードに記入する。 ・「情報」というキーワードに気を付けて、気付いたことや疑問が書けた。 ・教科書や地図帳にはあまり資料がないから、どうやって調べていくか難しそうだ。	□学び方カードを活用して、「つかむ」段階での学び方を自己評価するとともに、これから調べる活動の見通しについても記入するよう促す。 【態度①】学習計画を振り返って、これから調べることについて見通しをもっている。（ノート・学び方カード）

（3）本時の板書計画

12月11日（水）情報を活用する販売業

学習問題をつくり、調べる計画を立てよう。

コンビニエンスストアでは、いろいろな情報を活用して、売り上げを伸ばしている

<疑問>

- ・いろいろな情報とは何か？
- ・判断材料とは何か？
- ・情報と情報のつながりはあるか？
- ・経験をどういかすか？

<学習問題>

コンビニエンスストアでは、売り上げを伸ばすために、どんな情報をどのように活用しているのだろう。

<予想>

どんな情報

- ・売り上げデータ → 注文（お店）
- ・天気予報 → 注文（お店）
- ・イベント → 注文・置き方を工夫する（お店）
- ・お客さんのデータ → 新商品をつくる（本部）

どのように活用

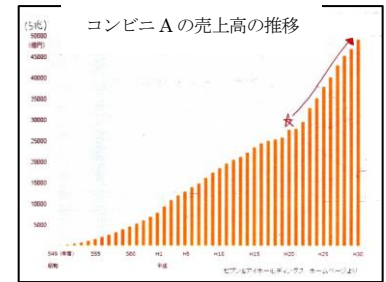
<学習計画>

- 1 どんな情報
- 2 店員さんの使い方
- 3 会社での使い方

6 実践事例の成果と課題

(1) 社会的事象の見方・考え方を働かせることができる教材開発

○本実践では、販売業の発展とは、「売り上げが伸びる」ことであり、そのための手段としての販売業の仕事が「消費者のニーズに応じて新たなサービスを生み出すこと」と捉えて教材を開発した。グラフを提示し、売り上げが伸びている変化の様子や事実から、その背景にある情報の活用に着目し、問いを見出していくことができた。



写真：レジの開発会社の方から学ぶ



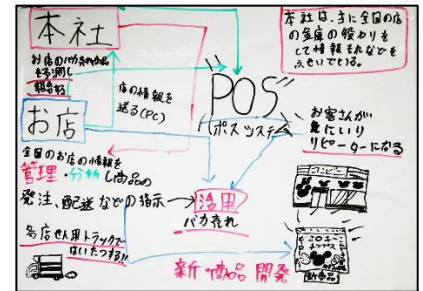
(2) 学習問題を協働的に追究して学びを深める学習活動の工夫

○児童は、予想の場面で「レジに秘密があると思うけれど、レジの裏側までは分からない」と述べていた。そこで、「調べる」段階で、POSレジの開発会社の方から話を聞き取る活動を設定した。レジを通した情報の収集について詳しく知る機会となった。また、追究の視点をコンビニエンスストアから販売業全体に広げることができたと同時に、更なる情報の発展に関心をもつ児童もいた。

○まとめる段階では、児童一人一人がまとめる前に、グループで関係図を作り話し合う活動を取り入れた。それぞれが考える情報活用の流れを共有することで、「情報の管理・分析」「消費者のニーズを予測」といったキーワードを見出すことができた。

●児童の生活経験を話し合うことで、学習対象が児童にとって身近なものになっていった。「つかむ」段階では、資料の読み取りだけでなく、児童の生活経験からの予想を話し合う活動を効果的に計画することが有効である。

班ごとに作成した関係図



(3) 児童の学びが深まる問題解決的な学習過程と「問い」の構成の工夫

○事実を追究し捉える問いに対しては、工業で学習した「ニーズ」や「ジャストインタイム」などと共を見出しながら学習を進めることができた。

●事実を追究し捉える問いの構成は、「発注のロスを減らすために」や「新商品の開発につなげるために」など、目的に合わせて構成するほうが、より情報の活用と私たちの生活の向上の理解につながれたと考えられる。

B児の関係図



(4) 児童の学習状況についての評価方法の工夫

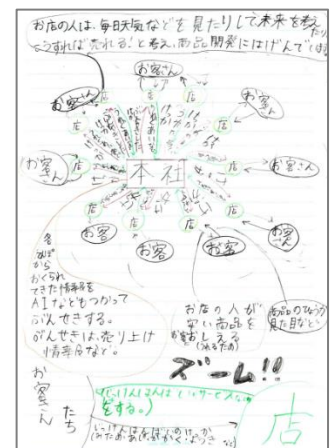
○「販売業が情報を効果的に集め、分析することで消費者のニーズを把握し、それに応える販売につなげていること」を理解しているか（知識・技能②）を評価するために、関係図にまとめて文章に表現する活動を行った。個人の活動の前に、学級でキーワードを確認し、それが含まれているかを評価の判断材料とした。

【A児の記述】 まとめを図でかくと情報の関係性がよく分かった。POSシステムがあるから、店が売れる物を見付けられるのだと思いました。

●思考・判断・表現②の評価は、関連図や記述の中に、「情報を分析→消費者のニーズを予測→新たなサービスを実行」という関係が表現されるかを判断材料としたが、多様な表現をどこまで許容するか、判断が難しかった。

○学び方カードの活用によって、「つまり」「例えば」など事実を関連付ける言葉を意識して学習に取り組もうとする児童が増えた。

C児の関係図



第6学年 社会科学学習指導案

指導者 6年2組 木月 康二

1 小単元名 「長く続いた戦争と新しい日本の国づくり」(13時間)

2 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

○戦前と戦後の歴史的事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、戦争の広がりや日本の復興を世界地図や写真などの資料で調べ、年表などにまとめ、戦前と戦後の我が国の変化の様子や歴史を学ぶ意味を考え表現することを通して、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解している。

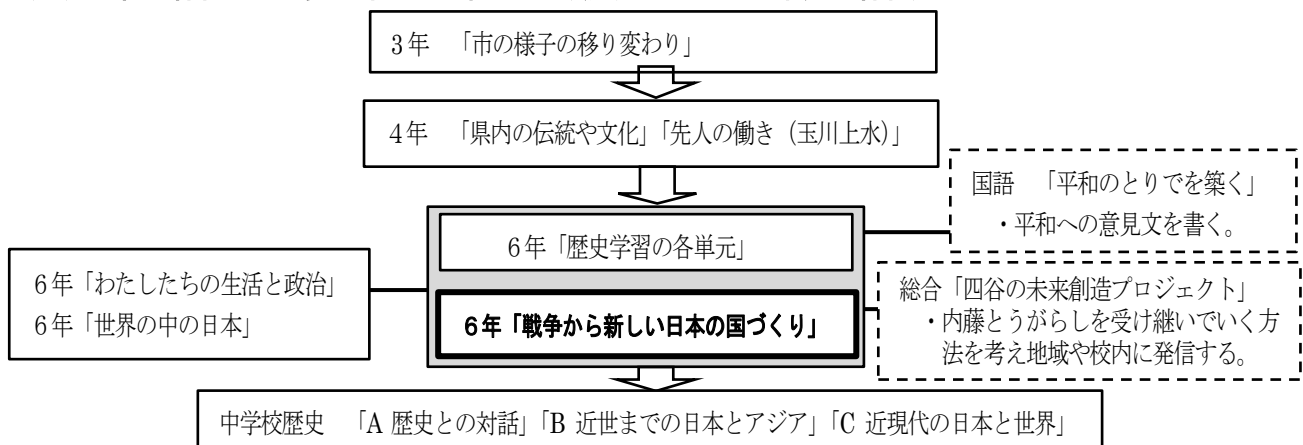
○戦前と戦後の歴史的事象について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとする態度を養うとともに、歴史から学んだことをどのように生かしていくかなど国家及び社会の発展を考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して問いを見だし、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などについて考え表現している。 ②日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを関連付けたり総合したりして、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことや、我が国が国際社会において果たしてきた役割を考えたり、学習してきたことを基に、歴史を学ぶ意味について考えたりして、適切に表現している。	①日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などについて、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習してきたことを基に過去の出来事と今日の自分たちの生活や社会との関連や、歴史から学んだことをどのように生かしていくかなど国家及び社会の発展を考えようとしている。

3 小単元について

(1) 内容の枠組みから見た単元の位置付け〔歴史と人々の生活〕の枠組



(2) 指導内容の構造

学習指導要領 第6学年内容 (1)

アの(サ)：日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解すること。

イの(ア)：世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

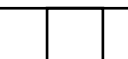
<出会い>

3つの国立競技場の写真(学徒動員、1964年、2019年)や新宿駅前の様子の写真を見て、戦前のくらしや復興と新しい国づくりに関心をもつ。



<学習問題>

戦争によって、日本はどのように変わっていったのだろうか。



活動：学習したことを世界地図や年表と関連付けながら学習問題を振り返り、自分の考えをまとめる。

知識：戦後我が国は、民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきた。

資料：これまでの資料



問い：私たちが学んだ日本の歴史は、今の社会とどのようにつながっているのだろうか。 【関連付け】

活動：これまで学習したことと今の社会とのつながりについて話し合い、歴史を学習する意味をまとめる。

問い：これからの日本は、どのような国を目指していったらよいのだろうか。 【発展】

活動：年表の未来に目を向け、これからの日本についてカードに整理し説明し合う。

資料：これまでの資料、ノート、世界地図
大震災からの復興の状況
領土問題 人権問題
社会保障問題



<社会との関わり>

日本の歴史を学習して、今の私たちの生活は、生活や文化でのつながり、政治でのつながり、外国との関係でのつながり、人の願いや努力でのつながりを通して過去とつながっていることが分かった。私たちは、未来の日本にくらす一人として、過去からのつながりを大切にして、今ある課題を解決してよりよい日本を創っていく必要がある。

問い：どのような戦争だったのだろうか。

【戦争の広がり】

知識：我が国の不況の打開や満州での權益を守るために、中国や太平洋に戦場を広げ、諸外国の人々に大きな被害を与えたことや、日本でも多くの人々が犠牲になって終戦を迎えた。

資料：写真：戦争の様子
資料：世界地図

問い：戦時中、人々はどのような生活をしていただろう。

【戦時中の人々のくらし】

知識：空襲による被害で、兵士以外にも多くの国民が日本各地で犠牲になり、苦しい生活をしていただろう。

資料：写真：空襲の様子
戦時中の生活
資料：世界地図

問い：日本は、どのようにして国際社会に復帰したのだろうか。

【世界とのかかわり】

知識：日本は、国際連合へ加盟したことで、国際社会へ復帰したことや東京オリンピックの開催が契機となり、さらなる高度経済成長を遂げたが、産業の発展とともに公害などの様々な環境問題が起こった。

資料：写真：サンフランシスコ平和条約調印
日米安全保障条約
国際連合への加盟
朝鮮戦争
東京オリンピック 世界地図
公害問題

問い：日本はどのような国家を目指して、再出発したのだろうか。

【国の政治の仕組み】

知識：我が国は、日本国憲法を始めとする戦後の改革を行い、平和で民主的な国家を目指して再出発した。

資料：日本国憲法の3つの原則
戦後改革
男女平等、普通選挙の実施
農地改革、財閥解体

(3) 本小単元の教材について

本小単元は、小学校の歴史学習のまとめとなる単元である。これまでに児童は、人物の働きや代表的な文化遺産を中心として学習してきたが、本小単元では、日本が第二次世界大戦を行い、戦争後に民主的な国家となった経緯と、それに伴った国民生活の変化を学習する単元構成としている。

教科書（東京書籍）では、「11 長く続いた戦争と人々の暮らし」と「12 新しい日本、平和な日本へ」の2つの小単元で構成されている。戦争を表面的に扱うのではなく、戦後の復興の様子と合わせて学習を進めることで、戦争の及ぼす影響の大きさを理解できるようにすることをねらって、上記のような単元構成とした。また、第3学年「新宿区の移りかわり」では、戦後新宿区が生まれてから現在までの様子の移りかわりを学習している。第3学年においても新宿区ができたところから現在までの長いスパンの学習をすることになっていることから、第6学年の歴史においても、戦争の頃と戦後の復興を続けて1つの単元で構成することは十分可能であると考えた。

学習問題の設定にあたっては、児童にとって変化をとらえやすい新宿駅前や国立競技場の写真を資料として扱い、関心を高める。そして、当時の国民生活を想起させながら、戦争の広がりや終結、政治の理念と国民の不断の努力、国家が発展していく様子について調べる学習計画を立てる。また、「調べる」段階では、東京オリンピック当時の様子等について世界地図を活用することで、広く世界の国々から日本に来ていることなど他国とのつながりを意識しながら、これからの社会に生かしていこうという気持ちをもてるよう学習を展開していく。

【新宿駅前の移り変わり】（戦争で焼け野原になった頃～現在の様子）



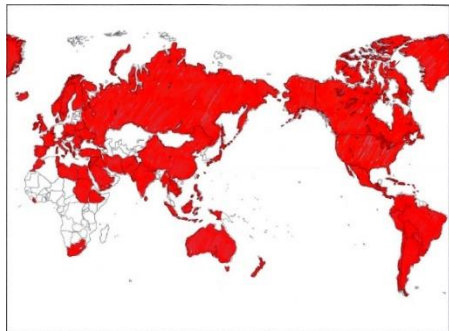
【国立競技場の移り変わり】（戦争中～1964年東京オリンピック～新しくなった国立競技場）



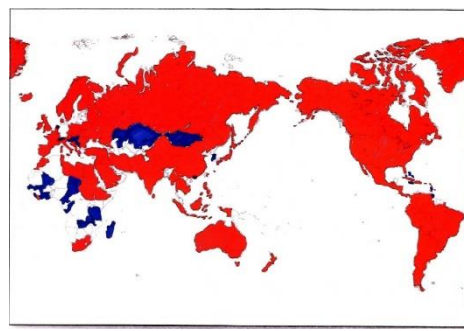
【国連加盟の新聞記事】



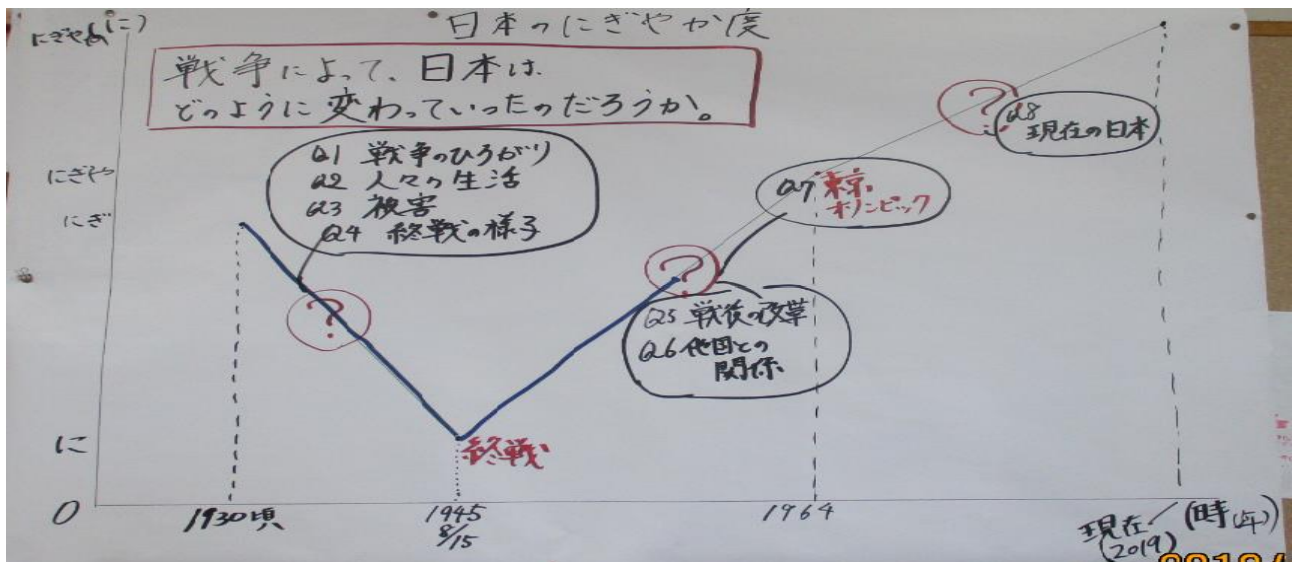
【オリンピック参加国の変化が分かる世界地図】



▲ 1964年 オリンピック参加国

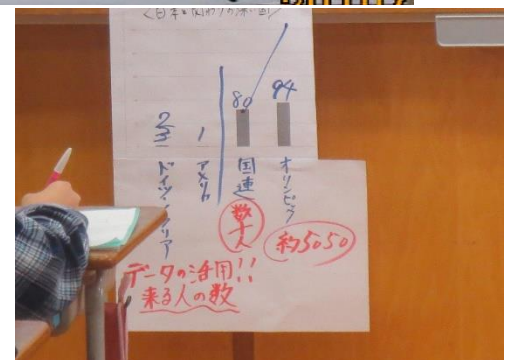


▲ 2020年 オリンピック参加国



▲ 学級で話し合った日本の様子の変化

日本と世界の関係を色分けした世界地図や、国立競技場の年別の写真や年表をもとに「日本のにぎやか度グラフ」作成した。それぞれの年代の様子の発展の様子について話し合い折れ線グラフに表現することで、戦争が及ぼす影響の大きさについて、言葉だけでなく視覚的にも捉えることができるのではないかと考えた。



▲ 日本と関わる他国の人数

(4) 児童の学びが深める問題解決的な学習過程と「問い」の構成の工夫

本小単元では、学習指導要領や解説から、着目させたい視点や考える方法を抽出（【】で表現）し、その視点や方法が働くように促す追究の問いを設定し、学びのプロセスに即して構成を下記のように考えた。

学習問題を把握する問い	新宿のまちは、どのように変化したのだろうか。【新宿区のまちな様子】
学習問題	戦争によって、日本はどのように変わっていったのだろうか。
↓ 事実を追究し捉える問い	日中戦争とは、どのような戦争だったのだろうか。【戦争の様子】 戦争は、どのように広がっていったのだろうか。【世界の広がり】 戦争中の人々はどのような生活をしていたのだろうか。【戦時中の様子】 日本は、どのような被害を受けたのだろうか。【日本の被害の様子】 戦争はどのようにして終わったのだろうか。【日本の被害の様子】
特色や意味を考える問い	戦争によって日本はどのように変わったのだろうか。【関連付け】
↓ 事実を追究し捉える問い	戦後の日本は、どのような改革が行われたのだろうか。【政治の仕組】 日本はどのようにして世界の仲間に戻ったのだろうか。【外国との関わり】 オリンピックが開かれ、日本はどのように発展していったのだろうか。【国民生活の向上】
特色や意味を考える問い	歴史で学んだことは今の社会とどのようにつながっているのだろうか。【関連付け】
社会との関わりを考える問い	これからの日本はどのような国を目指していったらよいのだろうか。【発展】

4 小単元の指導計画と評価計画 (13時間扱い)

	ねらい	○主な学習活動 ●評価の活動 問 問い ・児童の反応	◎資料 □指導上の留意点 【評価】
つかむ	新宿のまちの変化について話し合うことを通して、長く続いた戦争が日本や外国に与えた影響に関する学習問題をつくり、予想や学習計画を立てる。 ①	問：新宿のまちはどのように変化したのだろう。 ○資料を見て分かったことを話し合う。 ・建物が破壊されている。 ・被害がかなり大きい。 ・発展している。 ○長く続いた戦争の影響について考える。 ・外国も大きな被害を受けたのではないか。 ・東京オリンピックの頃には、発展している。 ●資料から疑問に思ったことをノートに記入する。	◎新宿通りや国立競技場の写真 (学徒動員、東京オリンピック 1964) □写真を並べて提示することで、その変化に気付けるようにする。 【思判表①】長く続いた戦争が日本や外国にどのような影響を与えたのかと日本の復興や国際復帰について疑問をもっている。 (発言、ノート)
		戦争によって、日本はどのように変わっていったのだろうか。 ○学習計画を立てる。 ・戦争の広がりと終わりについて調べる。 ・戦後の復興の様子について調べる。 ●学習計画を基に、学習の見通しをもてたか振り返り、カードに記述する。	【態度①】戦前と戦後の歴史的事実について、予想や学習計画を立て、学習問題を追究し、解決しようとしている。(振り返りカード)
調べ調べる	我が国が不況の打開や満州での権益を守るために戦場を中国各地に広げ、中国の人々に大きな被害を与えたことを理解する。②	問：日中戦争とは、どのような戦争だったのだろう。 ○資料を見て分かったことを話し合う。 ・満州での権益を守りたかった。 ・中国各地に広がっている。 ○戦争についてまとめる。 ・日本が中国で行った戦争は、権益を守るという背景があり、中国各地へと拡大させ、中国の人々にも大きな影響を与えた。 ●日中戦争についてノートに記入する。	◎年表、世界地図 (東アジアに着目) □日中戦争について資料を通して調べ、読み取り、学級で確かめることができるようにする。 【知技①】地図や年表、その他の資料を活用して、必要な情報を読み取り、中国との戦争がどのような戦争だったのかについて理解している。 (発言、ノート)
	第二次世界大戦に関わる各種資料を活用し、日本の戦争の広がりについて調べ、理解する。③	問：戦争は、どのようにして広がったのだろう。 ○資料を見て分かったことを話し合う。 ・太平洋と東南アジアの広い地域に日本軍が広がっている。 ・国民は政府の言葉を信じて、戦争に協力していた。 ●太平洋戦争についてノートに記入する。	◎世界の年表、世界地図 (アジア・ヨーロッパに着目) 【知技①】戦場となったアジア、太平洋の地域の地図やそのほかの資料を活用して、必要な情報を読み取り、日本の戦争の広がりについて理解している。 (発言、ノート)
	戦時中の生活の様子について、資料を活用して調べ、まとめ、理解する。④	問：戦時中の人々はどのような生活をしていただろう。 ○資料を見て分かったことを話し合う。 ・いろいろな物やお金が制限された。 ・たくさんの人が戦争に行ったり、戦争のために働いたりしていた。 ●戦時中の生活についてノートに記入する。	◎戦時中の生活の様子 □戦時中の様子について資料を通して調べ、学級で確かめることができるようにする。 【知技①】戦時中の生活の様子について、資料を活用して調べたことを整理し、ノートにまとめ、戦時中の生活の苦労について理解している。(ノート)
	空襲による被害で、兵士以外にも多くの国民が日本各地で犠牲になったことを理解する。⑤	問：日本は、どのような被害を受けたのだろう。 ○資料を見て分かったことを話し合う。 ・自分たちの都道府県も空襲の被害を受けている。 ・兵士だけでなく、多くの国民が直接戦争に巻き込まれるようになった。 ●空襲の被害についてノートに記入する。	◎空襲の様子、東京大空襲後の写真 日本地図 (被害が大きい都市に着目) 【知技①】空襲の被害の資料を読み取り、戦時体制が強化される一方、本土が空襲されるようになり、国民が大きな被害を受けたことを理解している。(ノート)
	沖縄戦、広島と長崎への原爆の投下により、多くの人々が犠牲になって敗戦を迎えたことを理解する。⑥	問：戦争は、どのようにして終わったのだろう。 ○資料を見て分かったことを話し合う。 ・沖縄では、朝も夜も関係なく、逃げ場さえなかった。 ・原爆直後だけでなく、何年にもわたって被害が出ている。 ●終戦の様子についてノートに記入する。	◎1945年の主な出来事 世界地図 (東南アジアに着目) 【知技①】戦争によって、国民が大きな被害を受けたことや、戦場になったアジアや太平洋地域に大きな損害を与えたことを理解している。(ノート)
まとめる	学習問題を振り返り、学習全体を通じた戦争に対する自分の考えを表現する。⑦	問：戦争によって日本はどのように変わったのだろう。 ○学習の記録を見て分かったことを話し合う。 ・戦争は、悲惨なものだった。平和を築いていく強い心もちたい。 ●自分の考えをノートに記入する。 ●戦後の日本の様子について調べることを見直し、学習の見通しをもてたか振り返りカードに記述する。	◎①～⑥の資料 【思判表②】調べたことを関連付けて、戦争が国民生活に及ぼす影響について考え表現している。 【態度①】学習したことを振り返り、戦後の日本について調べる学習計画を見直している。(振り返りカード)

調 べ る	各種の資料から、我が国が民主的な改革と平和主義をうたう日本国憲法を制定することにより、新しい国として出発したことを理解する。⑧	問：戦後の日本は、どのような改革が行われたのだろう。 ○資料を見て分かったことを話し合う。 ・軍隊が解散した。 ・教育制度が変わった。 ○日本国憲法についてまとめる。 ●戦後の改革についてノートに記入する。	◎1945～1947年の年表 □戦後の改革について年表を中心に調べ、読み取り、学級で確かめることができるようにする。 【知技①】資料から必要な情報を読み取り、戦後の諸改革や日本国憲法の制定について理解している。 (発言、ノート)
	朝鮮戦争や東西の対立など、国際社会の動きの中で、日本の独立が承認され、復興を願う国民の努力によって産業が発展したことを理解する。⑨	問：日本は、どのようにして世界の仲間に戻ったのだろう。 ○資料を見て分かったことを話し合う。 ・平和条約を結んだ。 ・国際連合に加盟した。 ●日本の国際復帰についてノートに記入する。	◎世界地図 (平和条約締結国、国際連合加盟国に着目) □国際連合復帰までの取組について資料を通して調べ、読み取り、学級で確かめることができるようにする。 【知技①】資料から必要な情報を読み取り、日本の国際社会への復帰や産業の復興について理解している。 (発言、ノート)
	オリンピックの開催が契機になり、国際社会に認められるとともに、さらに経済が発展し、国民の生活が向上したことを理解する。⑩ (本時)	問：オリンピックが開かれ、日本はどのように発展したのだろう。 ○資料を見て分かったことを話し合う。 ・新幹線や道路やその他の施設が整備された。 ・産業が急速に発展した。 ●オリンピックをきっかけに国民生活が向上したことについてノートに記入する。	◎オリンピックの様子 ◎オリンピック時の国民の生活の様子 ◎世界地図(オリンピック参加国、国民総生産額上位国 OECD 加盟国に着目) □資料を関連させながらまとめることで、オリンピックによる国民生活の向上について理解できるようにする。 【知技①】資料から必要な情報を読み取り、東京オリンピックの開催や産業の発展について理解している。 (ノート・振り返りカード)
ま と め る	戦後、平和主義を貫いてきた日本の歩みを踏まえ、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解する。⑪	問：学習した内容から考えられることは何だろう。 ○資料を見て分かったことを話し合う。 ・東京オリンピックの開催が大きなきっかけになった。 ・国民のみんなが努力を続けた。 ●自分の考えについてノートに記入する。	◎⑧～⑬の資料 【思判表②】学習してきた内容を関連付けたり総合したりして、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことを考え表現している。 【知技②】資料から必要な情報を読み取り、戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解している。 (発言、ノート)
	我が国の歴史の学習を振り返り、現在の社会とのつながりに着目して歴史を学ぶ意味を考え、表現する。⑫	問：歴史で学んだことは今の社会とどのようにつながっているのだろう。 ○学習の記録を見て分かったことを話し合う。 ・人物の影響で社会が大きく変化する。 ・文化遺産には、それぞれの時代の背景とつくられた理由がある。 ・歴史で学んだことは、これから生きていくためのヒントになる。 ●自分の考えをノートに記入する。	◎世界地図(紛争、領土問題に着目) □これまでのノートを振り返り、まとめることで、歴史と現在の社会がつながっていることを確認できるようにする。 【思判表②】これまでに学んできたことの意味を現在の社会と関連付けて考えている。 (発言、ノート・振り返りカードD)
い か す	現在の日本が抱える問題や国際社会での課題、日本が果たすべき役割について考え、平和で民主的な日本の一員として世界の人々とともに生きていくことの大切さを表現する。⑬	問：これからの日本はどのような国を目指していったらよいのだろう。 ○資料を見て分かったことを話し合う。 ・日本国内や日本と外国の関係にも様々な問題がある。 ・地球温暖化の問題や、内紛や紛争が起こっている国もある。 ●自分の考えについてノートに記入する。	◎これまでのノート □これまでのノートを振り返り、日本国内だけでなく、諸外国との関係や世界でも様々な問題があることを捉えられるようにする。 【態度②】よりよい日本の歴史をつくっていく一人として、歴史の学習を生かして、これからの日本の発展について考えようとしている。(振り返りカード)

5 本時の指導（11／13時）

（1）本時のねらい

○オリンピックの開催が契機となって国際社会に認められたり、さらに経済が発展することで国民の生活が向上したりしたことを理解できるようにする。

（2）本時の展開

	○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◎資料 □指導上の留意点 【評価】
導入 (5)	○前時の学習を振り返る。 ・ 国際社会に復帰した。 ・ 国際連合へ加盟した。 ○世界地図を見て、オリンピックに対する関心を高める。 ・ 国連加盟国よりも、参加国は多い。 本時の問い：東京オリンピックが開かれ、日本はどのように発展したのだろうか。	◎世界地図 (国連加盟国、オリンピック参加国) ◎教科書 P148 (オリンピック開会式の様子、オリンピックを観戦した人の話)
自分 タイム (7)	○東京オリンピックが開かれた頃の国民生活の変化について、資料をもとに調べる。	◎教科書 P148, 149 (新幹線、高速道路、コンビナート、万国博覧会、高層ビル、公害、年表)
みんな な タイム ー (10)	○東京オリンピックが開かれ、日本がどのように発展したのか話し合う。	◎教科書 P148, 149 (新幹線、高速道路、コンビナート、万国博覧会、高層ビル、公害、年表)
みんな な タイム ＝ (15)	○この頃の国民の願いや思いについて話し合う。 (個人5分→グループ5分→斉5分)	◎教科書 P148 (オリンピックを観戦したAさんの話)
振り返り タイム (8)	○問いについてのまとめをノートに書く。 東京オリンピックの開催は、国民に自信を与えるとともに、産業をさらに発展させるきっかけとなった。その後の日本は、経済の高度成長を続けたが、その陰で、公害などの環境問題が起こった。 ○今日の学習を通してできるようになったことや次の時間のめあてなどを記入する。	□資料を比較することで、国民生活の向上と経済の発展をとらえられるようにする。 ◎教科書 P148 (オリンピックを観戦したAさんの話) □オリンピック開催前と後の人物を想定することで、具体的に考えられるようにする。 【知・技】オリンピックの開催が契機になり、国際社会に認められるとともに、さらに経済が発展し、国民の生活が向上したことを理解している。 (ノート・発言) □学び方シートを活用し、自己の学びを振り返られるようにする。

（3）本時の板書計画

東京オリンピックが開かれ、日本はどのように発展したのだろうか。

(投影)

世界地図
年表
その他、資料

・ 関係している国が増えている。

〈みんなタイム〉

オリンピック前

東京
オリンピック
写真

オリンピック後

- ・ ホテルの建設
- ・ 道路、下水道の整備
- ・ 新幹線の移動

- ・ テレビや自動車の普及
- ・ 国民総生産、世界第2位
- ・ 公害問題

オリンピック
を観戦した人
の話

【思いや願い】

- ・ 復興の実感
- ・ 自分の国に対する自信
- ・ 世界とのさらなるかわり

〈振り返りタイム〉

○今日分かったこと
→ノートへ

○学習のすめ方
→学び方カードへ

6 実践事例の成果と課題

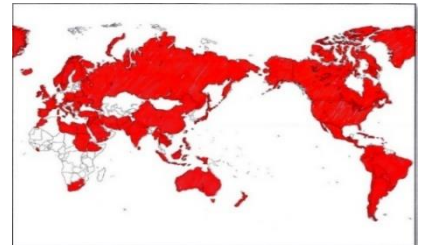
(1) 社会的事象の見方・考え方を働かせることができる教材開発

○戦前と戦中から戦後の復興と現在への変化を連続して捉えさせた。自分たちのくらす新宿区の様子や区内にある国立競技場の様子を時期ごとに比較できるよう写真をICTで提示したことで、戦争の前と後の違いの大きさに着目して、その変化を調べようとする見通しと意欲が高まった。

○戦後の国際社会への復帰については、戦後すぐの国内の様子と国連加盟後の1964年の東京オリンピック参加国の増加の様子を世界地図で比較できるようにした。世界地図を活用することで、世界とのつながりに着目して、日本が国際社会に復帰して、東京オリンピックを開催するまでになったことを捉えることができた。我が国の歴史事象を外国とのつながりから捉えさせる時には、歴史世界地図を活用することが有効な手立てとなることが分かった。



【終戦時の新宿駅前の写真】



【オリンピック参加国の世界地図】

(2) 学習問題を協働的に追究して学びを深める学習活動の工夫

○自分タイムでしっかり調べ、みんなタイムⅠでは、グループで資料をもとにして分かったことを確かめ合い知識を確かにする。その上で、みんなタイムⅡでは、オリンピックを観戦したAさんの話から当時の国民の願いを予想して付箋に書き、その付箋をグループで貼り合せて考えを比較・分類することで、オリンピックの開催が当時の社会において大きな意味があったことについて理解を深めることができた。考えを深めるためのツールを活用することが有効であることが分かった。

●協働的な場面を意図的に設定し、児童一人一人が友達と考えを共有し、自分の考えを発信できるようにする必要がある。



【グループで考えを伝え合う様子】

(3) 児童の学びが深まる問題解決的な学習過程と「問い」の構成の工夫

○戦前と戦後を通して「日本はどう変わったのか」を追究する際には、日本のにぎやか度グラフで視覚的に表すことで、問いを追究する目的意識が明確になり「どのような改革が行われたのか」「どのようにして世界の仲間にもどったのか」「どのように発展したのか」と戦後の変化を継続的に追究することができた。

●戦争は大きな出来事であり時間をかけて扱う傾向があるが、学習指導要領の内容からすると、戦後の復興により時間をかけて日本の戦後の発展や日本の将来を考えられるような時間配分にできるとよかった。



【日本のにぎやか度グラフ】

(4) 児童の学習状況についての評価方法の工夫

○歴史学習全体を振り返り、それぞれの事象が今の社会のどのようなことにつながっているかを考え合い、年表に線でつなぐ学習活動に取り組み、歴史を学ぶ意味を感じることができるよう工夫した。その学習をもとに日本の将来を考え、個人で記述させた。歴史単元の最後に、歴史学習を振り返り未来に目を向けさせたことで、歴史を学ぶ意味を感じ、日本の発展への希望を表出させることができた。

【児童のノートから】歴史を学ぶことで、過去の出来事が現在の社会に生かされていることが多くあることが分かった。日本はオリンピックを通してさらに発展していくと思う。



【ノートに振り返りを記入する児童】

第6学年 社会科学学習指導案

指導者 6年1組 瀧上 悠太

1 小単元名 「わたしたちの暮らしと日本国憲法」(12時間)

2 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

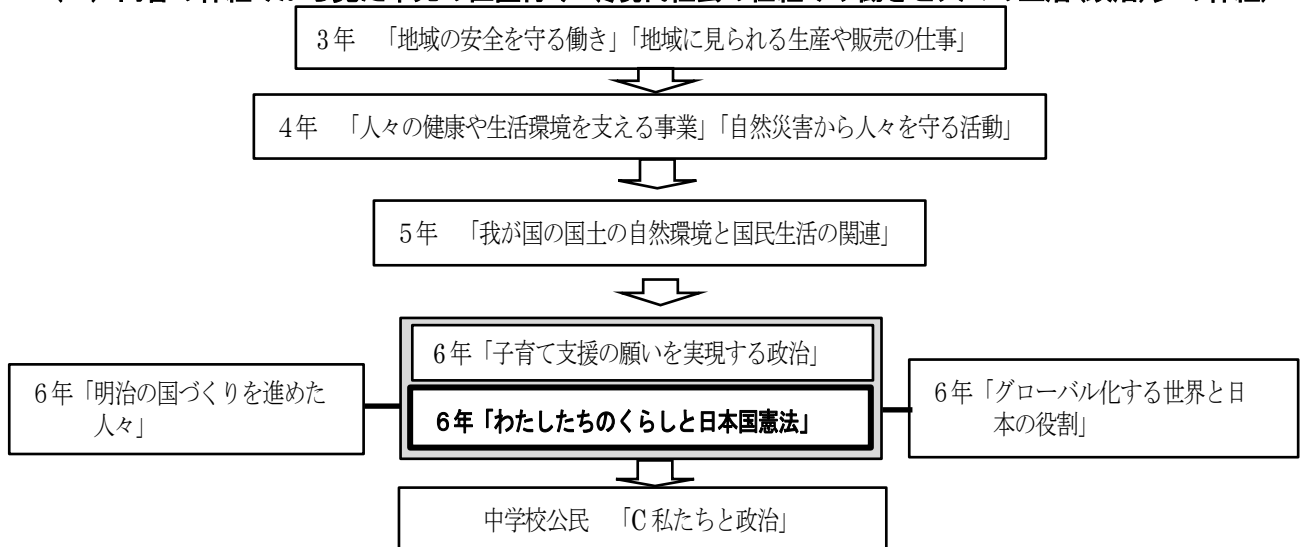
- 我が国の政治の働きについて、日本国憲法の基本的な考え方に着目して、調査したり各種資料を活用したりして調べてまとめ、日本国憲法が国民生活に果たす役割や、国会、内閣、裁判と国民との関わりを考え、国家の理想や天皇の地位、国民の権利義務など国家や国民生活の基本を定めていること、我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていること、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解できるようにする。
- 日本国憲法に関心をもち、学習問題を主体的に追究・解決するとともに、国民としての政治への関わり方について多角的に考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日本国憲法の働きについて、聞き取り長や各種資料を活用して調べ、必要な情報を集め、読み取り、我が国の民主政治を理解する。 ②調査や各種資料で調べたことを図表にまとめ、国家の理想や天皇の地位、国民の権利義務など国家や国民生活の基本を定めていること、我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていること、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解している。	①日本国憲法の基本的な考え方に着目して、問いを見出し我が国の民主政治について考えている。 ②日本国憲法の基本的な考えと国民生活を関連付けて、その特色や役割を考え、政治への関わり方を多角的に考え表現している。	①日本国憲法の働きについて、主体的に学習問題を追究・解決しようとしている。 ②学習したことを基に、国民としての政治の関わりについて考えようとしている。

3 小単元について

(1) 内容の枠組みから見た単元の位置付け〔〔現代社会の仕組みや働きと人々の生活(政治)〕の枠組〕



(2) 指導内容の構造

学習指導要領 第6学年内容(1)

アの(ア)：日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考えに基づいていることを理解するとともに、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解すること。

イの(ア)：基本的な考え方に着目して、我が国の民主政治を捉え、日本国憲法が国民生活に果たす役割や、国会、内閣、裁判所と国民との関わりを考え、表現すること。

<出会い>

NHKforSchoolの「日本国憲法と教科書」の動画を見て、日本国憲法について関心をもつ。

<出会い>

ユニバーサルデザインの写真を見て、日本国憲法について関心をもつ。

<学習問題>

豊かなくらしを実現するために、日本国憲法がどのような働きをしているだろう。

問い：日本国憲法の基本的な考え方は、どのようなものだろう。

【日本国憲法の基本的な考え】

知識：日本国憲法には、3つの原則があり、我が国の民主政治は、日本国憲法の基本理念である国民主権の考えと深く関わっている。

資料：日本国憲法の三原則の図
：区法や区のホームページ
：国民の権利の図
：国民の義務の図
：平和に関する資料
：国民の祝日

問い：調べたことを関連図にまとめよう。

【関連付け】

活動：調べたことを写真や図と関連付けながら学習問題を振り返り関連図にまとめ、日本国憲法の基本的な考えと国民生活を関連付け考えたことを表現する。

知識：国家の理想や天皇の地位、国民の権利義務など国家や国民生活の基本を定めていること、我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考えに基づいていること、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解し、国民生活つながっていることを理解する。

問い：国会、内閣、裁判所は、どのような役割を果たしているだろう。

【三権の役割】

知識：我が国の政治には、国会に立法、内閣に行政、裁判所に司法という三権があり、それらは相互に関連し合っている。

資料：写真：国会や選挙の様子
：国会のしくみ
：内閣のしくみ
：裁判のしくみ三権分立の関係を示す図

問い：新宿区では、国民主権はどのように反映されているのだろう。

【関連付け】

活動：模擬選挙体験を行ったり選挙管理委員会の方の話を聞いたり、新宿区内で国民主権が反映されている様子について調べたことを基に、政治と国民生活を関連付けて考え、その実現状況について話し合う。

知識：新宿区では、選挙の他にも、国民主権に基づいた政治の取組が様々に進められていて、区民の願いが政治に届くようになっている。

<社会との関わり>

問い：豊かなくらしを実現するために、わたしたちはどのように政治とつながっていくとよいのだろう。

豊かなくらしを実現するためには、国民主権の考えの基に整えられた政治への参画の機会を活用していくことが大切であり、将来大人になってからできる関わり方と今でもできる関わり方について考え、身近な政治に関心をもって関わろうとしていく。

(3) 本小単元の教材について

本小単元は、大単元「わたしたちの生活と政治」の中にあり、「子育て支援の願いを実現する政治」「国の政治のしくみ」に続く3つ目の小単元である。「子育て支援の願いを実現する政治」では、子育て支援施設がどのようにして完成したのかを調べることを通して、住民の願いを実現するために政治の働きが大きく関わっていることや、選挙を通して国民は政治に参画しているということを学習してきた。「国の政治のしくみ」では、日本国憲法の基本的な考え方について学習するとともに、国会や内閣、裁判所の働きについて調べるとともに、三権分立の考え方についても学習を行う。

本小単元では、「国の政治のしくみ」と「わたしたちの暮らしと日本国憲法」を合わせて学習を進めていく。日本国憲法の考え方に基づいた取組を具体的に調べることで、憲法を身近に感じながら、我が国の政治が日本国憲法の基本的な考え方に支えられていることについて考えられるようにする。

「調べる」段階では、日本国憲法の基本的な考え方として、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義について新宿区の取組を含めて資料などで調べる。その中で、基本的人権の尊重であれば、国の子ども医療費助成制度などを通して政治のつながりを調べたり、新宿区の取組である情報公開制度や区長への手紙を調べたりすることが考えられる。

「まとめる」段階では、日本国憲法や国会、内閣、裁判所の役割について調べたことを整理したあとに、新宿区選挙管理委員会の協力による模擬選挙の体験や、新宿区と国民主権が新宿区でどのように反映しているかを考え話し合う。さらに、段階において、豊かなくらしを実現するために、どのように政治と関わっていくことがよいかを、今できる関わり方と将来できる関わり方について学級全体で話し合う活動を設定する。これらの活動を通して日本国憲法をより身近に感じ、日本国憲法や政治と国民生活がつながっていることに気付かせることができると考えた。

【第10時で使用した資料】

①新宿区が住民に知らせたり、要望を聞こうとしたりする姿がわかる資料



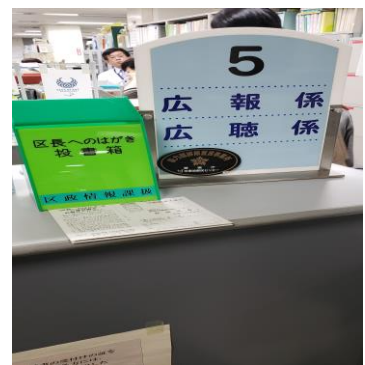
【住民説明会の様子】

新宿区が行おうとする工事などの計画について住民に説明する場を設け、住民の意見も聞こうとしている姿として取り上げることとした。



【新宿区ホームページ】

新宿区が住民のために行っているサービスをより分かりやすく広めたり、質問したりすることができるように開設されていることがわかる資料である。



【区長へのはがき投書箱】

区長をはじめとする区役所に対して住民の要望や意見を広く取り入れて、政治を行おうとしていることが分かる資料として取り上げた。

これらの資料は、新宿区の行政の取組である。新宿区が住民に対して情報公開したり、「区長へのはがき」として住民の声を聴こうとしたりすることで、住民の願いを実現しようとする新宿区の政治の様子の具体例として取り上げることとした。

②具体的な要望と住民の願いの在り方を考える資料（学級全体での討論資料）

区道上の舗装レンガが一部浮いており、それに踏んで転んだ。その際に、液晶画面を損傷した。この損害を賠償してもらいたい。

新宿区役所に寄せられた実際の要望を資料化した。区は住民の願いを実現しようと政治をおこなっているが、それらは、「公共の福祉」という視点で吟味されている。「新宿区は住民の願いを反映させているだろうか。」という問いについて意見を表明する中で、学級全体で願いの質について考える資料として取り上げた。

【新宿区に寄せられた要望】



日本国憲法の国民主権の考えは、新宿区ではどのような仕組みで反映されているか根拠について話し合った。多くの意見を集めることで条例改正の可能性があることに気付かせるため、「子供の声は騒音」の資料を提示した。

【新聞「子供の声は騒音」】

（４）児童の学びが深める問題解決的な学習過程と「問い」の構成の工夫

本小単元では、学習指導要領や解説から、着目させたい視点や考える方法を抽出（【】で表現）し、その視点や方法が働くように促す追究の問いを設定し、学びのプロセスに即して構成を下記のように考えた。

学習問題を把握する問い	なぜ、ユニバーサルデザインを広めているのだろう。【国民生活との関連】 憲法はどのような考え方でつくられているのだろう。【憲法の基本的な考え方】
学習問題	豊かなくらしを実現するために、 日本国憲法がどのような働きをしているのだろう。
↓ 事実を追及し捉える問い	基本的な考えは、わたしたちのくらしとどのようにつながっているのだろう。 国民主権の考えは、わたしたちのくらしとどのようにつながっているのだろう。 平和主義の考えは、わたしたちのくらしとどのようにつながっているのだろう。【憲法の基本的な考え方】 【国民生活との関連】 国会や内閣、裁判所には、どのような役割があるのだろう。【三権の役割】
特色や意味を考える問い	学習問題について調べたことを関連図にまとめよう。【関連付け】
社会との関わりを考える問い	豊かなくらしを実現するために、どのように政治に関わっていけばよいのだろう。【発展】

4 小単元の指導計画と評価計画 (12時間扱い)

	ねらい	○主な学習活動 ●評価の活動 問 問い ・児童の反応	◎資料 □指導上の留意点 【評価】
つかむ	ユニバーサルデザインの考え方を大切にしまちづくりが行われ、だれもが不自由なく生活していけることに気付く。①	問：なぜ、ユニバーサルデザインを広めているのだろう。 ○公共施設の写真や資料から気付いたことを話し合い、公共施設はどのような考え方でつくられるのかを考える。 ・点字ブロックが多くある。 ・必ずだれでもトイレがある。 ○担当者的話から、公共施設の基となる考えを深める。 ●ユニバーサルデザインが広められている理由について考えたことをノートに書く。	◎公共施設の写真や資料 ◎日本国憲法の条文 ◎担当者的話 □具体的な写真や話と日本国憲法の条文をつなげて、ユニバーサルデザインを広めているの背景について目を向けさせる。 【知・技①】ユニバーサルデザインは、日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解している。(発言、ノート)
	日本国憲法の考え方について確かめ、新宿区のくらしは憲法を基に進められていることを理解し、学習問題をつくる。②	問：憲法はどのような考え方でつくられているのだろう。 ○日本国憲法の三原則について確かめる。 ・基本的人権の尊重、国民主権、平和主義 ●疑問をノートに書く。疑問を出し合い、学習問題をつくる。 ・どんな内容か知りたい。・どんな影響があるのかな。 豊かなくらしを実現するために日本国憲法がどのような働きをしているだろうか。 ○予想したことを出し合い、学習計画を立てる。 ・日本国憲法の三原則の内容を調べよう。 ・国会や内閣、裁判所について調べてみよう。 ●学習計画を基に、学習の見通しをもてたかを振り返り、「学び方カード」に記述する。	○日本国憲法の三原則 □日本国憲法には3原則があることを資料で確かめ、疑問や知りたいことを出し合い、分類・整理して学習問題を設定していく。 【思・判・表①】日本国憲法の基本的な考え方に対して疑問を出し合い、学習問題を設定している。 □予想を分類して、既習を調べることと調べる方法を話し合わせる。 【態度①】学習問題に対して予想し、学習計画を立てることを通して、これからの学習に見通しをもっている。(学び方カード)
調べる	基本的人権の尊重に基づく取組を調べ、自分たちの生活との関連を調べる。③	問：憲法の基本的人権の考えとわたしたちのくらしは、どのようにつながっているのだろう。 ○基本的人権の尊重に基づいた取組を調べる。 ○国民の権利と義務について調べる。 ○基本的人権の尊重の考え方と自分たちのくらしとの関わりについて考え、話し合う。 ●基本的人権の尊重についての考え方や具体的な取組について分かったことをノートにまとめる。 ・誰もがしあわせにくらせるためのもの。 ・社会が成り立つために大切なもの	◎日本国憲法(国民の権利、国民の義務) ◎区報や区のホームページ □ユニバーサルデザイン以外に人権を守る取組について資料を通して調べ、読み取り、学級で確かめることができるようにする。 【知・技①】基本的人権の尊重の考えが自分たちのくらしに関わることを資料から具体的に調べ、理解している。(ノート)
	国民主権に基づく取組を調べ、自分たちの生活との関連を調べる。④	問：国民主権の考えとわたしたちのくらしは、どのようにつながっているのだろう。 ○国民主権に基づいた具体的な取組を調べる。 ○国民主権の考え方と自分たちのくらしとの関わりについて考え、話し合う。 ・選挙でつながっている。 ・国民の休日がある。・住民投票を行っている。 ○天皇の地位や国民の休日について調べる。 ●国民主権の考え方と自分たちのくらしとの関わりについて分かったことをノートに記入する。	◎日本国憲法(国民主権とは) ◎区報や区のホームページ □国民主権の取組について資料を通して調べ、読み取り、学級で確かめることができるようにする。 【知・技①】国民主権が現在の政治や自分たちのくらしに関わることを資料から具体的に調べ、理解している。(ノート)
	平和主義に基づく取組を調べ、自分たちの生活との関連を調べる。⑤	問：平和主義の考えとわたしたちのくらしは、どのようにつながっているのだろう。 ○平和主義に基づいた取組を調べる。 ○平和主義の考え方と自分たちのくらしとの関わりについて考え、話し合う。 ・毎年、日本で原水爆禁止世界大会を開いている。 ・学校の正門の近くにも「新宿区平和都市宣言」のレリーフがたてられている。 ●くらしの中の平和主義について分かったことをノートに記入する。 ・平和主義があることで安心して暮らせる。	◎日本国憲法(平和主義とは) ◎区報や区のホームページ □平和主義の取組について資料を通して調べ、読み取り、学級で確かめることができるようにする。 【知・技①】平和主義と自分たちのくらしの関わりを具体的に調べ、理解している。(ノート)

	国会や内閣、裁判所の働きについて調べ、自分たちの生活との関連を理解する。⑥⑦	問：国会や内閣、裁判所には、どのような働きがあるのだろう。 ○国会の仕組みや働きについて調べる。 ○内閣の仕組みや働きについて調べる。 ○裁判所の仕組みや働きについて調べる。 ○選挙の仕組みや裁判員制度について調べる。 ○三権分立について調べ、図に整理する。 ○国会や内閣、裁判所の役割と自分たちのくらしとの関わりについて考え、話し合う。 ●国会や内閣、裁判所の働きと、国民生活のつながりについて分かったことをノートに記入する。	◎国会の仕事についての資料 ◎内閣の仕事や仕組みの資料 ◎裁判所の働きについての資料 □国会、内閣、裁判所それぞれの役割を調べまとめるようにする。 ◎三権分立や相互関係を表す図 □国会、内閣、裁判所のつながりや、国民とのつながりについて相関図に整理するようにする。 【知・技①】国会、内閣、裁判所の働きや自分たちのくらしとの関わりを理解し、図にまとめている。
まとめる	調べたことを関連図にまとめ、国家や国民生活の基本、我が国の民主政治の基本的な考え方となっている日本国憲法や、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解する。⑧⑨	問：学習問題について調べたことを関連図にまとめよう。 ○：前時までの学習を関連図にまとめる。 ●完成した関連図から分かったことを関連図に追記する。 ・日本憲法は国やわたしたちのくらしの基本となっている。 ・日本国憲法は政治の基本的な考え方を示している。 ●学習してきたことを振り返り、さらに調べたいことなどを記述し、話し合う。 ・本当に憲法の考え方が反映されているのかな。	□調べたことを図に整理し、その関係性について確かめ合う。 【知・技】学習したことを図にまとめ、日本国憲法が国家や国民生活の基本を定めていること、我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていること、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解している。(関連図) 【態度①】学習したことを振り返り、さらに調べたいことを見出している。(ノート)
いかす	模擬選挙を体験し、国民主権を実現するための選挙のしくみを体験的に理解する。⑩	問：選挙とわたしたちのくらしは、どのようにつながっているのだろう。 ○模擬選挙を行い、選挙の仕組みを体験的に学ぶ。 ・考えて投票したが、選ばれなかった。 ・一人が一票投票する権利を大切に保障している。 ・投票しないと意見が反映されていない。 ●模擬選挙体験を通して国民主権の実現状況について分かったことをノートに記述する。 ・いろいろな方法で、一人が大切な一票を投票できるようにしていると思った。	◎選挙管理委員会出前授業 □選挙への関心を高め、選挙管理委員会の方から、一人一票の大切さを捉えたり自ら考えて投票することの重要性を考えたりさせる。 【知・技①】国民主権を実現する選挙の役割とわたしたちのくらしとの関わりを理解している。(ノート)
	新宿区の政治と国民主権の関係について自分の考えを表現する。⑪(本時)	問：憲法の国民主権の考えは、新宿区ではどのように反映されているのだろう。 ○これまでの学習してきたことと関連付けて、自分たちのくらしと新宿区における国民主権の実現状況について話し合う。 ・バリアフリーが進んでいる。 ・意見が吸いあがっている。 ●問いについて分かったことをノートに記入する。 ・区民の意見が十分に反映されている。 ・考えて政治に関わっていく必要がある。	◎前時までの資料やノート ◎国民主権を反映するための選挙以外の取組を示す資料 □タブレットPCを活用して、資料を配布したり、児童が集めてきた資料を拡大提示したりして、情報を共有できるようにする。 □自分の立場を明確にして話し合わせ、理由を説明し合えるようにする。 【思・判・表②】新宿区の取組と国民主権の考えを関連付けて、その役割について考え、表現している。
	政治への自分の関わりについて考え表現する。⑫	問：豊かなくらしを実現するために、わたしたちはどのように政治に関わっていけばよいのだろう。 ○これまで学習したことを関連付けて、自分たちのくらしと日本国憲法の働きつなげて、これからどうように関わっていくべきかを考えて話し合う。 ・誰もが平和で安心して幸せに暮らせること。 ・日本国憲法に基づいて区政が進められている。 ●自分の関わり方について考えたことをノートに記入する。 ・憲法と社会のつながりを意識しながら関わっていく必要がある。 ・今できる関わり方と将来できる関わり方を理解した。今現在できる関わり方をしたい	◎前時までの資料やノート □自分たちと政治のつながりについて学習したことを根拠に考えさせる。 □自分の意見をしっかり書かせてから、話し合わせるようにする。 【態度②】これまでの学習を基に日本国憲法が国民生活に果たす役割の大切さを考え、国民としての政治への関わりについて考えている。

5 本時の指導（10／12時）

（1）本時のねらい

○日本国憲法の国民主権の考えが、新宿区の政治にどのように反映されているかを考える。

（2）本時の展開

	○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◎資料 □指導上の留意点 【評価】
導入(5)	○前々時・前時の学習を振り返る。 ・三権分立について学習した。 ・選挙は国民の政治への関わりが大きい。 本時の問い：日本国憲法の国民主権の考えは、新宿区ではどのように反映されているのだろうか。	◎三権分立と国民の関係図 □前時の模擬選挙を基に、選挙の位置を三権分立の図で確かめ、それ以外に視野を広げていく。
自分タイム(7)	○これまでの学習を基に、区民の思いや願いを取り入れるための新宿区の工夫や方法についてまとめる。 ・区民の声委員会の設置。（中立な立場から処理する機関） ・誰でも意見が言える環境。（区長への手紙、電話、区役所意見箱、メール、FAX・ホームページ・パブリックコメント） ・情報を受け取れる環境。（SNS・facebook）	□日本国憲法の国民主権と新宿区の政治がどのような関係があるのか着目させる。 □前時までの資料から読み取り、気付いたことを記述する。
みんなタイムⅠ(10)	○日本国憲法の国民主権の考えは、新宿区ではどのような仕組みで反映されているか根拠について話し合う。 ・区長への手紙があるが、届いているのかな。 ・電話や意見専用フォームがあり、誰でも意見が言える。 ・改善策が取られ、ホームページに開示もされている。 ・多くの意見を集めることで条例改正の可能性はある。	□多くの意見を比較することで、国民主権の考えが仕組みで成り立っているかについて考えられるようにする。 □用意した資料をタブレットPCで確認しながら発言内容を確認させる。 ◎新聞「子供の声は騒音」
みんなタイムⅡ(15)	○本時の学習内容を踏まえ、できているかできていないか立場を明確にして国民主権が実現しているかについて話し合う。 ・～だから実現できている。なぜかという～。 ・～だから実現できていない。なぜかという～。	□名前シートを利用し、自分の立場が明確になるようにする。 □自分の立場を明確にすることで、全員の考えを表明できるようにし、発言できる子を中心に授業を展開する。 ◎パブリックコメントを提示
振り返りタイム(8)	○問いについて考えたことをノートに書く。 新宿では、区民の意見を聞く方法が用意されているから、日本国憲法の国民主権の考えが十分反映されていると思う。でも、より多くの声が反映されるには、一人一人がもっと政治に関わる方法を使う必要がある。 ○次の時間のめあてなどを記入する。	【思・判・表②】国民主権を実現させるために大切なことを考え、その理由を説明できる。

（3）本時の板書計画

日本国憲法の国民主権の考えは、新宿区ではどのように反映されているのだろうか。				
	〈自分タイム〉	〈みんなタイム〉	〈振り返りタイム〉	
三権分立と国民の関係図 ・選挙以外では、何があるかな。	取り入れるための工夫・方法 - 区民の声委員会 - 意見箱 ・ 電話 - FAX ・ 郵便 - メール - 区長への手紙 - ホームページ - パブリックコメント - facebook ・ twitter	どのような仕組み 左記で出た資料掲示 - 区民の声 ・ 意見箱 - 電話 ・ FAX - 郵便 ・ メール - 区長への手紙 - ホームページ - パブリックコメント - facebook ・ twitter - パブリックコメント	国民主権は実現しているか ※名前シートを貼る (ホワイトボードに表) ○○だから実現できている。 ○○だから実現できていない。	○今日分かったこと →ノート

6 実践事例の成果と課題

(1) 社会的事象の見方・考え方を働かせることができる教材開発

- タブレットを使うことにより、多くの資料を提示できた。多くの資料を取り扱うことで、児童が共通点を見い出すことにつながった。
- 自分の住んでいる新宿区における国民主権の現れについて教材化したことで、児童が新宿区では国民主権が反映されているかどうかを考え話し合うことができた。身近な話題にすることで学びを深めることができた。
- タブレットを使うことは有効的であったが、画面が変わると残らないので、手元にも同じ資料があるとよかった。また、タブレットを使う際に教員側が資料を送るだけでなく、児童が見つけた資料などを共有できる機会があるとよかった。



【タブレットで配信された資料を見る児童】

(2) 学習問題を協働的に追究して学びを深める学習活動の工夫

- 学習問題に対して予想し、学習計画を立てることで、学習への見通しをもつことができ、タブレットで調べる活動(自分タイム)を充実させることができた。また、調べ学習をした内容を全体で共有することができた。
- 「みんなタイムⅡ」では、児童一人一人が名前マグネットを貼ることで意思を示すことができた。また、そのことを踏まえて討論することができた。
- 協働的な学習活動が少なかったため、児童一人一人が友達と考えを共有し、自分の考え発信できるような場面が多くあるとよかった。



【名前マグネットをはった板書】

(3) 児童の学びが深まる問題解決的な学習過程と「問い」の構成の工夫

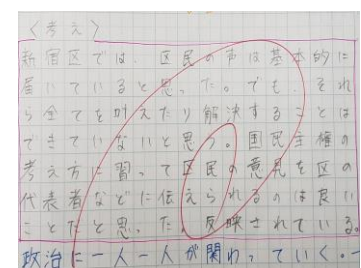
- 「日本国憲法の国民主権の考えは、新宿区ではどのように反映されているのだろうか」という問いに対して児童が考えを深め、記述する姿が見られた。国民の声を聞く窓口がたくさんあることも理解することができた。



【新宿区の様々な取組】

【児童のノートから】新宿区では、区民の声は基本的に届いていると思った。しかし、それら全てを叶えたり解決したりすることはできていないと感じた。政治に一人一人が関わっていくことが大切だと考えた。

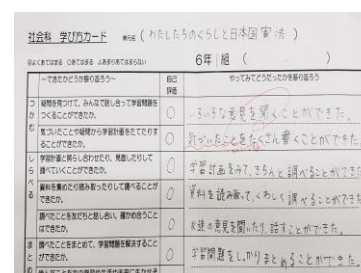
- 小単元展開としては、区の働きを理解してから日本国憲法を扱う方が身近な政治から国の政治へと理解が深まったかもしれない。



【児童のノートの記述】

(4) 児童の学習状況についての評価方法の工夫

- 学び方カードを活用することで学習計画に沿って、新宿区の国民主権に関する資料集めたり読み取ったりして、学習のすすめ方を振り返りながら自ら調べることができた。
- 小単元の終末では、ノートの記述に見られるように一人一人が日本国憲法や政治を国民生活に関連付けて考えることができた。



【学び方カード】

1 自己学習部会

「学び方カード」は、学習の内容を振り返るものではなく、「どのように学ぶか」を教師が意識して授業を計画するとともに、児童自身が自覚し高めていくものとして作成・活用した。繰り返し使うことで、児童が問題解決の学習過程に即した学び方のポイントを身に付けようとしたり、前の単元からの成長を感じたり、次の単元での学びにつなげようと意識したりできるようにしていく。また、児童のそうした姿を「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料とすることができると考えた。

「つかむ」「調べる」「まとめる」の各段階で、具体的な振り返りの項目を設定する。具体的な文言にすることで、児童が振り返りやすくなるとともに、次の学習活動の目標やめあてが立てやすくなる。一方、教師も、項目にある児童の姿が現れるように学習活動を設定するので、問題解決的な学習過程を意識した授業・単元をつくることができる。発達段階に応じて項目の一覧を以下のように作成した。

	低学年		中学年	高学年
であう	◎活動や体験を通して、思いや願いをもてた。 例)・ふしぎ、おもしろいを見つけられた。 ・ドキドキ、ワクワクした。 ・もっと○○したい。	つかむ	? (はてな) を見つけて、みんなで話し合って学習問題をつくることができた。 予そうをたてたり、学習計画をたてたりすることができた	気付いたことや疑問・調べたいことを考えられた。 気付いたことや疑問を話し合って、みんなで学習問題をつくった。 予想をもとに学習計画を立てて、これから調べる見通しがもてた。
かかわる	◎願いや思いを実現するために考えたり、伝え合ったりできた。 例)・工夫してかつどうできた。 ・おしえてもらったり、おしえてあげたりできた。 ・ほかの人にもつたえたい。	しらべる	学習計画とてらし合わせて調べていくことができた。 自分で見てさがしたり、人に聞いたりして調べることができた。 調べたことを友達と話し合い、たしかめ合うことができた。	学習計画とてらし合わせて、調べることをはっきりさせて調べた。ねばり強く調べた。 資料の大切なところに気を付けて読み取れた。大切なことや人や出来事の関係が分かるようにノートに書いた。 調べたことを友だちと話し合い、確かめ合うことができた。
広げる	◎自分の良さに気づいたり、成長を感じたりできた。 例)・好きなことやとくいなことを見つけられた。 ・○○ができるようになった。 ・つぎは○○したい。	まとめる	はじめにつくった学習問題をかいいつすることができた。 学んだことを次の学習や生活に生かせそう！生かしていきたい！	キーワードや「つまり」や「例えば」という言葉をうまく使って、学習問題を解決することができた。 学んだことを次の学習や生活に生かすことができそう！または生かしていきたい！

主体的に学習に取り組む態度は、「自らの学習を調整しようとする側面」と「粘り強い取組を行おうとする側面」の2つから評価することが示されている。各段階の節目に、それぞれの段階の項目について「できたマーク」を付けるとともに、学習段階ごとの振り返りを記述する。マークは、「前单元より成長した」「もっとできそう」など、自己の成長に目を向けた表現にして自分自身の学習の仕方を高めていくことで、学習調整や粘り強く取り組む態度が育成できると考えた。また、最後に单元を通した学び方を振り返り、児童が学習を通して「できたこと」と「次に目指したいこと」を記述することで、「次の学習に生かそう」「私も社会に関わることができそうだ」という自己効力感の高まりを促すことができると考えた。

[illegible]

◎：よくあてはまる（前回よりも、成長した！）○：あてはまる（できたけど、もうちょっとできそう）△：あまりあてはまらない（困っています）

(4)「自らの学習を調整しようとする側面」の評価と活用【カードを生かす】

児童の振り返りで、具体的に振り返ることができているもの、次の学習や取り組み方への意欲が感じられるものなどは、学級で紹介して広げる。特に、「困っている」ことに関するものは、良いこととして取り上げて「自らの学習をよりよくしていく姿」につなげる。

5年生
情報を活用して発展する販売業

「調べる」とは考えただけで
おぼろげに考えようだった。
それを学習課題をつくれた。
何を調べるか分かった
学習計画として分けて
調べた。もうひとつ
調べた。もうひとつ
調べた。もうひとつ

まだノートのとりがたかい
いまいちだからうまく
上手にできるようになりたい。
なりた。いつも改定して

・ノートのまとめ方など、自分の学習への取り組みで努力したいことを明確にしている。
・学習計画に対する自分の学習状況を的確に把握している。

いろいろおまの情報の使い方を
かようはかきかくわにわかれた。
友達と話し合いながらやること
もできた。図がよくわかる。
まとめる図が今日の学習で
とくによかったと思う。
次の学習に活かしたい。

（今回の自分の学習の進め方はどうだったかな。～自分がとくにがんばったことやできるようになったことをふりかえろう～）
自由研究のときと比べてキーワードや伝えたい
事をうまくまとめることができてよかった。

ま と め る	キーワードや「つまり」や「例えば」という言葉をうまく使って、 学習課題を解決することができた。 学んだことを次の学習や生活に生かすことができそう！または、生か していきたい！	① ②	キーワードを大事にまとめられ 次の学習でもキーワードに注目し た。
------------------	--	--------	---

（今回の自分の学習の進め方はどうだったかな。～自分がとくにがんばったことやできるようになったことをふりかえろう～）
キーワードを使ったり、やじるしを使ったりして上手にまとめた。1学期
より、目的は、きりさで学習ができた。

・1学期や前単位と比べて自分の成長を明らかにしている。
・今回の単位でできるようになったことを自覚して、具体的に表現できている。

(5) 低学年：生活科における活用【カードを生かす】

◎きょうの かつどうを ふりかえって かきましよう。

日	11/3	11/4	11/5	11/6	11/7	11/8
めあて	おもちゃのけい がをする。	よくわかった つらう。	かいて おまかせに おまかせに	おまかせに おまかせに	おまかせに おまかせに	おまかせに おまかせに
ふりかえり	すずんでかどう ◎	◎よくできた ◎	◎できた ◎	△あまりでできなかった ◎	◎できた ◎	◎できた ◎
ふりかえり	◎よくできた ◎	◎よくできた ◎	◎できた ◎	△あまりでできなかった ◎	◎できた ◎	◎できた ◎
ふりかえり	いふふいふ をつかてわい いふふいふ	いふふいふ をつかてわい いふふいふ	いふふいふ をつかてわい いふふいふ	いふふいふ をつかてわい いふふいふ	いふふいふ をつかてわい いふふいふ	いふふいふ をつかてわい いふふいふ

自分が楽しむために工夫したい。
たくさんのお客さんに楽しんでも
らいたい。
こども園の子たちを楽しませるた
めに、工夫したい。

「つくろうあそぼう」では、単位を通して、「みんなが楽しめるおもちゃ作り」と児童の気付きの質を高めるために活用した。

○「気付いたこと・次に向けて」の記述を通して、児童が次時の活動への願いをもつことができる。

○教師が記述を確認して評価したり、次時の計画を立てたりすることで、より児童の実態に即した授業を展開できる。

○授業の導入で前時の振り返りを学級で共有することで、児童が本時の見通しをもち、友達の考えの良さに気付くことができる。

(6) まとめ

- 学年の発達段階、各教科の見方・考え方を考慮した、カードの項目の吟味が必要である。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価として、具体的な児童の反応例を集めて分類するとよい。

2 協働的学習部会

(1) 学習過程に即した協働的な学習活動

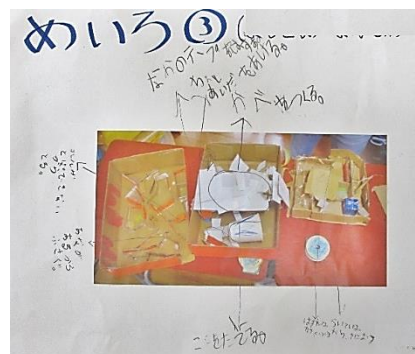
社会的事象の見方・考え方を働かせるためには、一人の見方・考え方で結論を導くのではなく、集団思考が働く協働的な学習活動を通して理解を深めていきたい。学習過程に即して整理すると以下のようになる。

学習過程における協働的な学習場面		協働的な学習活動の例
つかむ	○思いや疑問、調べたいことを表出し合い共有する場面	◆ペア（二人）で話し合う。 ・短時間で、疑問に思ったことや気付いたこと、考えたことや感想をお互いに言葉やノートなどで紹介し合う。
調べる	○気付いたことや調べたことを共有する場面 ○比較や関連付けして特色や意味を考え合う場面	◆グループ（4人程度）で話し合う。 ・問いについて、分かったことや考えたことなどを紹介し合い、思考ツールやホワイトボード、付箋などを活用して、比較・分類・関連付けなどして情報を整理して考えを深めたり広げたりする。 ・ホワイトボードや短冊などを活用して話し合ったことを関連付けたり総合したりして文章などにまとめていく。
まとめる	○まとめた作品や文等を使って考えたことを説明し合う場面 ○新たな問いについて話し合い考えを深める場面	◆学級全体で話し合う。 ・立場を明確にしたり友だちの発言とつなげたり、資料やICTを活用して視覚的に伝え合ったりして話し合う。
いかす	○学んだことを活用して社会の発展や自分の関わり方について話し合う場面	◆社会生活を営む人と対話的に学ぶ ・直接聞き取りしたり手紙やメールで質問したりする。

(2) 今年度取り組んだ協働的な学習活動の実例

①何度も繰り返し活動することで協働的に試行錯誤する（第1学年の事例）

「つくろうあそぼう」の学習では、どんぐりを使ったおもちゃ作りをして遊んだ後、遊びの対象を園児に変えておもちゃ作りを行った。園児におもちゃで楽しく遊んでもらうために、どのような工夫が必要か、「園児が楽しめるように」という観点を大切に話し合いをさせた。話し合いが充実するように、作ったおもちゃの写真を模造紙に貼り、グループで話し合いをした。その際、気付いたことを書き込むことで、自分の考えた改善点と改善する場所を分かるようにできた。また、話し合いの内容や順番を全体で確認したり、話し合いの途中で友達の見解を聞く時間を設けたりしたことで、自分たちの改善点と比べて考えることができた。



②実社会で働く人と協働的に学ぶ（第4学年の事例）

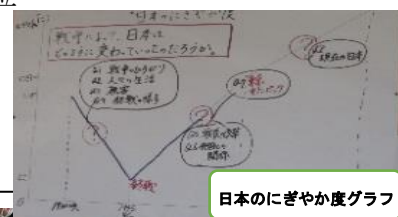
「地域の自然災害から守る」の学習では、東京都の水害について資料で調べた後、まだ分からないことについて新宿区危機管理課の方に直接質問して調べる時間を設定した。ゲストティーチャーから一方的な説明で終わるのではなく、質問を考え吟味して事前に送付し、児童の質問に答えていただく形式で行った。実社会で働く人から対話的に学ぶ1単位時間の授業の構成ポイントを明らかにすることができた。



③自分の考えをもとに意見を交わすことで、協働的に思考を深める

（第6学年の事例）

「歴史の中の世界との関係」の学習では、東京オリンピックの開催という歴史的事象から、戦後の日本の発展について学習した。児童は、日本と世界との関係を色分けした世界地図や、年表、クラスで考えた「日本のにぎやか度グラフ」から、オリンピック開催



から考える日本の発展について、自分の意見や考えを明確にして付箋に書き込み、それをもとに友達と意見を交わすことで、協働的に思考を深めながら、課題解決に向けて考えることができた。

(3) 学級での話し合いの話し型やルール

<話し型やつなぎ言葉の例> ◎確認、質問 ・～は～ということです。 ・～さんに質問ですが、 ◎根拠 ・教科書の～ページから、 ・～年生のときの学習で、 ◎理由 ・どうしてかという、 ・なぜかという、 ・～～からです。 ◎例示 ・例えば～のように、	◎比較 ・〇〇さんに似ていて、違って、 ・〇〇さんに賛成で、反対で、 ◎まとめる ・意見をまとめると～です。 ・つなげると～です。 ・つまり～～です。 ◎深める ・〇〇さんにつけたしで、 ・大切なことは〇〇 ・「問い」とつなげると～だ。	<友達の発言に対する反応例> ☆同意、共感 「うん」「ああ」「そうか」 「いいね」「同じだ」「わたしも」 ☆驚嘆、感嘆 「すごい」「おお」「ほんと」 ☆否定 「そう?」「ええ?」「そうかな」 ☆その他 「それで」「どうしたの」 「たとえば」「ほかには」
---	--	--

<4人グループでの話し合いの進め方モデル> 1、話し合いの内容や方法を確かめる。 2、司会、計時、記録、発表の役割を決める。 3、順番を決めて発言する。 4、意見や質問を出し合う。 5、話し合ったことをまとめる。	話し方 「はさみ」 1、はい。～です、ます。 2、さいごまではっきり大きな声で話す。 3、みんなの方に体を向けて話す。	聞き方 「うめライス」 ・うなずいて ・めをみて ・ラストまで ・いっしょうけんめい ・スマイルで
--	---	---

(4) 協働学習を支えるツールの活用

- ◎「付箋の活用」資料を読んで自分の意見を付箋で貼る。
 - ・自分の意見を予めもつことで、自信をもって発言できる。
 - ・付箋を操作しながら話し合い活動を行うことで、意見の比較や分類を行うことができる。
- ◎「ホワイトボードの活用」マーカーを使って記録しながら話し合い、発表にも使用する。
 - ・書いたり消したりが容易にできるので、話し合いの進行に合わせて記録することができる。
 - ・書いたものをそのまま発表に使用でき、グループごとの意見の比較がしやすい。
- ◎「思考ツール」様々な思考ツールをその特徴や目的に応じて活用する。

活用例<ピラミッドチャート>

- ・思考方法：焦点化 構造化
- ・グループの発表方法を決める際に使用。

(5) まとめ

- 学級の話し合いの仕方や協働的な学習を支えるための思考ツールなどを活用し、どのように学習するか教師が意図的に工夫していくことが必要である。他教科でも協働的な学習を意識的に行っていく必要がある。

3 学習技能部会

(1) ノート指導のポイント

ノートや学習カードは、学習したことを記録して自己の考えを整理し高めていく大切なツールであり、その技能を定着させていくことが児童の学びをより確かにしていくために欠かせないと考え、そのポイントを整理した。

①ノートの形式

- ・低学年生活科：学習カード ・中学年社会科：マス目ノート（10mm）
- ・高学年社会科：幅広ドット入り野線ノート（8mm幅）

②ノート指導のポイント

○ポイント① 「本時の問い」は青で囲む。

- ・本時の問いが一目で分かる。
- ・問いを明確に意識することで見通しをもって活動できる。
- ・全学年統一して、自分のノートづくりができる。

○ポイント② 「自分タイム」では、自分が＜分かったこと＞を書く。

- ・自分の考えは箇条書き「・」で書く。
- ・自分の疑問には印を付ける。（例：「△」等）
- ・自分が分かったことや疑問を、「みんなタイム」の情報共有に生かす。

○ポイント③ 「みんなタイム」では、＜友達の考え＞を書く。

- ・友達の発言を聞き、自分にはない考えをノートに書くことで考えを広げたり深めたりする。
- ・自分と同じ考え、異なる考えを聞き分けることで聞く力が身に付く。

○ポイント④ まとめにつながる考えに印を付ける。

- ・＜分かったこと＞＜友達の考え＞の中から、まとめにつながる考えに印を付ける。（例：「◎」等）
- ・「自分発」（＝分かったこと）→「みんな経由」（＝友達の考え）→「自分行き」（＝まとめ）の流れが自他ともに分かる。

○ポイント⑤ 「まとめ」は赤で囲む。

- ・本時の学習を振り返り、問いについて自分の考えを再考して書く。本時の学びが一目で分かる。

○その他

- ・授業の内容に合わせて、適宜重要な箇所に~~~~~や~~~~~などを引く。
- ・印については、各学級の実態に合わせて活用していく。

(2) ノートや学習カードのモデル例

パターンⅠ（低学年生活科学学習カード）

せいかつか	単元名	名前
絵や写真		
②		
③		
④		

つくろうあそぼう(1)

なまえ

①

③きょうの かつどうを ふりかえて かきましょう。

めあて	()	()	()	()
まずんでかつどう	よくできた	○でできた	△あまりでできなかった	()でできなかった
ふりかえり	よくできた	○でできた	△あまりでできなかった	()でできなかった
きいたこと・つづけて				

①ふり返しカードを活用して、前時を振り返り、本時のめあてを記入する。

②活動を通して、見たものや作った作品の絵を描く。写真の方が分かりやすい場合は、写真を貼る。

③見つけたことや気付いたこと、考えたことを、文章で表現する。

④やってみたいと思ったことや次の時間にやってみたいことを記入する。

パターンⅡ（１ページで構成：主に中学年）

日付 単元名 本時の問い <分かったこと> ◎・ ・ ◎・ △・ <友達の考え> ◎・ ・ ◎・ ポイント① ポイント② ポイント③ ポイント④ ポイント⑤ まとめ	資料等 ※授業で資料を用いた場合は必要に応じてノートの右ページに貼る。
---	--

パターンⅢ（２ページで構成：主に高学年）

日付 単元名 本時の問い 資料	ポイント① ポイント② <分かったこと> ◎・ ・ ◎・ △・ <友達の考え> ◎・ ・ ◎・ ポイント③ ポイント④ ポイント⑤ まとめ
--	---

（３）まとめ

- 授業の始めに問いを明示することで、本時の課題を捉え、資料の見方・考え方を働かせて、問いについて追究することができる。
- 「自分タイム」で「分かったこと」と「みんなタイム」で共有した「友達の考え」を基に、本時の問いに対するまとめを書き、自分の考えを整理することができる。

戦後とオリンピック開催前の様子を比較したり、東京オリンピックと戦後の日本の変遷を関連付けたりして考えている（※下線部分）ことからBと評価した。

(3) まとめ

○記録に残す評価場面での活動について単元全体を見据えて設定することで、統括的な評価として役立てることができる。まとめる技能と理解事項、働かせたい思考方法を想定して表現活動を設定していきたい。

(4) まとめる段階の表現活動と評価の観点についての教科書分析

※令和2年度年度版教育出版「小学社会」と
指導計画（案）より

	小単元名	まとめる段階での表現活動	評価の観点
第3学年	まちの様子	絵地図を見て、まちの様子について分かったことを表にまとめる。	【思】学校のまわりの特色について話し合い、場所によって違いがあることを表現している。 【態】省略
	市の様子	市の様子について、調べたことを白地図を使ったポスターにまとめて話し合う。	【思】市の様子について話し合い、場所によって違いがあることを表現している。 【態】省略
	わたしたちのくらしと商店	お客の願いとお店の工夫を関連付けて線を引き、関係図にまとめる。	【思】お客の願いとお店の工夫を関連付けて、関係図に表現している。 【態】省略
	わたしたちのくらしと工場	工場働く人の仕事と地域の人々のくらしとの関わりについてノートにまとめる。	【思】工場（農家）で働く人の仕事と地域の人々のくらしとの関わりについて考え、ノートに表現している。 【態】省略
	火事をふせぐ	消防署の働きについて消防と防火の両面から関係図にまとめ、標語を作成する。	【思】火事からまちを守る働きについて関係機関の連携を大切に関係図にまとめ、大切なことを標語に表現している。
	交通事故をふせぐ	警察署の事件や事故から守る働きを関係図にまとめ、安全マップ作成する。	【思】事故や事件からまちを守る働きについて関係機関の連携を中心に関係図や安全マップに表現している。 【態】省略
	市のうつりかわり	区の様子の変化と道具や生活の変化を絵年表にまとめて移り変わりを話し合う。	【思】学習問題について調べて年表に整理したことをもとに、移り変わりの様子について考えたことを表現している。 【態】省略
第4学年	県の地図を広げて	調べてことを県の地形・土地利用・主な産業・交通の広がり項目で表にまとめる。	【知】県の地形や土地利用、産業、交通について調べたことを表や白地図などにまとめている。 【思】学習問題を確かめ、調べてきたことをもとに県の概要について表現している。
	ごみはどこへ	ごみ関わる問題やごみを減量するための地域の人々の活動をノートにまとめる。	【思】学習問題を確かめ、ごみの処理や減量について自分が協力できることを考えたり学習したことの中から選択・判断したりして、発表している。
	水はどこから	水が供給されるまでの経路や水道事業の役割についてガイドマップにまとめる。	【知】学習問題を確かめ、水を供給する仕組みや安定的に供給するための工夫や取り組みについて理解している。 【思】水を大切に使うために、自分が協力できることを考えたり学習したことの中から選択・判断したりして、発表している。
	自然災害（地震）にそなえるまちづくり	地域の人々が大きな地震の発生に備えてどのような取り組みをしているのか表にまとめる。	【知】学習問題を確かめ、自分たちの地域が地震や津波災害にどのように備えているのかについて捉えている。 【思】地震や津波災害に備えるために自分が協力できることを考えたり学習したことの中から選択・判断したりして、発表している。
	地域で受けつがれてきたもの	文化財や年中行事の歴史や保存・継承のための取り組みを表にまとめる。	【知】阿波踊りの継承や発展には、様々な人々の工夫や努力があったことを理解している。 【思】学習問題を確かめ、阿波踊りがどのようにして長い間受け継がれてきたのかについて、考えたことを表現している。
	昔から今へと続くまちづくり	当時の社会の課題や人々の願い考え、用水開発の様子や工夫を地図にまとめる。	【知】調べてきたことをノートにまとめ、井沢弥兵衛の新田開発によって地域の人々の暮らしは豊かになったことを理解している。 【思】学習問題を確かめ、新田開発の成果や井沢弥兵衛の功績について考え、表現している。
	焼き物を生かしたまちづくり	焼きものづくりが盛んなわけを関係図にまとめる。	【知】東峰村には焼き物の材料があり、作り手の工夫や村の人々の協力で焼きものづくりが盛んになったことを捉えている。 【思】東峰村で焼き物づくりが盛んな理由について考え、表現している。
	自然を生かしたまちづくり	岡垣町のよさを表に整理し、地図に付箋をはって、岡垣町のよさを発表する。	【知】岡垣町の人々は、自然環境を生かしたまちづくりをしていることを理解している。 【思】岡垣町にアウミガメが来たりビワづくりが盛んだったりするわけについて考えたことを表現している。
	国際交流がさかんなまちづくり	交流が盛んなわけを話し合い、わけをグループごとに分類して、ノートにまとめる。	【知】福岡市には国際交流を進めていくための施設や行事のほか、市や市民の取組があることを理解している。 【思】福岡市で国際交流が盛んなわけについて考えたことを表現している。
	日本の国土と世界の国々	日本の国土の位置や構成、広がりについてカードにまとめ、グループで話し合う。	【思】世界の国々・大陸・海洋との位置関係、緯度・経度、国土を構成する島々などをもとに、日本の国土の特色についてさまざまな言い表し方を考え、適切に伝え合っている。
第5学年	国土の気候と地形の特色	日本の気候や地形の特色について、白地図や表にまとめ発表する。	【知】国土の地形や気候の特色や関係を、白地図などを使って的確に整理している。 【思】学習したことを関連づけながら、各地の気候が国土の中の位置や地形、台風や季節風などの影響を受けていることを考え、適切に説明している。
	自然条件と人々のくらし	自然条件に特色のある地域の暮らしや産業について、その条件と関係するものをリーフレットに整理し、紹介し合う。	【知】自然条件に特色のある地域の人々が、どのようにその条件を生かしたり克服したりしているか、的確に整理している。 【思】調べた地域の様子をもとに、自然条件と暮らしや産業との関係について考え、適切に説明している。
	米づくりの盛んな地域	米づくりに関わる人々の工夫や努力について表に整理し、これからの米づくりに関する各自の考えを発表し合う。	【思】米づくりに関する様々な変化や課題、それに関連する人々の工夫や努力などについて調べたことを総合して、米づくりを進めるうえで大切なことを考え、適切に表現している。 【態】省略
	水産業の盛んな地域	水産業に関わる人々の工夫や努力についてカードに整理・分類して、これからの水産業に関する各自の考えを発表し合う。	【思】水産業に関わる様々な人々の工夫や努力について整理したことを総合して、品質や安全性に配慮して様々な変化や課題に対応しようとしていることなどを考え、適切に表現している。 【態】省略
	これからの食料生産	食料生産に関わる人々の働きや消費と生産の関わりについてノートにまとめる。	【思】食料生産に関わる人々の働きや消費と生産の関わりなど、調べてわかったことをもとにこれからの食料生産の発展について考え、適切に表現している。 【態】省略
	自動車生産にはげむ人々	自動車生産に関わる人々の工夫や努力についてキャッチコピーで整理し、これからの自動車産業に関する各自の考えを発表し合う。	【思】自動車の生産や輸送、開発に携わる人々の工夫や努力について整理したことを総合して、社会が必要とする製品や優れた製品を消費者に届けたいこと考え、適切に表現している。 【態】省略

第6学年	日本の工業生産と貿易・運輸	貿易の流れを図に整理し、日本の貿易やそれに関わる運輸の特色や役割について話し合う。	【知】日本の輸入から輸出までのおおまかな流れを図に整理し、貿易や運輸が工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解している。 【思】調べたことをもとに、工業生産と貿易・運輸のはたらきを関連づけながら、貿易や運輸の果たす役割について考え、適切に表現している。
	日本の工業生産の今と未来	日本の工業の特色をカードに整理し、意見を交流しながら、これからの工業生産についてまとめる。	【思】調べたことを分類・整理して日本の工業生産の強みと課題を理解し、日本の工業が発展するためにどの強みを生かしていけばよいか多角的に考え、適切に表現している。 【態】省略
	情報を伝える人々とわたしたち	マスメディアに関わる人々の工夫や努力についてカードに整理し、情報を扱う上で大切なことを自分たちの生活と関連付けながら話し合う。	【知】放送局の人々の工夫や努力について整理し、マスメディアの情報が人々の生活に与える影響が大きいことや、その責任を感じ、重要な情報をより多くの人々にできるだけ速く、正確に伝えようとしていることを理解している。 【思】調べたことを根拠にして、マスメディアの情報発信における影響の大きさや責任と、自分たちの情報の受け取り方や生かし方を関連づけて考え、適切に表現している。
	くらしと情報を支える情報通信技術	ICT活用が進む暮らしや産業の様子について表などに整理し、これからの社会の情報の活用について話し合う。	【思】ICTの活用によって、誰が、どのように便利になっているかを整理し、ICT活用の進展が暮らしや産業に与える影響をメリット・デメリットの両面から考え、適切に表現している。 【態】省略
	自然災害とともに生きる	調べたことを自然災害の種類別に整理し、災害が発生しやすい国土の自然条件、災害への対策・事業と自分たちの生活との関わりについて考える。	【知】学習を表に整理し、自然災害の発生と国土の自然条件が関連していること、様々な災害から国民生活や国土を守るために国や都道府県が対策・事業を進めていることを理解している。 【思】自然災害と国土の自然条件を関連づけたり、自然災害の被害と国民生活を関連づけたりして、自然災害への対策・事業の重要性や、自然災害が多い国土で暮らし一人として取り組むべきことを考え、適切に表現している。
	森林とともに生きる	森林のはたらきや森林を守る人々の取り組みを図に整理し、森林と自分たちの生活との関わりや自分たちが協力できそうなことを考える。	【思】調べたことを整理して森林と人々の生活との密接なつながりを捉え、森林保全につながる取り組みの中で自分にも協力できそうなことを選択・判断し、意見を適切に伝え合っている。 【態】省略
	環境とともに生きる	公害防止や環境改善の取り組みを関連図に整理し、そこに見られる共通性などを話し合いながら、環境保全に大切なことを考える。	【思】調べたことを整理して公害防止や環境改善の取り組みの重要性を捉え、環境を守るために自分たちができることを考えたり、環境保全により多くの人が関わるために大切だと思うことを選択・判断したりして、意見を適切に伝え合っている。 【態】省略
	憲法とわたしたちの暮らし	暮らしと政治のつながりや三権分立のしくみを図に整理し、国民と政治の関わり方について考える。	【思】日本国憲法や政治のはたらきと自分たちの暮らしを関連付け、国民と政治のかかわりについて考え、表現している。
	わたしたちの暮らしを支える政治	人々の願いを実現する政治のしくみについて図に整理し、自分の暮らしと政治の関係について考え話し合う。	【知】人々の願いを実現する政治のしくみについて理解している。 【思】自分たちの暮らしと政治の働きのつながりについて考え、表現している。
	国づくりへの歩み	縄文時代、弥生時代、古墳時代の特徴について表にまとめ、米づくりの広まりと人々の暮らしや関係の変化から国土が統一されていった様子を考える。	【知】米づくりの広まりとともに人々の暮らしや関係が変化し、国土が統一されていったことについて理解している。 【思】米づくりの広まりと人々の暮らしや社会の変化を関連づけて考え、表現している。
	大陸に学んだ国づくり	大陸から伝わった文化と日本の国づくりについて表にまとめ、日本独自の文化がつけられたことをつかむ。	【知】天皇中心の政治体制がつくられたこと、大陸の文化を消化・吸収した日本独自の文化が発達していったことを理解している。 【思】大陸から伝わった文化と日本の国づくりを関連づけて考え、表現している。
	武士の政治が始まる	武士の政治が始まったころの出来事や幕府と御家人の関係について年表や関係図にまとめる。	【知】武士の政治が始まった経緯や幕府と御家人の関係から武士による政治の仕組を理解している。 【思】幕府と御家人との関係について考え、表現している。
	室町文化と力をつける人々	中世の産業の発達についてノートにまとめ、人々の中から現代につながる文化が生まれたことを考える。	【知】人々の暮らしや産業の変化を背景に、室町時代の文化が生まれ、現代まで受け継がれてきたことを理解している。 【思】室町時代の文化の特徴や現代まで受け継がれてきたことの意味を考え、表現する。
	全国統一への動き	信長・秀吉・家康の政治を年表にまとめ、それぞれの政治が全国統一に果たした役割について考える。	【知】信長・秀吉の後をついた家康が、どのようにして支配を固めたのかを捉え、全国が統一されて新しい時代が始まったことを理解している。 【思】3人の武将の政治を比較し、それぞれの政治が全国統一に果たした役割を考え、表現している。
	幕府の政治と人々の暮らし	幕府の政治と人々の暮らしについて年表にまとめ、幕府の政策が人々の支配にどのような影響を与えたかについて考える。	【知】江戸幕府と外国との関係を捉え、江戸幕府の政治のしくみが武士による政治を安定させたことを理解している。 【思】幕府の政策が人々の支配にどのような影響を与えたかを考え、表現している。
	新しい文化と学問	江戸時代に生まれた文化や学問について表や図、新しい時代への動きを関係図に表す。	【知】江戸時代に町人による文化や新しい学問が広まったことを理解している。 【思】江戸時代に生まれた文化や学問について社会の変化と関連付けて考え、表現している。
	明治の新しい国づくり	江戸幕府が倒れる前後のできごとを年表にまとめ、学習してきた時代のできごとや人物を関係図に表す。	【知】明治の近代化が欧米の文化を取り入れて進められたことを理解している。 【思】明治政府の改革の内容や世の中の様子の変化から、どのような国づくりが目ざされていたのかを考え、表現している。
	近代国家を目指して	学習してきた条約改正が達成されるまでのできごとを年表にまとめ、どのように条約改正が達成されたのか話し合う。	【知】明治政府の政策により社会が変化したことや産業や科学が発展したことを理解している。 【思】明治時代の政治や社会の変化と条約改正を関連付け、日本の国力や国際社会での地位の向上を考え、表現している。
	戦争と人々の暮らし	戦争と人々の暮らしについて年表にまとめ、戦争の被害や戦争中の様子から人々の暮らしに与えた影響をノートにまとめる。	【知】戦争が国内外に大きな被害を出した後に終わり、戦争が日本や他の国の人々に大きな被害を与えたことを理解している。 【思】戦争の被害や戦争中の様子から戦争が人々の暮らしに与えた影響を考え、表現している。
	平和で豊かな暮らしを目指して	戦後の社会のできごとや社会の変化をカードにまとめ、戦後の日本の政治や国民生活、国際社会での役割を考える。	【知】日本が民主的な国づくりを目指し、国際社会からの信頼を回復するとともに国民生活が向上していったが、日本と他国との間に課題も残されていることを理解している。 【思】戦後のできごとや社会の変化から、戦後の日本の政治や国民生活、国際社会での役割を考え、表現している。
	日本とつながりの深い国々	調べたことをポスターセッション形式で発表し、日本とのつながりや調べた国々と日本との違いについて考える。	【知】日本と外国とのつながりについて理解している。 【思】互いの学習成果を交流し合い、異なる文化や生活習慣を尊重し合い、交流することの大切さを考え、表現している。
	地球規模の課題の解決と国際協力	世界の平和や環境を守るために活動している組織や日本人についてまとめ「持続可能な生活目標」に示された17の項目をもとに実行したいことを理由とともに発表する。	【思】学習したことをもとに、国際社会の一員として、自分がこれからどのような行動をしていくべきか、考え、表現している。 【態】省略

Ⅳ 研究のまとめ

1 児童アンケート調査による考察

年度当初4月に実施したアンケートを再度、年度末3月に実施し、その結果を一覧にまとめ考察した。

	項目 「平成25年度学習指導要領実施状況調査」の児童質問用紙を参考に作成	3年	全国	全国差	4年	全国	全国差	5年	全国	全国差	6年	全国	全国差
		R2年3月	R1年4月	年間差	R2年3月	R1年4月	年間差	R2年3月	R1年4月	年間差	R2年3月	R1年4月	年間差 (全国と4月)
1	社会科の学習が好きだ。	70.9	—	—	77.2	58.8	◎18.4	75.7	55.2	◎20.5	※新型コロナウイルスによる臨時休校に伴い未実施	63.2	◎11.8
			—	—		75.0	2.2		68.1	7.6		75.0	
2	社会科の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役に立つ。	75.8	—	—	81.8	80.3	1.5	90.0	80.1	9.9		78.8	◎12.9
			—	—		73.9	7.9		79.2	◎10.8		91.7	
3	問題を決めてその解決のために調べたり、考えたりすることが好きだ。	82.3	—	—	80.6	66.6	◎14.0	75.7	63.3	◎12.4		66.8	◎23.5
			—	—		73.9	6.7		75.0	0.7		90.3	
4	自分で資料を集めて調べることができる。	82.3	—	—	77.2	75.2	2.0	90.0	79.4	◎10.6		85	3.9
			86.3	▼-4		73.9	3.3		73.6	◎16.4		88.9	
5	自分の考えを資料などを使って説明することができる。	69.3	—	—	75.0	61.0	◎14.0	75.7	58.6	◎17.1		62.6	◎13.8
			83.3	▼-14		65.9	9.1		52.8	◎22.9		76.4	
6	友達の意見に対して、自分の意見をもつことができる。	77.4	—	—	77.2	72.8	4.4	81.4	75.3	6.1		76.7	◎20.5
			60.1	◎17.3		72.2	5.0		66.7	◎14.7		97.2	
7	調べたことをもとに自分の考えを文章で書くことができる。	87.0	—	—	80.6	74.6	5.4	81.4	72.9	6.1		77	◎16.1
			77.2	9.8		81.8	1.2		77.8	3.6		93.1	
8	問題やテーマを決めて討論（話し合い）することが好きだ。	77.4	—	—	82.9	63.3	◎19.6	67.1	55.3	◎11.8		51.8	◎19
			63.6	◎13.8		77.3	5.6		72.2	▼-5.1		70.8	
9	学んだことをもとにして、自分たちがすべきことを考えることがある。	69.3	—	—	79.5	75.0	4.0	77.1	76.6	0.5		76.5	▼-7.1
			74.2	▼-4.9		76.1	3.4		69.4	7.7		69.4	
10	問題の解決に向けて、学習の計画を立てたり解決の見通しをもったりして学習を進めている。	74.1	—	—	82.9	—	—	74.2	—	—		—	—
			71.2	2.9		69.3	◎13.6		70.8	3.4		86.1	
11	問題の解決に向けて、学習がうまく進んでいるか自分でチェックしながら調べたりしている。	70.9	—	—	70.4	—	—	65.7	—	—		—	—
			74.2	▼-3.3		60.2	◎10.2		58.3	7.4		83.3	
12	調べたり考えたりすることがうまくいかないときにも、ちがう方法を工夫したり友達や先生に自分から相談したりしてねばり強く取り組んでいる。	74.1	—	—	72.7	—	—	71.4	—	—		—	—
			75.8	▼-1.7		71.6	1.1		63.9	7.5		79.2	

アンケートの結果から以下のように考察した。

※「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」の割合を比較 単位：%

3年：4月のアンケートは、主に生活科の学習を振り返って記述していることから比較的高い数値となっていた。年度末には自分の意見をもって話し合う取組に関する項目は向上した。問いに対して自分の意見をもって学習を進めることに重点をおいて指導を行った結果と考えられる。一方で、資料を使って説明することや資料を集めることについて難しさを感じはじめている児童もいた。3年生らしい体験的な学びとともに資料活用の技能を身に付ける指導を充実させていくことが必要である。

4年：視点を明確にした資料の選定を行ったことで、問題意識をもって資料を読み取り、話し合いが活発となった。学び合いのよさへの実感が社会科への関心を高めたと考える。4月に比べて、問題解決への見通しや学習調整に関する項目で数値が大きく向上した。学び方カードを使用した振り返りを継続的に行ってきたことで、学習の進め方を意識し次時への意欲を継続することができたと考える。

5年：「自分の考えを資料を使って説明することができる」の項目で大きく改善が見られた。調べる過程で使う資料を明確にし、調べたことをもとに考えをまとめる活動を重視した結果と考えられる。一方で、話し合いに対する意欲に課題がある。児童が話し合いの良さを自覚できるように指導する必要がある。

6年：アンケートが実施できず年間差の考察はできなかったが、4月時点で問題解決的な学習への意欲が90%と高い一方、「学んだことをもとに自分がすべきことを考える」項目は約70%と低かった。学んだことと社会生活とのつながりを意識できるような学習活動を工夫していくことが重要である。

○社会科が好き、問題解決を通して考えることが好きと回答する児童の割合が比較的高く、教材開発や資料選定、学習活動や問いを工夫して授業づくりをした成果と考える。

○自分の意見をもち書くことができることの数値はどの学年でも向上している。じぶんタイムを設定することが有効であったと考える。

○学習の計画を立てたり解決の見通しをもったりして学習を進めていることの数値はどの学年でも向上している。「学び方カード」を活用して学習の進め方を児童自身に意識化させることが有効だったと考える。

●学んだことをもとにすべきことを考える指導の工夫や社会科入門期の3年生での資料活用の技能や学習の進め方について丁寧に指導していく必要があることが再確認できた。

2 今年度の研究のまとめ

(1) 研究内容について

①社会的事象の見方・考え方を働かせることができる教材開発

- 学習指導要領及び解説の記述内容を基に「枠組みから見た位置付け」「指導内容の構造」について学校で開発したフレームワークを活用して、指導内容の位置づけや構造を明らかにできた。
- 単元の指導内容を明確にしたことで、単元指導計画や1単位時間で学ぶ視点や内容が明確になり、学習のねらいを適切に立てる際に役立った。
- フレームワークによる分析は、学習指導要領及び解説の記述内容の読み込みが欠かせず、一定の作成時間を要する。

②学習課題を協働的に追究して学びを深める学習活動の工夫

- 1単位時間の展開の中に、「みんなタイム」を位置付けた授業設計をしてきたことで、児童相互の学び合いの質が高まってきた。
- 社会で活躍する人々と関わって追究する対話的な学びのポイントが明らかになった。
- 「みんなタイム」の質を高めていくためには、話し合いの「問い」と「話し合い」のスキルアップが必要である。

③児童の学びが深める問題解決的な学習過程と「問い」の構成の工夫

- 指導内容の構造を明らかにする際に、主な「問い」を「社会的事象の見方・考え方」や「知識」「資料」と関連付けて分析することで教師の側から「問い」について吟味することができた。
- 「問い」が、教師の一方的な提示で終わったり、児童の実態と離れて難しくなったりしないようにする必要がある。

④児童の主体的に学習に取り組む態度の育成方法と学習状況の評価の工夫

- 単元展開における評価場面の焦点化と評価のための「問い」や学習活動の必要性が明らかになった。
- 主体的に学習に取り組む態度の要素を分析し、問題解決的な学習の過程での育成場面を整理した。「学び方カード」を活用して児童が問題解決的な学習に主体的に関わる姿が見られた。
- 1単位時間での授業における教師の働きかけ方を整理することができた。

学習過程	教師の有効と思われる働きかけ
問いをつかむ	・本時に学習することについて児童に発問して発言させる。 ・学習計画を振り返り本時に学習することの見通しをもたせる。 ・資料を提示して本時の「問い」について調べることを焦点化する。
じぶんタイム	・一人一人が調べたり考えたりできるように時間を保障する。 ・調べやすい資料の配布、考えが書きやすいようなワークシートなどを工夫する。 ・十分時間が取れない場合には、宿題など家庭学習で事前に取り組めるようにする。
みんなタイム	・「問い」や話し合いの目的を児童一人一人が意識できるようにする。 ・一人一人が発言したり意見表明したりできるように学習活動を工夫する。 ・板書やノート記入などを通して、学習の道筋を振り返ることができるようにする。 ・調べる事項や方法を自分で決めたり選んだりして追究する時間や教室環境を整える。
ふりかえりタイム	・「問い」について、分かったことや考え合ったことのまとめを自分で考えて記入する。 ・「学び方カード」の項目について振り返り、できたことをチェックする。 ・学習過程の段階ごとに、自分の学び方をふり返り、「学び方カード」に記述する。

- 評価に関しては、単元のまとめの作品の分析（知識・技能）やノートの記述の分析（知識・技能、思考・判断・表現）を発達段階に応じながら分析する手法をより考える必要がある。

(2) 専科部会の取組について

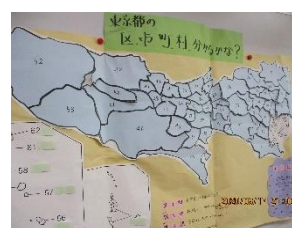
専科部会では、学年ごとに社会科の基礎的な知識の定着を図る掲示物の作成を進めた。



【地図記号】



【新宿区の地図】



【東京都の地図】



【歴史人物】

(3) 今年度の課題と次年度に向けての改善案

- ◆今年度実践できなかった新教材の開発と授業づくりの手立てと評価方法の検証
- ◆主体的に学習に取り組む態度の育成方法とその評価方法
- ◆2年間を通した児童アンケート調査の実施及び比較分析と研究成果の発信

おわりに

副校長 岩澤 肇

本校は、令和元年度と２年度の２年間、国立教育政策研究所教育課程研究指定校（小学校社会科）として研究に取り組んでおります。

令和２年度より小学校学習指導要領が全面実施となり、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善が求められている中で、本校では研究主題を「社会的事象の見方・考え方を働かせて、学習問題を協動的に追究する社会科学習～主体的に学習に取り組む態度の育成を踏まえた指導と評価の工夫を通して～」とし、全学年で研究授業を行い、全職員一丸となって研究に取り組んでまいりました。研究は半ばではありますが、国立教育政策研究所での中間報告会も終え、この一年間の成果をここにとりまとめることができました。この研究を進める過程で、新しい教材の開発、教師の授業力の向上と、そして何より子どもたちの主体的に学習に取り組む態度の向上が進められてきたと感じています。

この一年間、聖徳大学院教授 廣嶋憲一郎先生と文部科学省教科調査官 小倉勝登先生、国士舘大学体育学部教授 澤井陽介先生、そして新宿区教育委員会教育指導課の皆様には、何度も足をお運びいただき、貴重な御指導、御示唆をいただきました。この場を借りて、心より御礼申し上げます。

来年度はさらに、ここまでご指導いただいたことをしっかりと受け止め、研究を進めていく所存でございます。令和２年２月には研究発表会を行い、その成果を発表できるよう準備を進めて参ります。今後も各教員が研究の成果を実感し、児童一人一人に「主体的・対話的で深い学び」のある授業を行っていきけるよう、努力を継続していきます。

<研究に携わった教職員>

校長 石井 正広

副校長 岩澤 肇

1年1組	◇城堂 陽子	5年1組	大橋 英之	事務	宮島 砂織
2組	首藤 祥野	2組	◇菊地 めぐみ	栄養士	齋藤 愛
3組	舟山 貴博	6年1組	瀧上 悠太	学習指導支援員	古川 恵子
2年1組	高瀬 まどか	2組	◇木月 康二	特別支援教室専門員	岡本 敏子
2組	◇大木 雅也	算数	◇松木 貫太	用務	青柳 潤
3組	菅田 恵理子	音楽	◇山下 恵理		新田 茂
3年1組	◎柳沼 麻美	図工	飯野 玲子		伴 有子
2組	白澤 恵梨香	養護	松本 真美加		加藤 美幸
4年1組	◇大島 なぎさ	非常勤職員	川口 ゆかり		
2組	串崎 広和		貞森 裕子		
3組	◇本木 綾子		辻本 啓子		
			小林 裕子		

今年度途中で産休に入った職員 ◇塚田麻衣

育休の職員 長田英恵

◎ 研究推進委員長

◇ 研究推進委員

